

8 耐震 改修 工事	(一般事項) ① 適用範囲	<p>①改修標準仕様書 第8章 耐震改修工事</p> <p>②改修標準仕様書において第8章耐震改修工事以外の改修工事で第8章を引用している部分</p> <p>工事内容</p> <p>③現場打ち鉄筋コンクリート 壁の増設工事</p> <p>・鉄骨ブレースの設置工事</p> <p>④柱補強工事</p> <p>・柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)</p> <p>・柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き工法)</p> <p>・柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き工法)</p> <p>・アウトフレーム新設工事</p> <p>・耐震スリット新設工事</p> <p>⑤スラブ下増打補強工事</p> <p>・制震改修工事</p> <p>・外付けフレーム新設工事</p>	6 機械式継手 [8.4.2]	<p>適用箇所</p> <p>・ 図示による() ・ 施工時に選定し、監理者の承認を受けること</p> <p>H2 建第 1463 号に適合する性能</p> <p>・ A級</p> <p>機械式継手の種類</p> <p>・ 図示による() ・</p>	9 無筋 コンクリート [8.11.1]	<p>混和材料</p> <p>・ 混和剤の種類</p> <p>・ 混和剤の種類 ※ 標準仕様書 6.13.2(2) (記による)</p> <p>・ 混和剤</p> <p>・ 混和剤の種類 ※ 標準仕様書 6.13.2(2) (記による)</p> <p>スランプ ※ 18mm</p> <p>構造体強度補正值 ※ 標準仕様書表 6.13.11による</p>	(鉄骨) 1 鉄骨製作工場 [8.1.5]	<p>鉄骨製作場の加工能力</p> <p>※ 建築基準法第 77条の58に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国建築工業協会)の「鉄骨製作場の性能評価基準」に定める(J)グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場</p> <p>・ 監督職員の承諾する工場</p>																																											
	② 既存部分の 処理等 [8.21.2~3][8.22.2~3][8.23.2~3][8.24.4][8.25.2][8.28.2]	<p>既存構造体の撤去</p> <p>撤去範囲</p> <p>① 図示による() ・</p> <p>はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置</p> <p>② 図示による() ・</p> <p>既存構造体コンクリート 面の目荒らしの程度及び範囲</p> <p>③ 既存柱、梁面</p> <p>○ 打継ぎ面の 15~30%程度に、平均深さ 2~5mm (最大7mm) 程度の凸凹を全体にわたってつける</p> <p>・</p> <p>○ 既存壁</p> <p>○ 打継ぎ面の 10~15%程度に、平均深さ 2~5mm (最大7mm) 程度の凸凹を全体にわたってつける</p> <p>・</p> <p>既存柱の撤去等</p> <p>・ 撤去範囲及び撤去方法 図示による() ・</p> <p>・ 杭頭部の処理 図示による() ・</p> <p>・ 既存杭の補強 図示による() ・</p> <p>・ 既存杭の健全性を確認する試験</p> <p>・ 行う 図示による() ・</p> <p>・ 行わない</p>	7 溶接継手 [8.4.3]	<p>適用箇所</p> <p>○ 図示による(フレア溶接) ・</p> <p>H2 建第 1463 号に適合する性能</p> <p>・ A級</p> <p>溶接継手の工法</p> <p>・ 図示による()</p>	10 流動化 コンクリート (8.15.1)	<p>コンクリートの種類 ※普通コンクリート</p> <p>設計基準強度 ※18 (N/mm²)</p> <p>スランプ ※cm又は 18cm</p> <p>セメントの種類</p> <p>※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種、又はフライアッシュセメントA種</p> <p>・ 高炉セメントB種 □</p> <p>・ フライアッシュセメントB種 □</p> <p>適用箇所 図示による()</p>	2 鉄骨製作工場 における施工管理 技術者 [8.1.6]	<p>・ 配置する ・ 配置しない</p>																																											
③ 鉄筋	鉄筋の種類等 [8.2.1]	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ S1025</td> <td>※D16 以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ S1045</td> <td>※D19 以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ S1235</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	○ S1025	※D16 以下		○ S1045	※D19 以上		○ S1235			⑧ 割製補強筋 [8.21.6][8.22.7]	11 打継ぎの位置 ひび割れ誘発目地、 打継目地 (6.6.4)(6.8.1)	<p>打継ぎの位置 図示による()</p> <p>目地寸法</p> <p>○ 標準仕様書 9.7.3(1)(ウ)による 図示による()</p> <p>ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法</p> <p>・ 図示による() ・</p>	3 鋼材 [8.2.8]	<p>種類等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所(主要な部分)</th> <th>規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SS400 級</td> <td>鋼板、鉛直ブレース</td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS規格による</td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格	SS400 級	鋼板、鉛直ブレース	※JIS規格による			※JIS規格による			※JIS規格による			※JIS規格による																	
		種類の記号	呼び径 (mm)	備考																																															
○ S1025	※D16 以下																																																		
○ S1045	※D19 以上																																																		
○ S1235																																																			
種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格																																																	
SS400 級	鋼板、鉛直ブレース	※JIS規格による																																																	
		※JIS規格による																																																	
		※JIS規格による																																																	
		※JIS規格による																																																	
④ 鉄筋のかぶり 厚さ及び間隔 溶接金網含む [8.3.4][8.4.2~8.4.3]	<p>鉄筋の形状等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>鉄筋の形状、網目の形状、寸法、鉄筋の径 (mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>鉄筋の継手の方法等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th> <th>継手方法</th> <th>呼び径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>○ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手</td> <td>D19 以上</td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>○重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の鉄筋 (割製補強筋)</td> <td>○重ね継手</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>継手位置</p> <p>○ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 5.1.6.1.7.1.7.3.8.1</p> <p>柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ</p> <p>○ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図)表 3.2) ・</p> <p>耐力壁の重ね継手の長さ</p> <p>○ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図)表 3.2) ・</p> <p>鉄筋の定着の長さ</p> <p>○ 図示による(構造関係共通図(配筋標準図) 3(b)) ・</p>	種類	種類の記号	鉄筋の形状、網目の形状、寸法、鉄筋の径 (mm)	使用部位	・ 溶接金網				・ 鉄筋格子				部 位	継手方法	呼び径 (mm)	柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手	D19 以上	耐力壁の鉄筋	○重ね継手		その他の鉄筋 (割製補強筋)	○重ね継手		⑨ コンクリートの 種類 [8.1.3]	<p>コンクリートの種類</p> <p>※ I 類(JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)</p> <p>・ II類(JIS A 5308に適合したコンクリート)</p>	4 高力ボルト [8.2.9][8.13.2][8.14.2]	<p>高力ボルトの区分</p> <p>・ トルシア形高力ボルト</p> <p>・ JIS形高力ボルト</p> <p>・</p> <p>ボルトの継端距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>・ 図示による() ・</p> <p>摩耗面の処理方法</p> <p>・ 自然発錆(鋼皮等を除去した後に自然放置して表面に赤錆が発生した状態)</p> <p>・ プラスト処理(表面粗度 50µmR 以上)</p> <p>・</p> <p>すべり試験の実施</p> <p>・ すべり係数試験 ・ すべり耐力試験</p> <p>すべり試験において、対比試験片を作成し、摩耗面の処理状況を確認する</p>																						
種類	種類の記号	鉄筋の形状、網目の形状、寸法、鉄筋の径 (mm)	使用部位																																																
・ 溶接金網																																																			
・ 鉄筋格子																																																			
部 位	継手方法	呼び径 (mm)																																																	
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手	D19 以上																																																	
耐力壁の鉄筋	○重ね継手																																																		
その他の鉄筋 (割製補強筋)	○重ね継手																																																		
⑤ 圧接完了後の 圧接部の試験 [8.3.8]	<p>超音波探傷試験</p> <p>※ 行う (全圧接部)</p>	⑩ コンクリートの 気乾単位容積質量 による種類 [8.1.3~4][8.2.5][8.9.2]	<p>○普通コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○24</td> <td>18</td> <td>○2程度</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※ 改修工事標準仕様書表 8.2.9による</p> <p>・ 軽量コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>※ 21</td> <td>・</td> <td>・ 1種 ・ 2種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※ 改修工事標準仕様書表 8.2.9による</p> <p>○高強度コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランプ フロー (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 39</td> <td>○ 60</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※ コンクリート工場によること</p>	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所	○24	18	○2程度		設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所	・	※ 21	・	・ 1種 ・ 2種		設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ フロー (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所	○ 39	○ 60	・			12 構造体コン クリートの仕上り [8.1.4]	<p>合板せき板を用いるコンクリートの打直し仕上げ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ C種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>コンクリートの仕上りの平たんさ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ a種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ b種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ c種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種 別	適用箇所	・ A種		・ B種		・ C種		種 別	適用箇所	・ a種		・ b種		・ c種		5 普通ボルト [8.13.2](7.2.3)	<p>ボルト及びナットの材料</p> <p>・ 標準仕様書表 7.2.3 JIS 附属書品)又は次による。</p> <p>ボルトの規格は、JIS B 1180 とする。</p> <p>ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし材料は鋼とする。</p> <p>ボルトの強度区分は、4.6又は4.8の鋼製とする。</p> <p>なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ねじの呼び径の値以下とする。</p> <p>ナットの規格は、JIS B 1180 とする。</p> <p>ナットの種類は、六角ナットとし、材料は鋼とする。</p> <p>座金</p> <p>ボルトの継端距離、ボルト間隔、ゲージ等</p> <p>・ 図示による() ・</p> <p>母屋又は鋼線の取付けに使用するボルトの孔径</p> <p>※ ねじの呼び径 +1.0mm</p>
設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所																																																
○24	18	○2程度																																																	
設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所																																															
・	※ 21	・	・ 1種 ・ 2種																																																
設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ フロー (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所																																															
○ 39	○ 60	・																																																	
種 別	適用箇所																																																		
・ A種																																																			
・ B種																																																			
・ C種																																																			
種 別	適用箇所																																																		
・ a種																																																			
・ b種																																																			
・ c種																																																			
⑥ 圧接完了後の 圧接部の試験 [8.3.8]	<p>超音波探傷試験</p> <p>※ 行う (全圧接部)</p>	⑪ セメント [8.2.5]	<p>種類</p> <p>※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種(普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規程の他、水和熱が 7日目で 352 J/g 以下、かつ 28日目で 402 J/g 以下のものとする)</p> <p>適用箇所()</p> <p>・ 高炉セメントB種 □</p> <p>適用箇所()</p> <p>・ フライアッシュセメントB種 □</p> <p>適用箇所()</p>	13 打増し厚さ 打直し仕上げ部 [8.7.6]	<p>・ 打直し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る)</p> <p>・ 20mm</p> <p>・ 打直し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る)</p> <p>・ 20mm</p>	⑫ 型枠 [8.2.7](6.8.2)	<p>せき板の材料及び厚さ</p> <p>○ 合板(※ 12mm) □</p> <p>・</p> <p>・ 断熱材を兼用した型枠材</p> <p>使用箇所 図示による() ・</p> <p>・ MCR 工法用シート</p> <p>使用箇所 図示による() ・</p> <p>打増し厚さ ・ 20mm</p> <p>打増し範囲 図示による() ・</p> <p>スリーブの材質・規格等 () ・</p>	⑬ 型枠の加工 及び組立 [8.7.8]	<p>シアコネクタをセパレータとして使用</p> <p>使用箇所 図示による() ・</p>																																										
⑦ 圧接完了後の 圧接部の試験 [8.3.8]	<p>超音波探傷試験</p> <p>※ 行う (全圧接部)</p>	⑫ 骨 材 [8.2.5]	<p>アルカリシリカ反応性による区分</p> <p>※ A ・ B</p>	14 打増し厚さ 打直し仕上げ部 [8.7.6]	<p>コンクリートの打設工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工事</th> <th>工法の種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○現場打ち</td> <td>○工法指定なし</td> <td>○全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>壁の増設工事</td> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>○鉄筋コン クリートの補強</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>○工法指定なし</th> <th>○全ての柱補強部分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 図示による()</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 工法指定なし</p> <p>・ 流込み工法</p> <p>8.21.8(1)(7),(2)</p> <p>・ 圧入工法</p> <p>8.21.8(1)(4),(3)</p>	補強工事	工法の種類	適用箇所	○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()	コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()	壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)			・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()		8.21.8(1)(4),(3)			・	・ 図示による()	○工法指定なし	○全ての柱補強部分	・ 図示による()	・ 図示による()	・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()	・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()	・	・ 図示による()	⑭ コンクリートの 打込み工法等 [8.21.8][8.22.4~7]	<p>鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等</p> <p>柱頭及び柱脚の隙間の寸法 図示による() ・</p> <p>柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む</p> <p>既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ</p> <p>・ 図示による() ・</p> <p>補強後の仕上げ 図示による() ・</p>									
補強工事	工法の種類	適用箇所																																																	
○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()																																																	
コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)																																																		
	・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
	8.21.8(1)(4),(3)																																																		
	・	・ 図示による()																																																	
○工法指定なし	○全ての柱補強部分																																																		
・ 図示による()	・ 図示による()																																																		
・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()																																																		
・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()																																																		
・	・ 図示による()																																																		
⑧ 圧接完了後の 圧接部の試験 [8.3.8]	<p>超音波探傷試験</p> <p>※ 行う (全圧接部)</p>	⑬ 混和材料 [8.2.5]	<p>○混和剤</p> <p>混和剤の種類 ※ 改修標準仕様書 8.2.5(4) (記による)</p> <p>・ 混和剤</p> <p>混和剤の種類 ※ 改修標準仕様書 8.2.5(4) (記による)</p>	15 打増し厚さ 打直し仕上げ部 [8.7.6]	<p>・ 打直し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る)</p> <p>・ 20mm</p> <p>・ 打直し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る)</p> <p>・ 20mm</p>	⑮ コンクリートの 打込み工法等 [8.21.8][8.22.4~7]	<p>コンクリートの打設工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工事</th> <th>工法の種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○現場打ち</td> <td>○工法指定なし</td> <td>○全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>壁の増設工事</td> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>○鉄筋コン クリートの補強</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>○工法指定なし</th> <th>○全ての柱補強部分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 図示による()</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 工法指定なし</p> <p>・ 流込み工法</p> <p>8.21.8(1)(7),(2)</p> <p>・ 圧入工法</p> <p>8.21.8(1)(4),(3)</p>	補強工事	工法の種類	適用箇所	○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()	コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()	壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)			・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()		8.21.8(1)(4),(3)			・	・ 図示による()	○工法指定なし	○全ての柱補強部分	・ 図示による()	・ 図示による()	・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()	・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()	・	・ 図示による()									
補強工事	工法の種類	適用箇所																																																	
○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()																																																	
コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)																																																		
	・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
	8.21.8(1)(4),(3)																																																		
	・	・ 図示による()																																																	
○工法指定なし	○全ての柱補強部分																																																		
・ 図示による()	・ 図示による()																																																		
・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()																																																		
・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()																																																		
・	・ 図示による()																																																		
⑨ 圧接完了後の 圧接部の試験 [8.3.8]	<p>超音波探傷試験</p> <p>※ 行う (全圧接部)</p>	⑭ 骨 材 [8.2.5]	<p>アルカリシリカ反応性による区分</p> <p>※ A ・ B</p>	16 打増し厚さ 打直し仕上げ部 [8.7.6]	<p>コンクリートの打設工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工事</th> <th>工法の種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○現場打ち</td> <td>○工法指定なし</td> <td>○全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>壁の増設工事</td> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>○鉄筋コン クリートの補強</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>○工法指定なし</th> <th>○全ての柱補強部分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 図示による()</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 工法指定なし</p> <p>・ 流込み工法</p> <p>8.21.8(1)(7),(2)</p> <p>・ 圧入工法</p> <p>8.21.8(1)(4),(3)</p>	補強工事	工法の種類	適用箇所	○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()	コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()	壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)			・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()		8.21.8(1)(4),(3)			・	・ 図示による()	○工法指定なし	○全ての柱補強部分	・ 図示による()	・ 図示による()	・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()	・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()	・	・ 図示による()											
補強工事	工法の種類	適用箇所																																																	
○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()																																																	
コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)																																																		
	・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
	8.21.8(1)(4),(3)																																																		
	・	・ 図示による()																																																	
○工法指定なし	○全ての柱補強部分																																																		
・ 図示による()	・ 図示による()																																																		
・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()																																																		
・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()																																																		
・	・ 図示による()																																																		
⑩ 圧接完了後の 圧接部の試験 [8.3.8]	<p>超音波探傷試験</p> <p>※ 行う (全圧接部)</p>	⑮ 構造体用 モルタル [8.2.6]	<p>図面番号AT-07のとおり</p> <p>構造体用モルタル</p> <p>圧縮強度()</p> <p>フロー値()</p>	17 打増し厚さ 打直し仕上げ部 [8.7.6]	<p>コンクリートの打設工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工事</th> <th>工法の種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○現場打ち</td> <td>○工法指定なし</td> <td>○全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>壁の増設工事</td> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>○鉄筋コン クリートの補強</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>○工法指定なし</th> <th>○全ての柱補強部分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 図示による()</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 工法指定なし</p> <p>・ 流込み工法</p> <p>8.21.8(1)(7),(2)</p> <p>・ 圧入工法</p> <p>8.21.8(1)(4),(3)</p>	補強工事	工法の種類	適用箇所	○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()	コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()	壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)			・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()		8.21.8(1)(4),(3)			・	・ 図示による()	○工法指定なし	○全ての柱補強部分	・ 図示による()	・ 図示による()	・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()	・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()	・	・ 図示による()											
補強工事	工法の種類	適用箇所																																																	
○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()																																																	
コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)																																																		
	・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
	8.21.8(1)(4),(3)																																																		
	・	・ 図示による()																																																	
○工法指定なし	○全ての柱補強部分																																																		
・ 図示による()	・ 図示による()																																																		
・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()																																																		
・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()																																																		
・	・ 図示による()																																																		
⑪ 圧接完了後の 圧接部の試験 [8.3.8]	<p>超音波探傷試験</p> <p>※ 行う (全圧接部)</p>	⑯ 骨 材 [8.2.5]	<p>アルカリシリカ反応性による区分</p> <p>※ A ・ B</p>	18 打増し厚さ 打直し仕上げ部 [8.7.6]	<p>コンクリートの打設工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工事</th> <th>工法の種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○現場打ち</td> <td>○工法指定なし</td> <td>○全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>壁の増設工事</td> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>○鉄筋コン クリートの補強</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>○工法指定なし</th> <th>○全ての柱補強部分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 図示による()</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 工法指定なし</p> <p>・ 流込み工法</p> <p>8.21.8(1)(7),(2)</p> <p>・ 圧入工法</p> <p>8.21.8(1)(4),(3)</p>	補強工事	工法の種類	適用箇所	○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()	コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()	壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)			・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()		8.21.8(1)(4),(3)			・	・ 図示による()	○工法指定なし	○全ての柱補強部分	・ 図示による()	・ 図示による()	・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()	・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()	・	・ 図示による()											
補強工事	工法の種類	適用箇所																																																	
○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()																																																	
コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)																																																		
	・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
	8.21.8(1)(4),(3)																																																		
	・	・ 図示による()																																																	
○工法指定なし	○全ての柱補強部分																																																		
・ 図示による()	・ 図示による()																																																		
・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()																																																		
・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()																																																		
・	・ 図示による()																																																		
⑫ 圧接完了後の 圧接部の試験 [8.3.8]	<p>超音波探傷試験</p> <p>※ 行う (全圧接部)</p>	⑰ 骨 材 [8.2.5]	<p>アルカリシリカ反応性による区分</p> <p>※ A ・ B</p>	19 打増し厚さ 打直し仕上げ部 [8.7.6]	<p>コンクリートの打設工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工事</th> <th>工法の種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○現場打ち</td> <td>○工法指定なし</td> <td>○全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td>壁の増設工事</td> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての増設壁 図示による()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>○鉄筋コン クリートの補強</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>○工法指定なし</th> <th>○全ての柱補強部分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 図示による()</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(7),(2)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・ 圧入工法</td> <td>・ 全ての柱補強部分</td> </tr> <tr> <td>8.21.8(1)(4),(3)</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 図示による()</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 工法指定なし</p> <p>・ 流込み工法</p> <p>8.21.8(1)(7),(2)</p> <p>・ 圧入工法</p> <p>8.21.8(1)(4),(3)</p>	補強工事	工法の種類	適用箇所	○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()	コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()	壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)			・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()		8.21.8(1)(4),(3)			・	・ 図示による()	○工法指定なし	○全ての柱補強部分	・ 図示による()	・ 図示による()	・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()	・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分	8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()	・	・ 図示による()											
補強工事	工法の種類	適用箇所																																																	
○現場打ち	○工法指定なし	○全ての増設壁 図示による()																																																	
コンクリート	・ 流込み工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
壁の増設工事	8.21.8(1)(7),(2)																																																		
	・ 圧入工法	・ 全ての増設壁 図示による()																																																	
	8.21.8(1)(4),(3)																																																		
	・	・ 図示による()																																																	
○工法指定なし	○全ての柱補強部分																																																		
・ 図示による()	・ 図示による()																																																		
・ 流込み工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(7),(2)	・ 図示による()																																																		
・ 圧入工法	・ 全ての柱補強部分																																																		
8.21.8(1)(4),(3)	・ 図示による()																																																		
・	・ 図示による()																																																		

<p>6 溶融亜鉛めっき高力ボルト</p> <p>ボルトの溶融距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による() ・摩擦面の処理方法 ・プラスト処理(表面粗度 50μm以上) ・りん酸塩処理 ・ すべり試験の実施 ・すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験において、対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する</p>	<p>[8.13.2][8.14.2][8.20.5]</p>	<p>16 錆止め塗装</p> <p>塗料の範囲 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による() 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・図示による() 塗料の種類 ・鉄鋼面の錆止め塗料の種類 屋外 ・A種 屋内 ・A種 ・亜鉛めっき面の錆止め塗料の種類 塗料の種類 ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類</p>	<p>[7.3.3][8.17.2.4]</p>	<p>〈グラウト工事〉 ① 柱底均しモルタル及びグラウト材</p>	<p>[8.2.12]</p> <p>・柱底均しモルタル ※無収縮モルタル ・ ○グラウト材 無収縮グラウト材の材質等 混和材 セメント系(酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。 セメント JIS R 5210「ボルトランドセメント」に適合した普通または早強ボルトランドセメントとする。 砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。</p> <p>無収縮グラウト材の品質及び試験方法 コンシステンシー Jロートによる落下時間 シー 練混ぜ完了から 3分以内の値 : 8±2秒 ブリージング 練り混ぜ 2時間後のブリーディング率 : 2.0%以下 凝結時間 凝結開始時間 : 1時間以上 終結時間 : 10時間以内 無収縮性 材齢 7日 収縮しない 圧縮強度 材齢 3日 20.0 N/mm²以上 材齢 28日 40.0 N/mm²以上 塩化物量 0.30kg/m³以下 試験方法 1) NEDD 試験方法 試験法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、「JSA 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。</p>																																						
<p>7 アンカーボルト</p> <p>・構造用アンカーボルト 種類 ・AR 400 ・AR 450 ・建方用アンカーボルト 種類 ・SS 400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度</p>	<p>(7.2.4)(7.3.2)(7.10.3)</p>	<p>17 耐火被覆</p> <p>種類、材料、工法等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能(耐火時間)</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">耐火材吹付け</td> <td>・乾式吹付け ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・半乾式吹付け ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">耐火板張り</td> <td>・繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火材巻付け</td> <td>・高断熱ウレタン</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ラス張り</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>モルタル塗り</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火塗料</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)	耐火材吹付け	・乾式吹付け ロックウール			・半乾式吹付け ロックウール			・湿式ロックウール			耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板			・			耐火材巻付け	・高断熱ウレタン			ラス張り	-			モルタル塗り	-			耐火塗料	-			<p>[8.18.2~8]</p>	<p>〈連続繊維補強工事〉 1 連続繊維シート 巻き</p>	<p>[8.2.13][8.24.6]</p> <p>連続繊維の材質 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 引張強度(含浸硬化後) ・(N/mm²) ヤング係数(含浸硬化後) ・(N/mm²) ・下地調整 ・ひび割れ部改修 範囲 ・図示による() 種類 ・ ・柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ 図示による() 連続繊維補強材の強度試験 ・引張強度試験 ※ JSA 1191(コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法)による ・試験数量 ・図示による() ・付着強度試験 ※ JSA 6909(建築用土塗材)による ・試験数量 ・図示による()</p>	
種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)																																								
耐火材吹付け	・乾式吹付け ロックウール																																										
	・半乾式吹付け ロックウール																																										
	・湿式ロックウール																																										
耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板																																										
	・																																										
耐火材巻付け	・高断熱ウレタン																																										
ラス張り	-																																										
モルタル塗り	-																																										
耐火塗料	-																																										
<p>8 溶接材料</p> <p>溶接材料 ・改修標準仕様書 8.2.10(1)による</p>	<p>[8.2.10]</p>	<p>18 アンカーボルトの設置等</p> <p>構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ・図示による() 構造用アンカープレームの形状及び寸法 ・図示による() 建方用アンカーボルトの形状及び寸法 ・図示による() 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種類 ・A種 ・B種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類 厚さ ・ 種類 ※A</p>	<p>(7.10.3)</p>	<p>2 仕上げ</p>	<p>[8.24.7]</p> <p>補強工事後の仕上げ ・図示による()</p>																																						
<p>9 スタッド</p> <p>種類等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ(mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・19</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・22</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所	・16			・19			・22			<p>[8.2.11]</p>	<p>〈あと施工アンカー〉 ① あと施工アンカー</p> <p>材料等 ・金属系アンカー ・引張耐力 ・ KN 図示による() ・せん断耐力 ・ KN 図示による() アンカー本体の径及び埋込み長さ ・図示による() セット方式 ※本体打込み改良型 接合筋の種類、径、長さ ・図示による() ・性能確認試験 試験方法及び試験数 図示による() ○接着系アンカー ○引張耐力 ○D10: 9.8kN D13: 16.2kN D16: 24.6kN D19: 34.8kN D22: 53.8kN ・図示による() ・せん断耐力 ・ KN 図示による() アンカーの種類 ※カプセル方式回転・打撃式 ・注入方式カートリッジ型 接着剤の品質 ○有機系 ・無機系 アンカー筋の径及び埋込み長さ ○図示による(「耐震改修共通事項」アンカー関係共通事項) ・ アンカー筋の種類 アンカー筋の新設壁内への定着の長さ ○図示による(「耐震改修共通事項」アンカー関係共通事項) ・ ・性能確認試験 試験方法及び試験数 図示による()</p>	<p>[8.2.4]</p>	<p>2 仕上げ</p>	<p>[8.25.2]</p> <p>方式 ・完全 ・部分 幅及び深さ ・図示による(補強詳細図) 設置箇所 ・図示による(伏図、軸組図)</p>																										
呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所																																									
・16																																											
・19																																											
・22																																											
<p>10 製作精度</p> <p>鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6「鉄骨精度検査基準」に加えて、次による 差しダイヤグラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※H2 建告第 1464 号第二号 イ(2)による アンダーカットの寸法 ※H2 建告第 1464 号第二号 イ(3)による 食い違い、仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い、仕口のずれの検査・補強マニュアル」による</p>	<p>[8.13.3]</p>	<p>② 穿孔</p>	<p>[8.12.4]</p>	<p>3 スリットの充填材の挿入及び周囲補修等</p>	<p>[8.25.2]</p> <p>耐火材 使用箇所及び仕様 ・図示による() ・遮音材 使用箇所及び仕様 ・図示による() 撤去部の補修 ※撤去材と同一材で補修</p>																																						
<p>11 仮組</p> <p>仮組を行う範囲 ・図示による()</p>	<p>[8.13.10]</p>	<p>③ 施工確認試験</p>	<p>[8.12.7]</p>	<p>3 スリットの充填材の挿入及び周囲補修等</p>	<p>[8.25.2]</p>																																						
<p>12 溶接作業者の技量付加試験</p> <p>試験の要領 ・図示による()</p>	<p>[8.15.3]</p>	<p>埋込み配管等の検査方法 ○鉄筋探査機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる</p>	<p>[8.12.4]</p>	<p>3 スリットの充填材の挿入及び周囲補修等</p>	<p>[8.25.2]</p>																																						
<p>13 溶接接合</p> <p>開先の形状 ・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図) 1 -2 溶接継手の種類別開先標準) ・エンドタブの切断する部分 切断する箇所 ・図示による() 切断範囲 ・エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から 5mm 以下を残して直線上に切断する。 なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する 切断面の仕上げ ・改修標準仕様書 8.15.7(1)(a)による ・スカラップの形状 図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図) 1 -4 (d) 改良スカラップ)</p>	<p>[8.15.4.7]</p>	<p>埋込み配管等の検査方法 ○鉄筋探査機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる</p>	<p>[8.12.7]</p>	<p>3 スリットの充填材の挿入及び周囲補修等</p>	<p>[8.25.2]</p>																																						
<p>14 入熱、バス間温度の管理</p> <p>鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図) 1 -4 (e)) 適用箇所 ・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図) 1 -4 (g)) ・柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部</p>	<p>[8.15.12]</p>	<p>埋込み配管等の検査方法 ○鉄筋探査機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる</p>	<p>[8.12.7]</p>	<p>3 スリットの充填材の挿入及び周囲補修等</p>	<p>[8.25.2]</p>																																						
<p>15 溶接部の試験</p> <p>平 12 建告第 1464 号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」 3.5.2 受入れ検査による ※抜き取り検査(抜き取り検査) JASS 6 付則 6「鉄骨精度検査基準」の付表 3「溶接」に関する試験方法等 ・JASS 6 10.4「受入検査」e「溶接部の外観検査」(1)から(5)までによる。 ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不台格箇所は、すべて標準仕様書 7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・工場溶接の場合 ※全数 ・工事現場溶接の場合 ※全数</p>	<p>[8.15.12]</p>	<p>埋込み配管等の検査方法 ○鉄筋探査機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる</p>	<p>[8.12.7]</p>	<p>3 スリットの充填材の挿入及び周囲補修等</p>	<p>[8.25.2]</p>																																						

鉄筋コンクリート 構造配筋標準図

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d ... 異形鉄筋の呼び名に用いた数値 (径) D ... 部材の径、又は鉄筋内径置径
 R ... 半径 O ... 中心線 lo ... 部分間の内法距離 No ... 部材間の内法高さ
 SF ... あばら筋 HDP ... 帯筋 SHDP ... 補強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

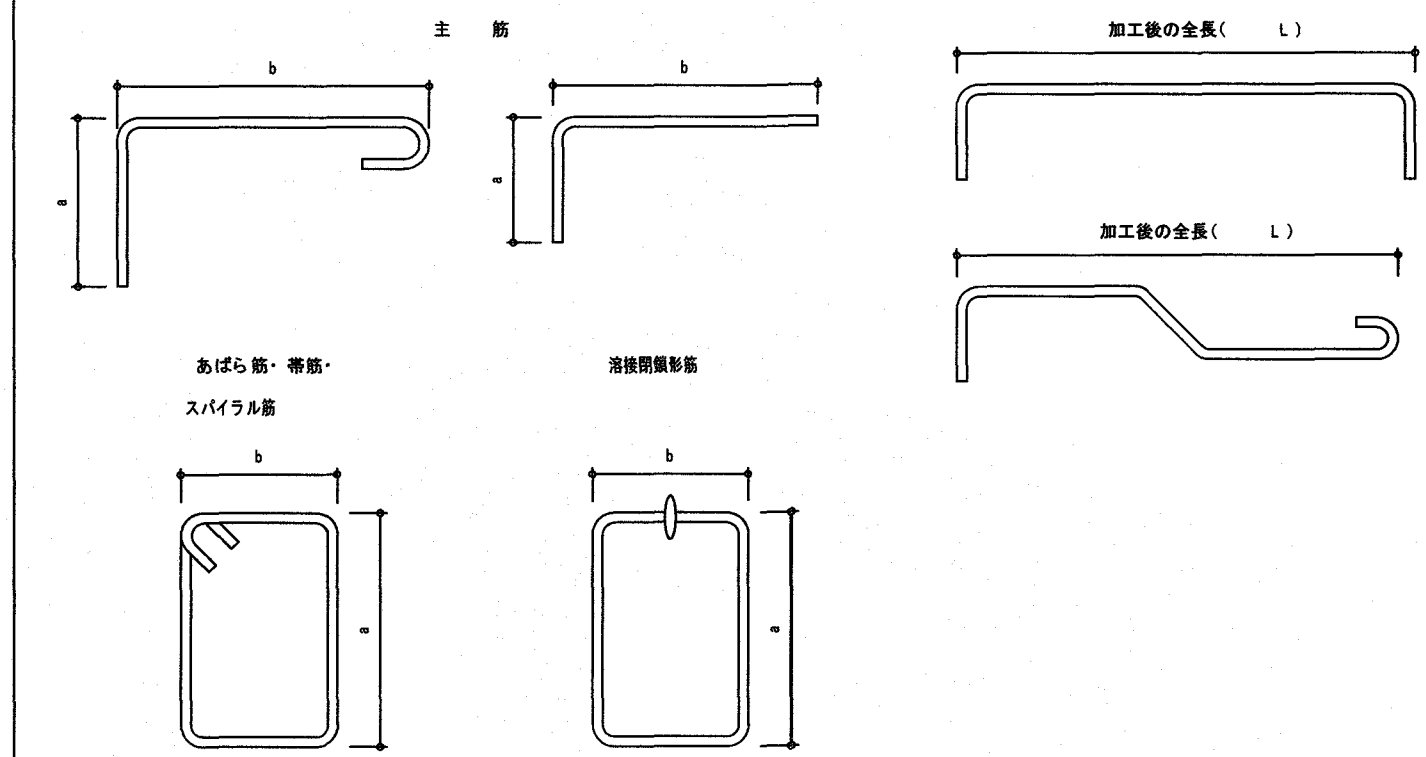
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法置径 (D)
	180°	SD295 SD45	D6 以下	6d 以上
	135°			
	90°	SD380	D6 以下	6d 以上
	90°	SD400	D5 以下	6d 以上
	90°			

- 【注】(1) 4 は呼び名に用いた数値とする。
- (2) スパイラル筋の重ね継手部に 90° フックを用いる場合は、余長は 12d 以上とする。
- (3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端の先端で 90° フックまたは 135° フックを用いる場合は、余長は 6d 以上とする。
- (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を敷いて丸鋼を使用しない。
- (5) 折り曲げ内法置径を上表の数値より小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監督者の承認を得る。
- (6) SD400 の鉄筋を 90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監督者の承認を得る。

(2) 加工寸法の許容差 (mm)

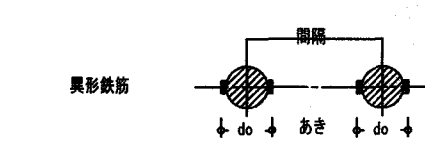
項目	符号	許容差	
各加工寸法 (1)	主筋	D5 以下 D6 以上 D41 以下	a, b ± 15
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	± 5
加工後の全長	L	± 20	

【注】(1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



(3) 鉄筋のあき

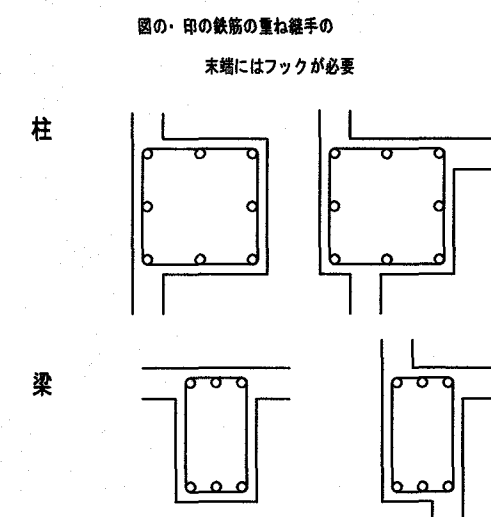
異形鉄筋では呼び名に用いた数値 1.5d 以上、帯筋の最大寸法の 1.25 倍以上かつ 25mm のうち最も大きい値。



(4) 鉄筋のフック

1. 1.1 に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- a. あばら筋、帯筋、および補止メ筋
 b. 隅突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
 c. 柱、梁 (基礎梁を除く) の出ずみ部分および下層の隅角にある場合の鉄筋 (右図参照)
 d. 単純梁の下端筋
 e. その他、本配筋標準に記載する箇所

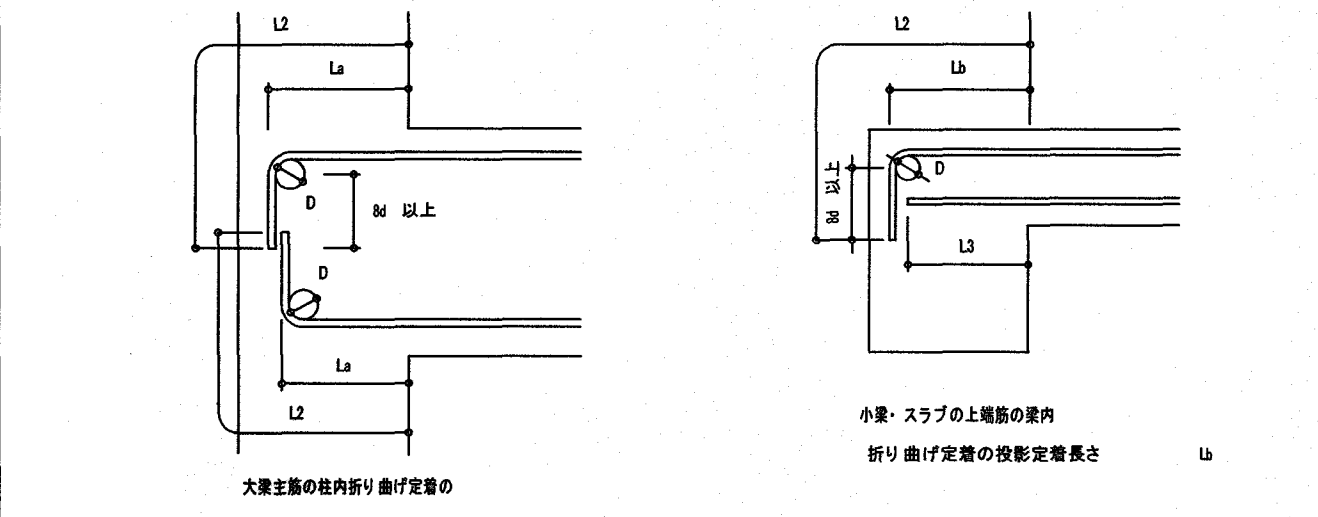
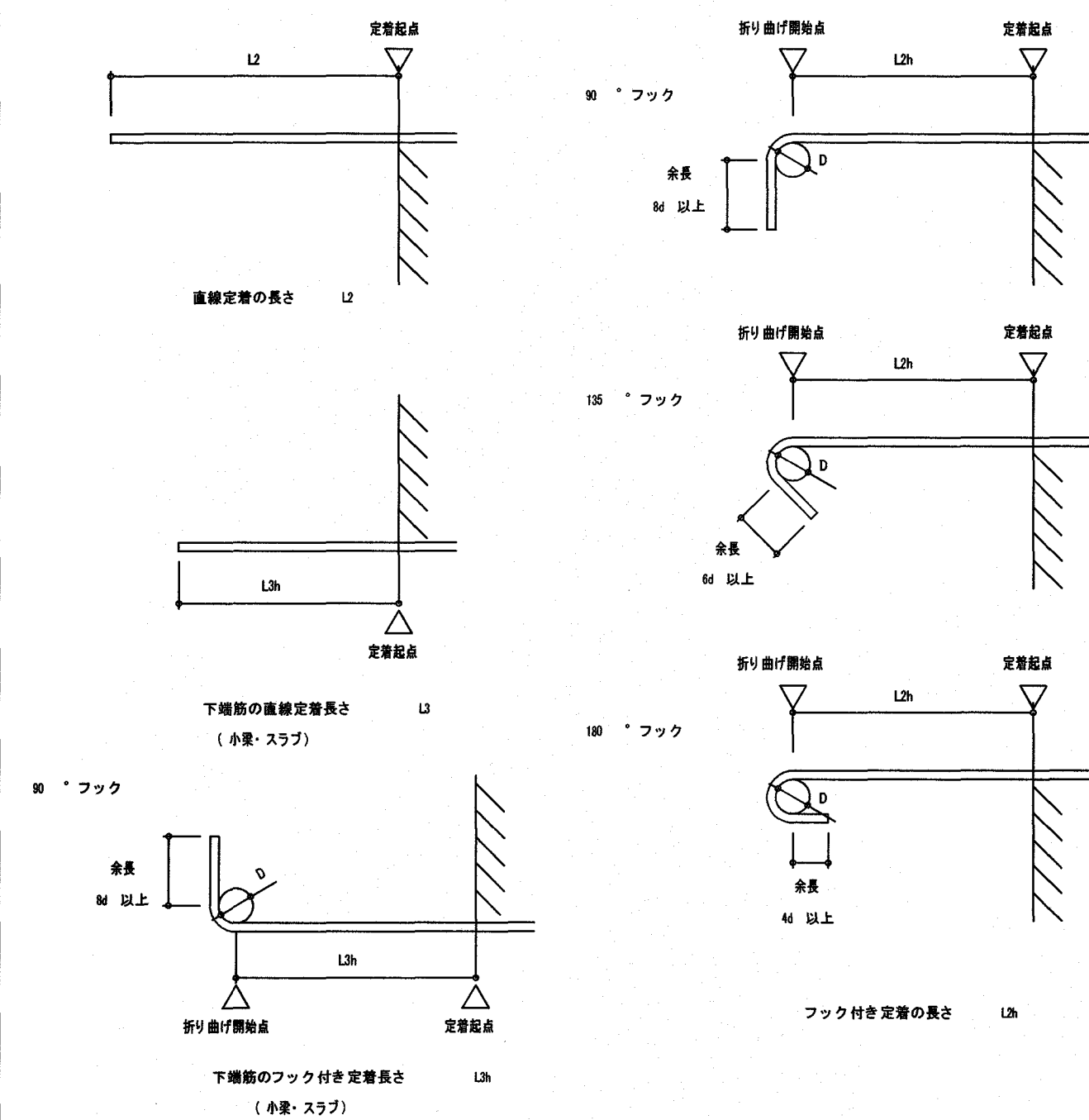


(5) 定着長さ (鉄筋コンクリートでは d を加算する。)

鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	定着の長さ					
		一般				小梁下層筋	スラブ下層筋
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	La (1)	Lb	L3 (フックなし)	L3h (フックあり)
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d
	21	35d	25d	15d	15d		
	24 ~ 27	30d	20d	15d	15d		
	30 ~ 36	30d	20d	15d	15d		
	38 ~ 45	25d	15d	15d	15d		
	48 ~ 60	25d	15d	15d	15d		
SD45	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d
	21	35d	25d	20d	20d		
	24 ~ 27	35d	25d	20d	15d		
	30 ~ 36	30d	20d	15d	15d		
	38 ~ 45	30d	20d	15d	15d		
	48 ~ 60	25d	15d	15d	15d		
SD380	21	40d	30d	20d	20d	20d	10d
	24 ~ 27	40d	30d	20d	20d		
	30 ~ 36	35d	25d	20d	15d		
	38 ~ 45	35d	25d	15d	15d		
	48 ~ 60	30d	20d	15d	15d		
	60 ~ 75	30d	20d	15d	15d		
SD400	24 ~ 27	45d	35d	25d	—	—	—
	30 ~ 36	40d	30d	25d	—		
	38 ~ 45	40d	30d	20d	—		
	48 ~ 60	35d	25d	20d	—		
	60 ~ 75	35d	25d	20d	—		
	75 ~ 90	35d	25d	20d	—		

【注】(1) フック付き鉄筋の定着長さ L2h は、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、

- 折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
- (2) フック部の折り曲げ内法置径 D 及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
- (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さが L2h 確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長さを L2 以上とするとともに、水平投影長さを La 以上とし、余長を 6d 以上とする。尚、La の値は梁間として柱径の 1/4 倍以上とする。
- (4) 耐圧スラブの下層筋の定着長さは一般定着 L2 とする。



(6) 継手

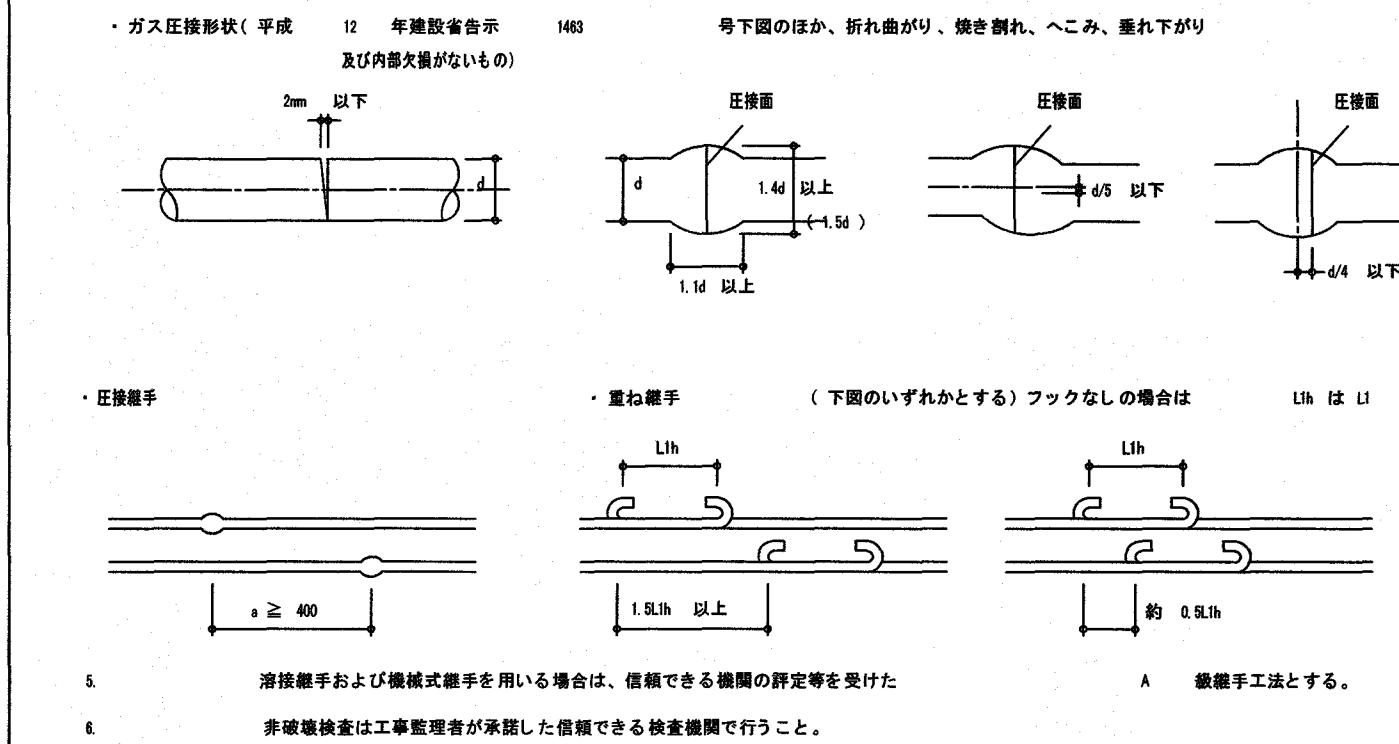
□ 重ね継手 (鉄筋コンクリートでは d を加算する。)

鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295	18	40d	35d
	21	40d	30d
	24 ~ 27	35d	25d
	30 ~ 36	35d	25d
	38 ~ 45	30d	20d
	48 ~ 60	30d	20d
SD45	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24 ~ 27	40d	30d
	30 ~ 36	35d	25d
	38 ~ 45	35d	25d
	48 ~ 60	30d	20d
SD380	21	50d	35d
	24 ~ 27	45d	25d
	30 ~ 36	40d	30d
	38 ~ 45	40d	30d
	48 ~ 60	35d	25d
	60 ~ 75	35d	25d
SD400	24 ~ 27	55d	40d
	30 ~ 36	50d	35d
	38 ~ 45	45d	35d
	48 ~ 60	40d	30d
	60 ~ 75	40d	30d
	75 ~ 90	40d	30d

- 【注】(1) 表中の d は、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
- (2) 異なる異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、短い方の d による。
- (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

□ 継手に関する注意

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29 以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手とはならない。
- 鉄筋径 d の差が 3mm を超える場合は、圧接とはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。



5. 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の認定を受けた

6. 非破壊検査は工事監督者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

(7) かぶり厚さ

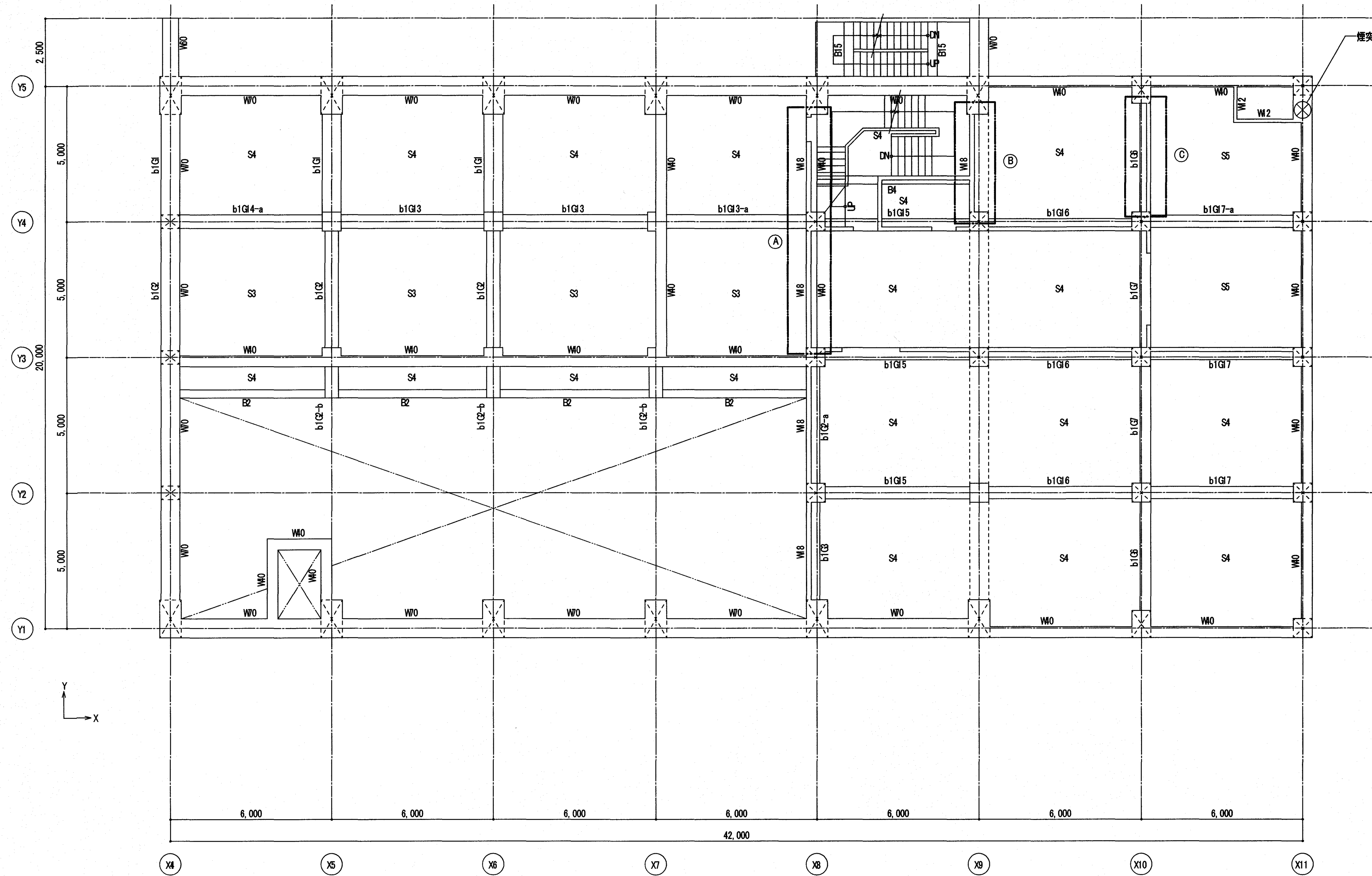
- 最小かぶり厚さは、表 8.7 に規定する設計かぶり厚さを 10mm 減じた値とする。
- 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表 8.7 以上の値とする。

表 8.7 設計かぶり厚さ (単位: mm)

部材の種類	標準・長期		短期		
	部内	部外 (2)	部内	部外 (2)	
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	底スラブ・壁スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画使用期間中に維持保全を行う部材 (1)	30	40	(30)	(40)
覆土に接する柱・梁・壁・床および基礎の立ち上がり部分、壁筋の露出部分		50			
基礎、壁筋の基礎・高さ		70			

- 【注】(1) 計画使用期間の線が長期用で計画使用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の期間に応じて定める。
- (2) 計画使用期間の線が短期用で長期用で、耐久性能上有効な仕上げを施す場合は、部外側では設計かぶり厚さを 10mm 減じることができる。

- 完成した構造体の各部位における最小かぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- コンクリート 構造体に誤発着・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第 79 条に規定する事項を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水および耐久性能上有効な措置を講じればよらなくても良い。



地下1階床伏図

特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

改修補強 内容

符号	補強内容	前	後	詳細図面名称
①	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+170	補強詳細図(10), (11)
②	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	補強詳細図(12)
③	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(13)~(15)

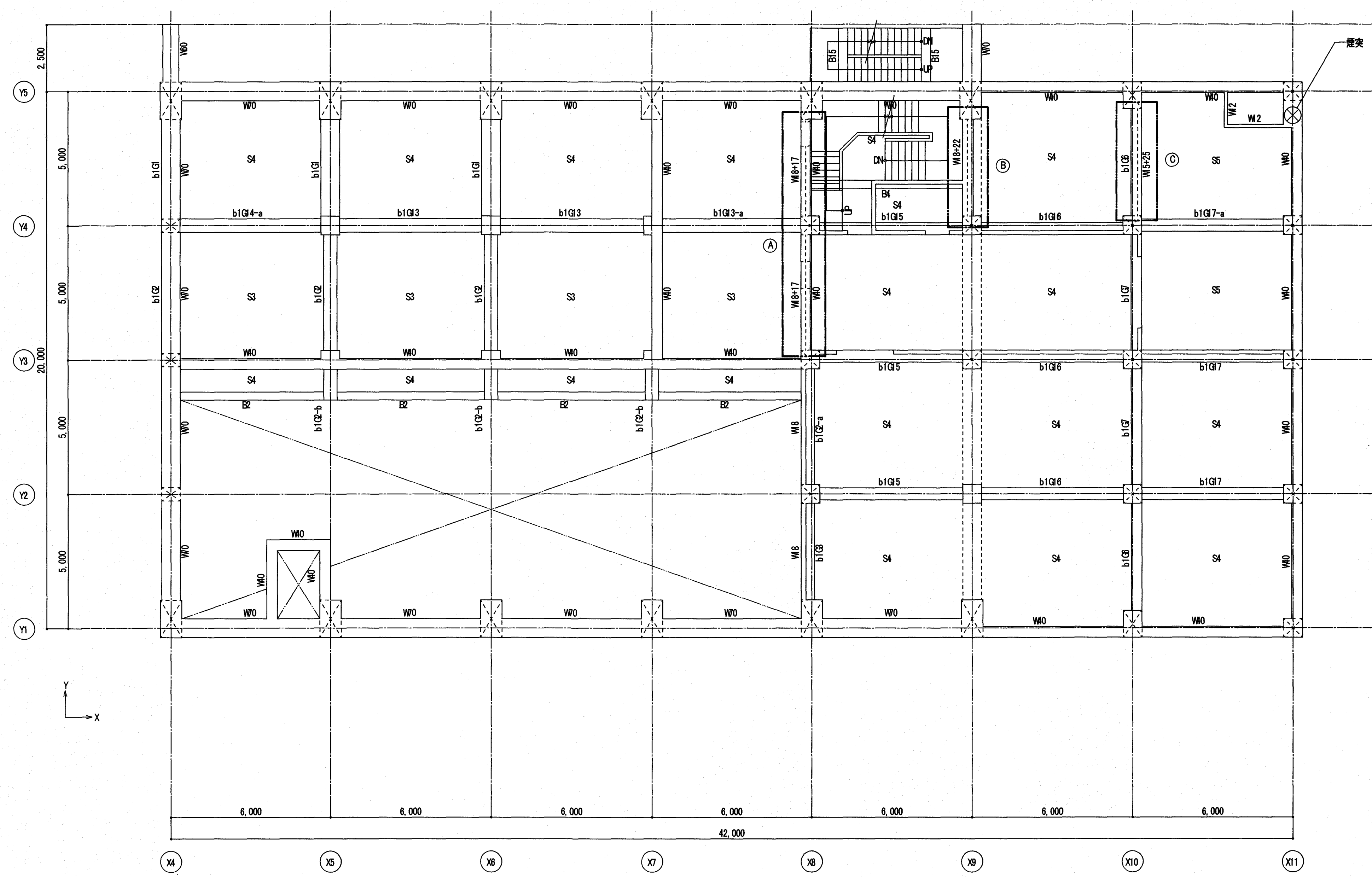
【凡例】

: 耐震改修箇所を示す

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)
 図面名 地下1階床伏図(改修前) 縮尺 1/100

係	係長	課長補佐	課長	図面番号
				S-04
作図 年 月 日				



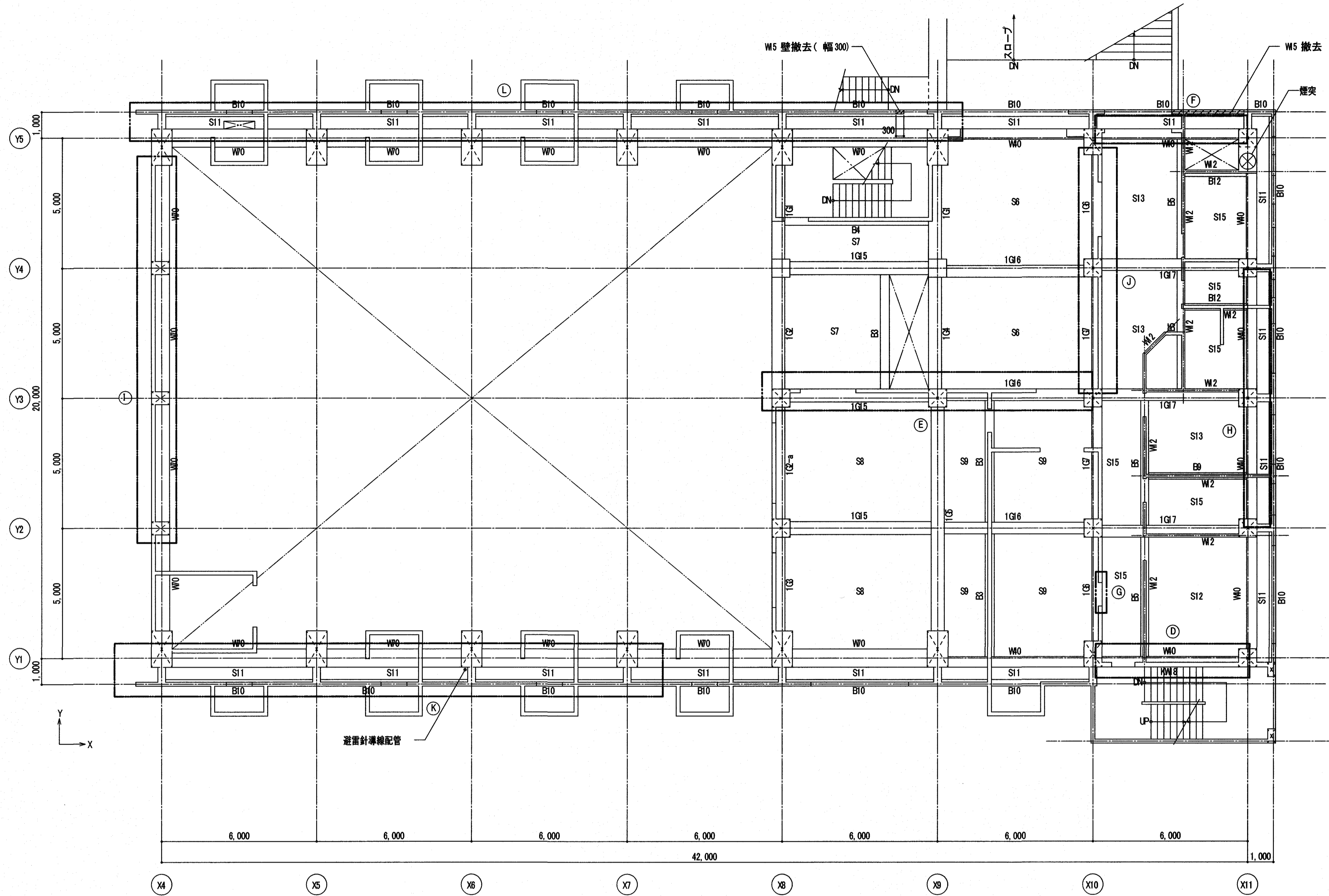
地下1階床伏図

特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

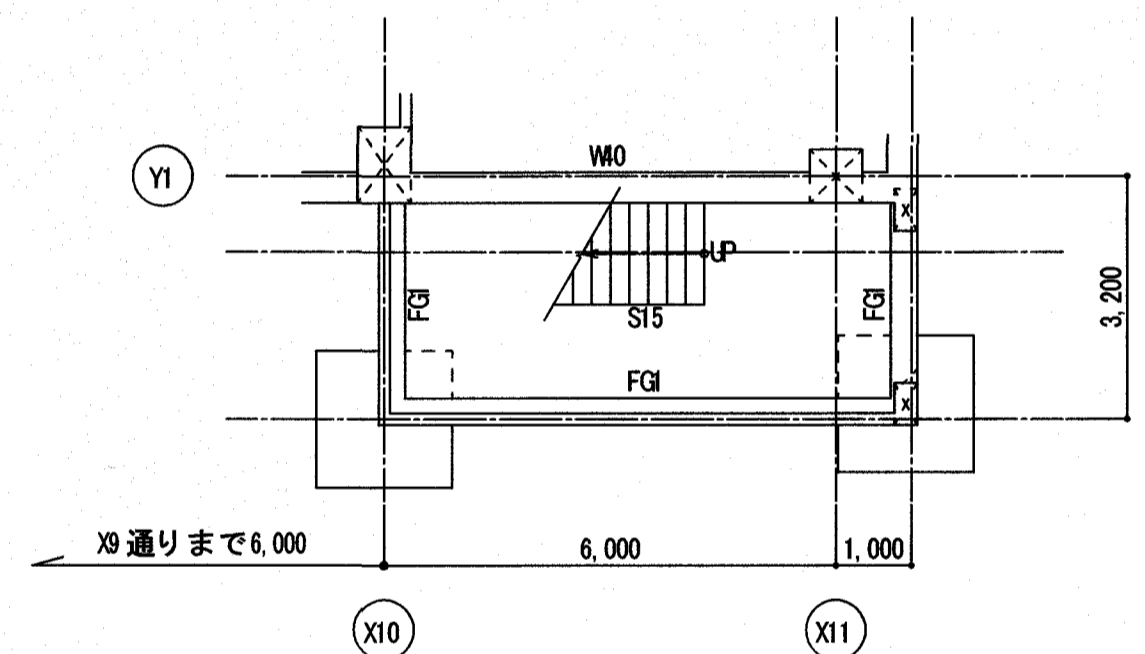
改修補強 別				
符号	補強内容	前	後	詳細図面名称
(A)	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+170	補強詳細図(10), (11)
(B)	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	補強詳細図(12)
(C)	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(13)~(15)

【凡例】

: 耐震改修箇所を示す



1階床伏図



1SL-2400 レベル床伏図

特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

改修補強 別

符号	補強内容	前	後	詳細図面名称
①	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	補強詳細図(4)
②	RC壁新設	壁厚 t=150	壁厚 t=300	補強詳細図(5), (6)
③	RC壁新設	-	壁厚 t=300	補強詳細図(7)
④	開口閉塞	-	壁厚 t=150	補強詳細図(16)
⑤	RC壁新設	-	壁厚 t=300	補強詳細図(17)
⑥	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(8), (9)
⑦	開口閉塞, RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(13)~(15)
⑧	開口閉塞, 柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)
⑨	開口閉塞, 柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)

【凡例】

: 耐震改修箇所を示す

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名

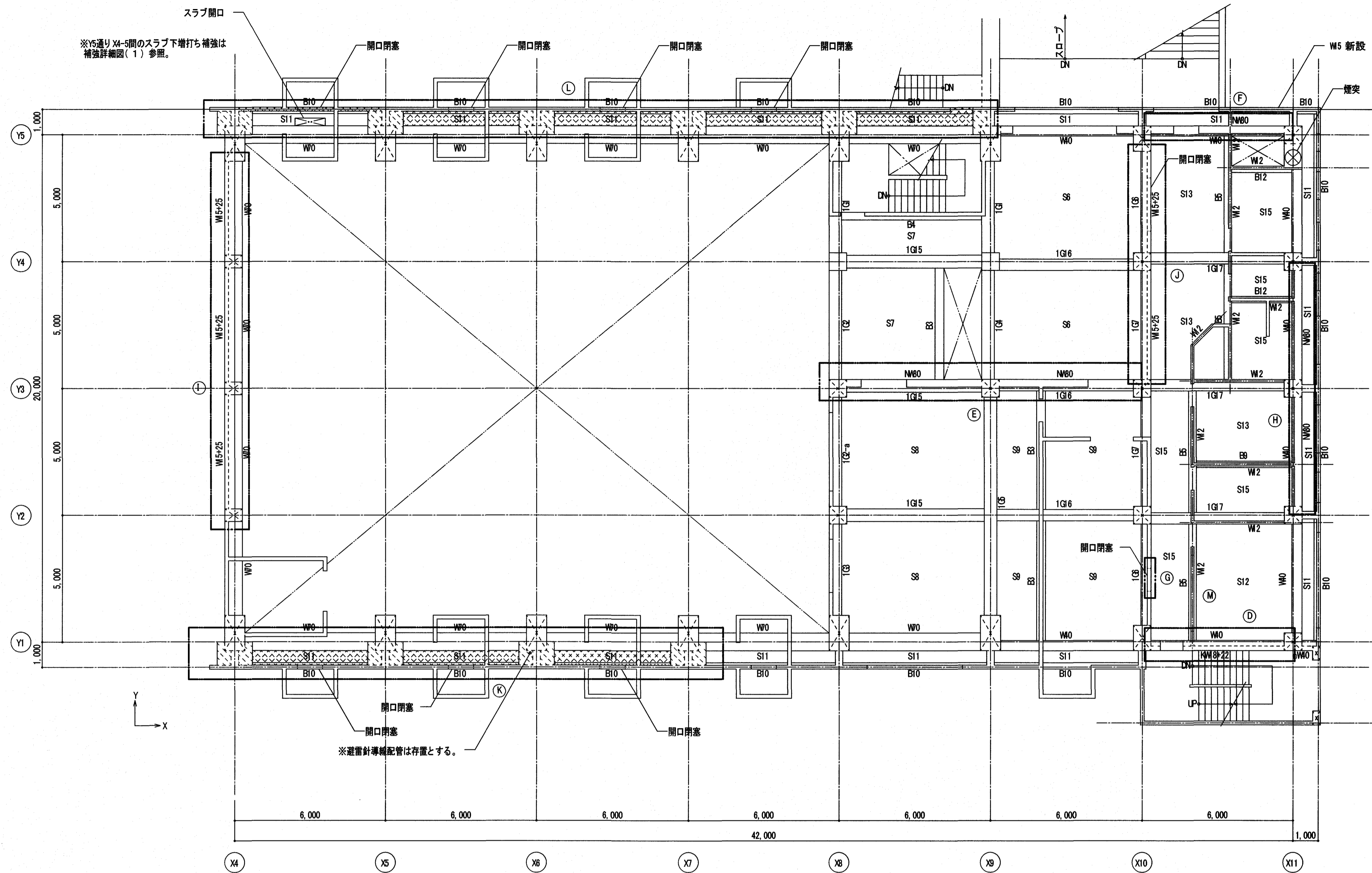
潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)

図面名 1階床伏図(改修前)

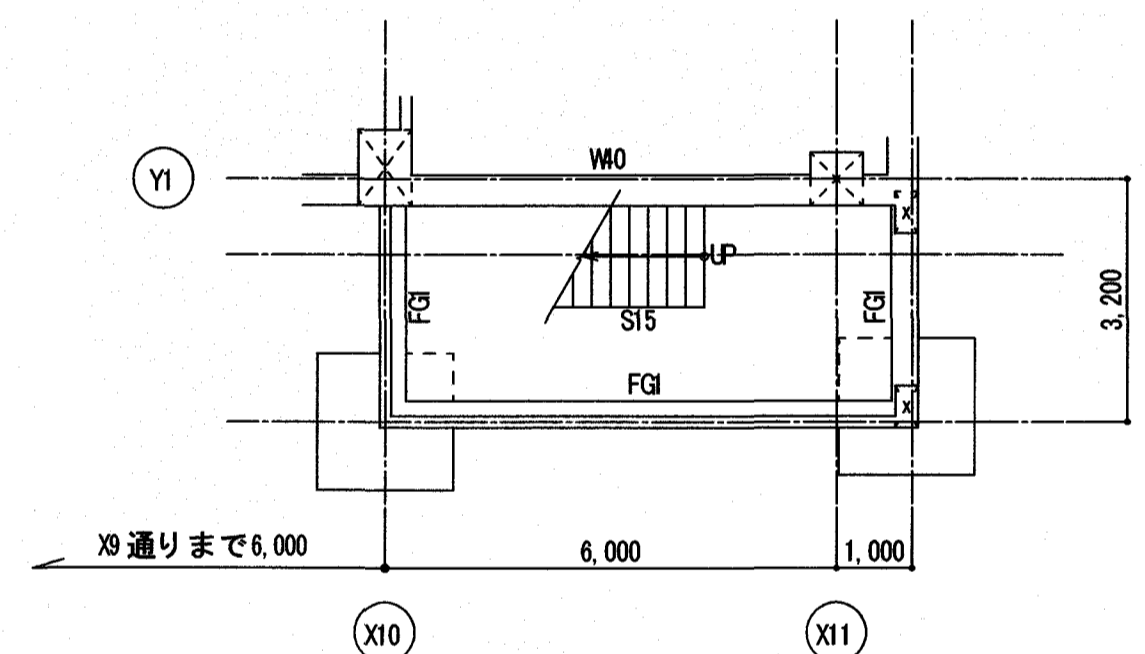
縮尺 1/100

係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日 S-06



1階床伏図



1SL-2400 レベル床伏図

特記なき限り下記による。
 1. 壁はW5とする。
 2. [Pattern] はスラブ下増打ち補強位置を示す。
 3. [Pattern] は柱側面増打ち補強位置を示す。

改修補強 別

符号	補強内容	前	後	詳細図面名称
①	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	補強詳細図(4)
②	RC壁新設	壁厚 t=150	壁厚 t=300	補強詳細図(5), (6)
③	RC壁新設	-	壁厚 t=300	補強詳細図(7)
④	開口閉塞	-	壁厚 t=150	補強詳細図(16)
⑤	RC壁新設	-	壁厚 t=300	補強詳細図(17)
⑥	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(8), (9)
⑦	開口閉塞, RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(13)~(15)
⑧	開口閉塞, 柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)
⑨	開口閉塞, 柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)

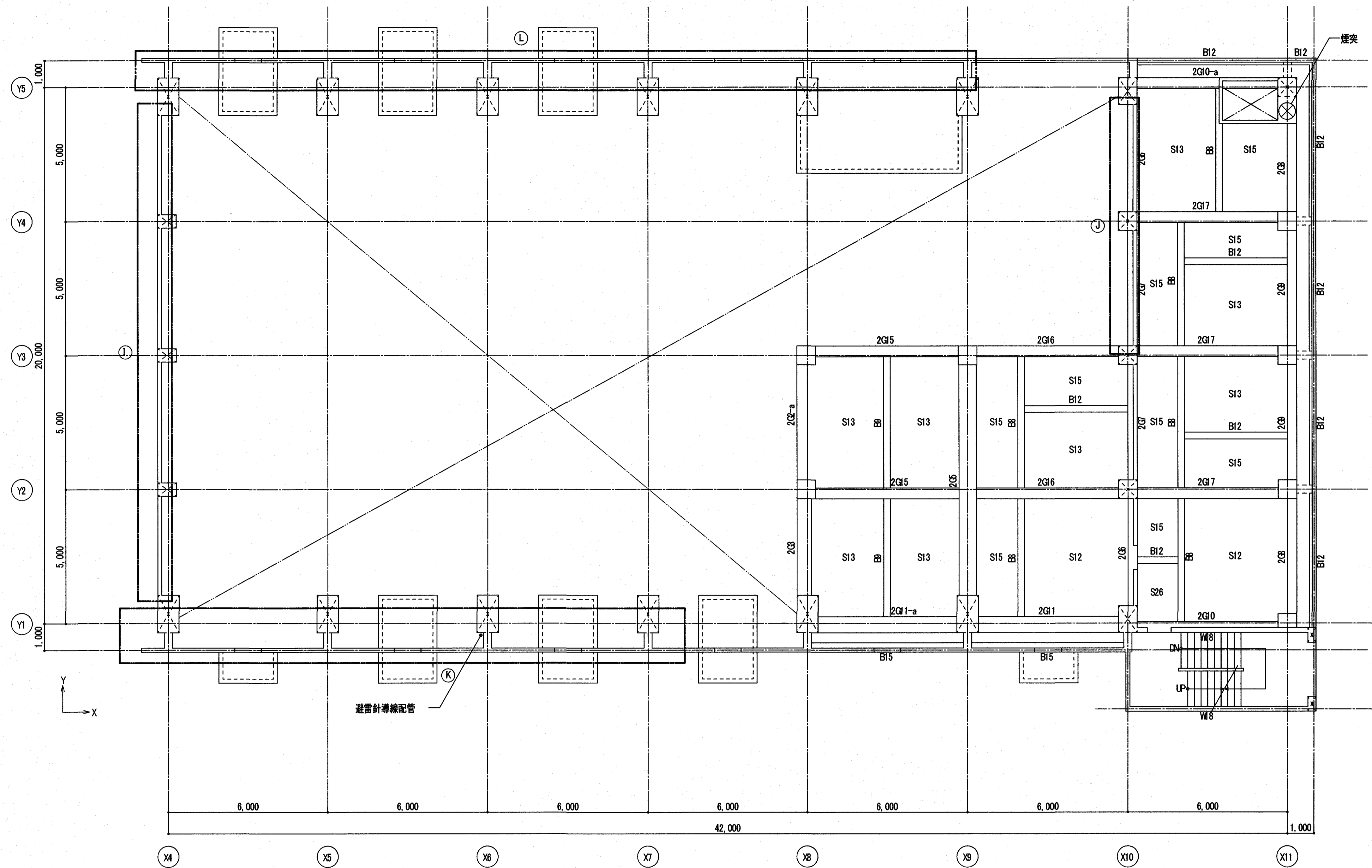
【凡例】

[Pattern] : 耐震改修箇所を示す

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)
 図面名 1階床伏図(改修後) 縮尺 1/100

係長 課長補佐 課長 図面番号
 S-07
 作図 年 月 日



2階床伏図

特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

改修補強 対

符号	補強内容	前	後	詳細図名称
①	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(8)、(9)
②	開口閉塞, RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(13)~(15)
③	開口閉塞, 柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)
④	開口閉塞, 柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)

【凡例】

: 耐震改修箇所を示す

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名

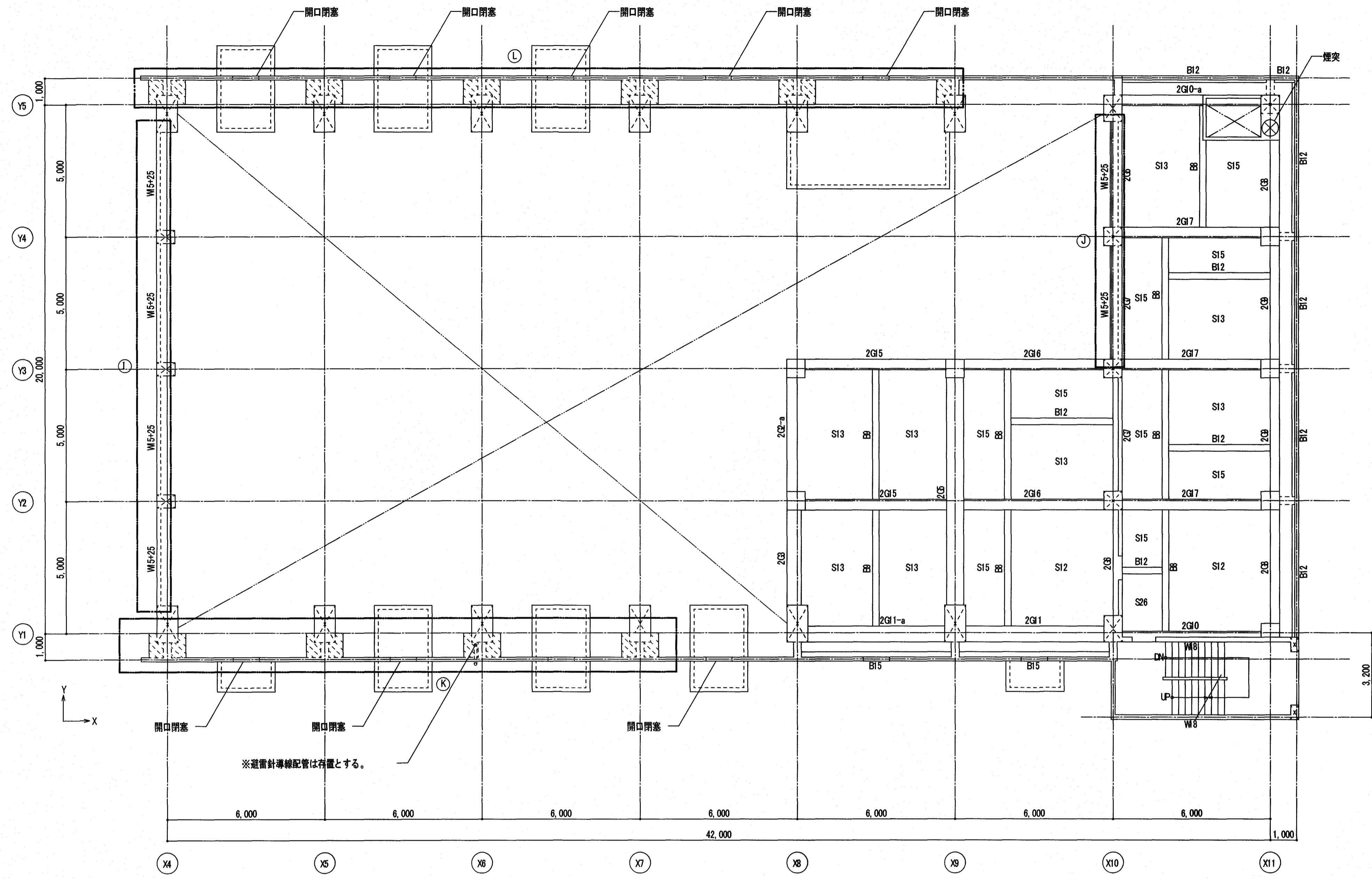
潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)

図面名 2階床伏図(改修前)

縮尺 1/100

係 係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日 S-08



2階床伏図

特記なき限り下記による。

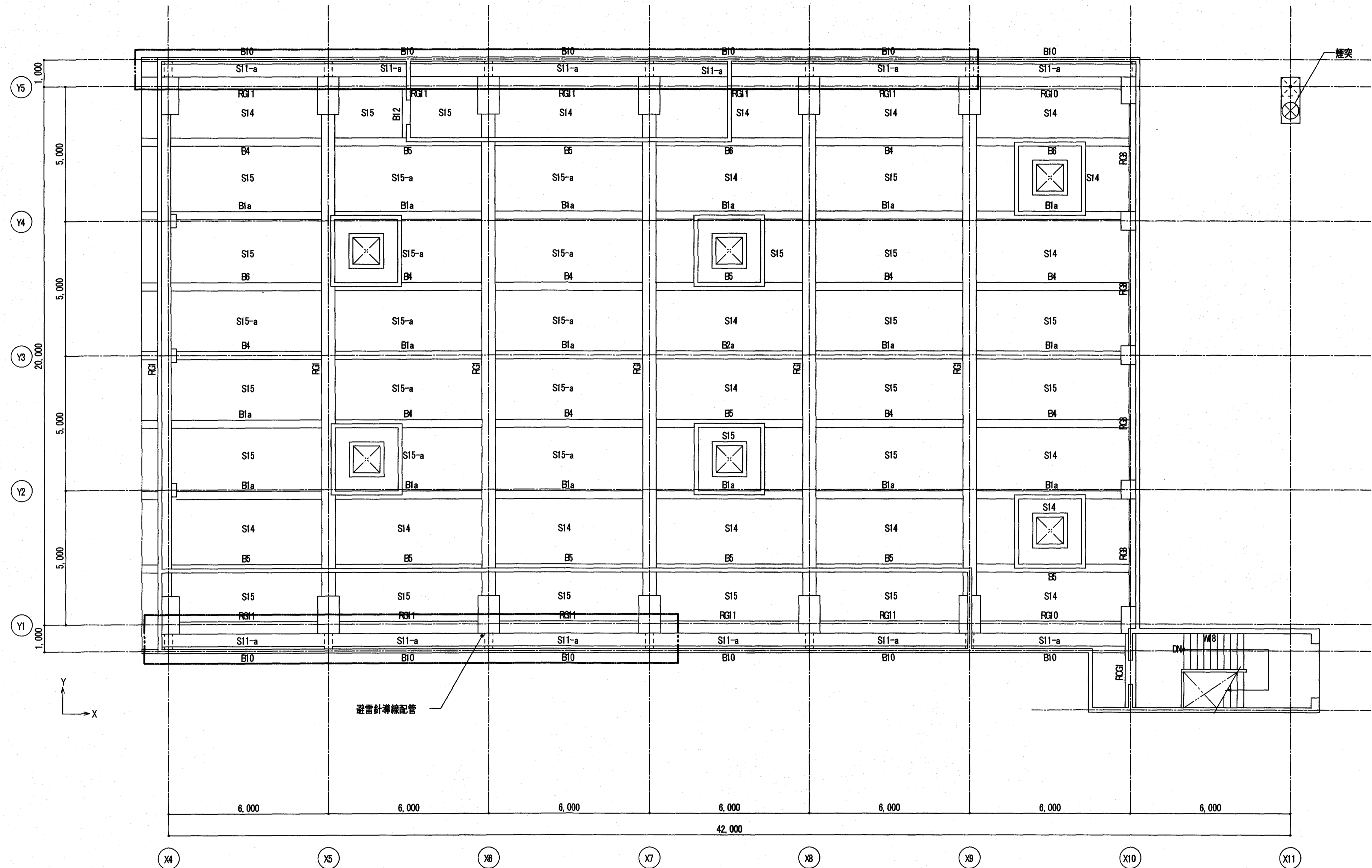
1. 壁はW5とする。
2. ②はスラブ下増打ち補強位置を示す。
3. ③は柱側面増打ち補強位置を示す。

改修補強 ④

符号	補強内容	前	後	詳細図面名称
①	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(8)、(9)
②	開口閉塞、RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	補強詳細図(13)~(15)
③	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)
④	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)

【凡例】

□ : 耐震改修箇所を示す



R階床伏図

特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

改修補強 凡

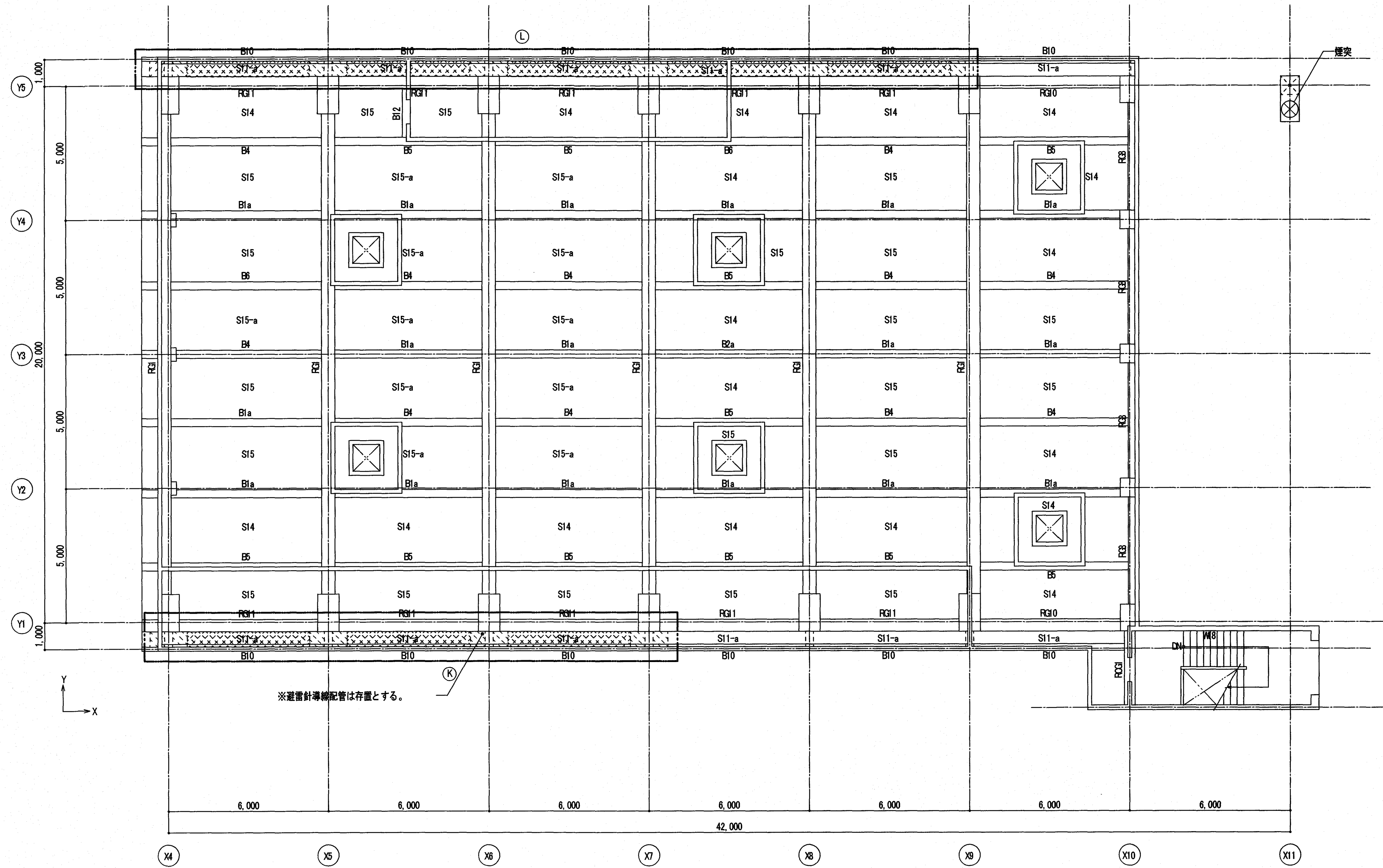
符号	補強内容	前	後	詳細図面名称
(K)	開口閉塞, 柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)
(L)	開口閉塞, 柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)

【凡例】

: 耐震改修箇所を示す

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)					S-10
図面名 R階床伏図(改修前)	縮尺 1/100			作図 年 月 日	



R階床伏図

特記なき限り下記による。

1. 壁は W5 とする。
2. [Symbol] はスラブ下増打ち補強位置を示す。
3. [Symbol] は柱側面増打ち補強位置を示す。

改修補強 以

符号	補強内容	前	後	詳細図面名称
(K)	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)
(L)	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	補強詳細図(1)~(3)

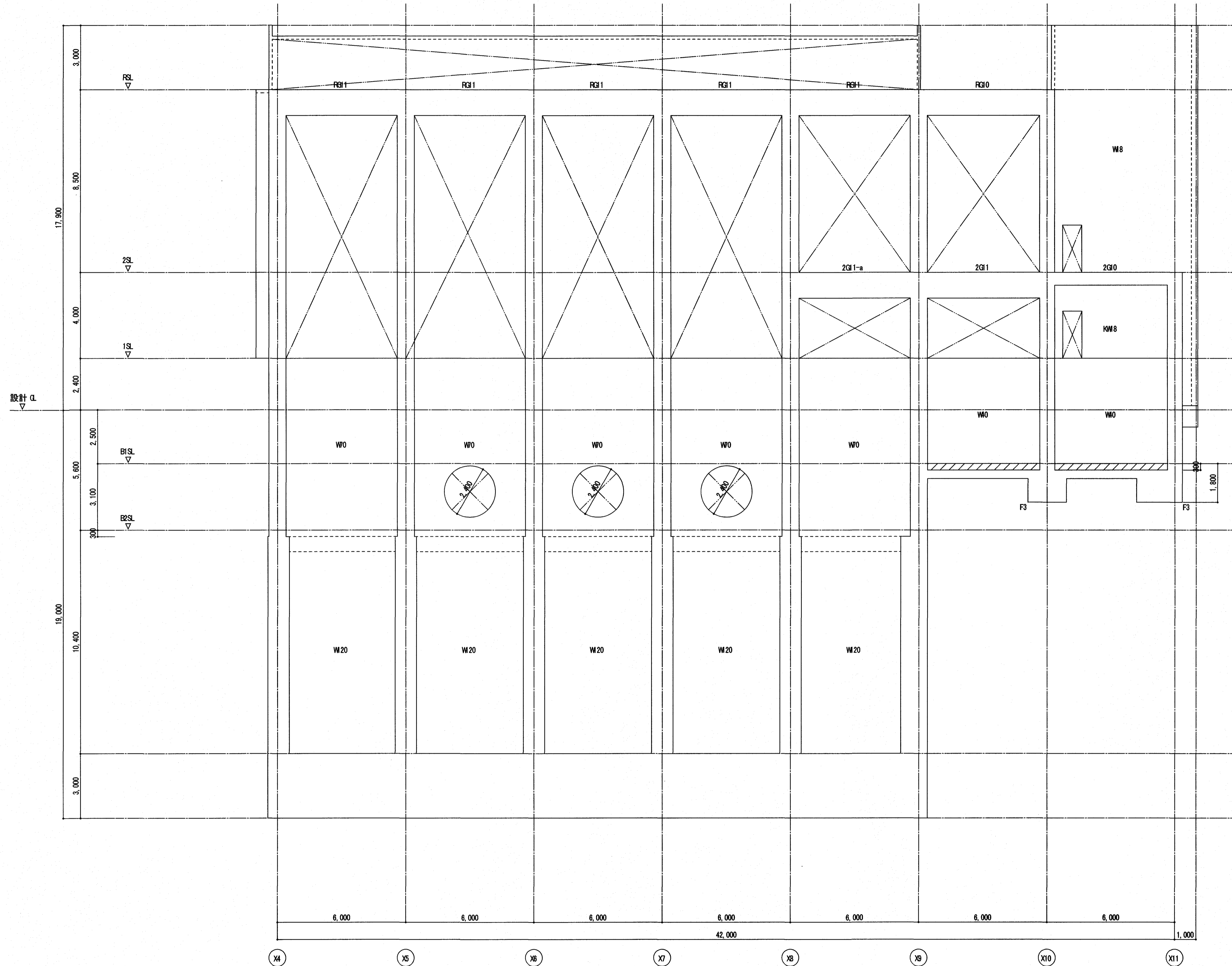
【凡例】

[Symbol] : 耐震改修箇所を示す

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹夫 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)
 図面名 R階床伏図(改修後) 縮尺 1/100

保	保長	課長補佐	課長	図面番号
[Symbol]	[Symbol]	[Symbol]	[Symbol]	S-11
作図 年 月 日				



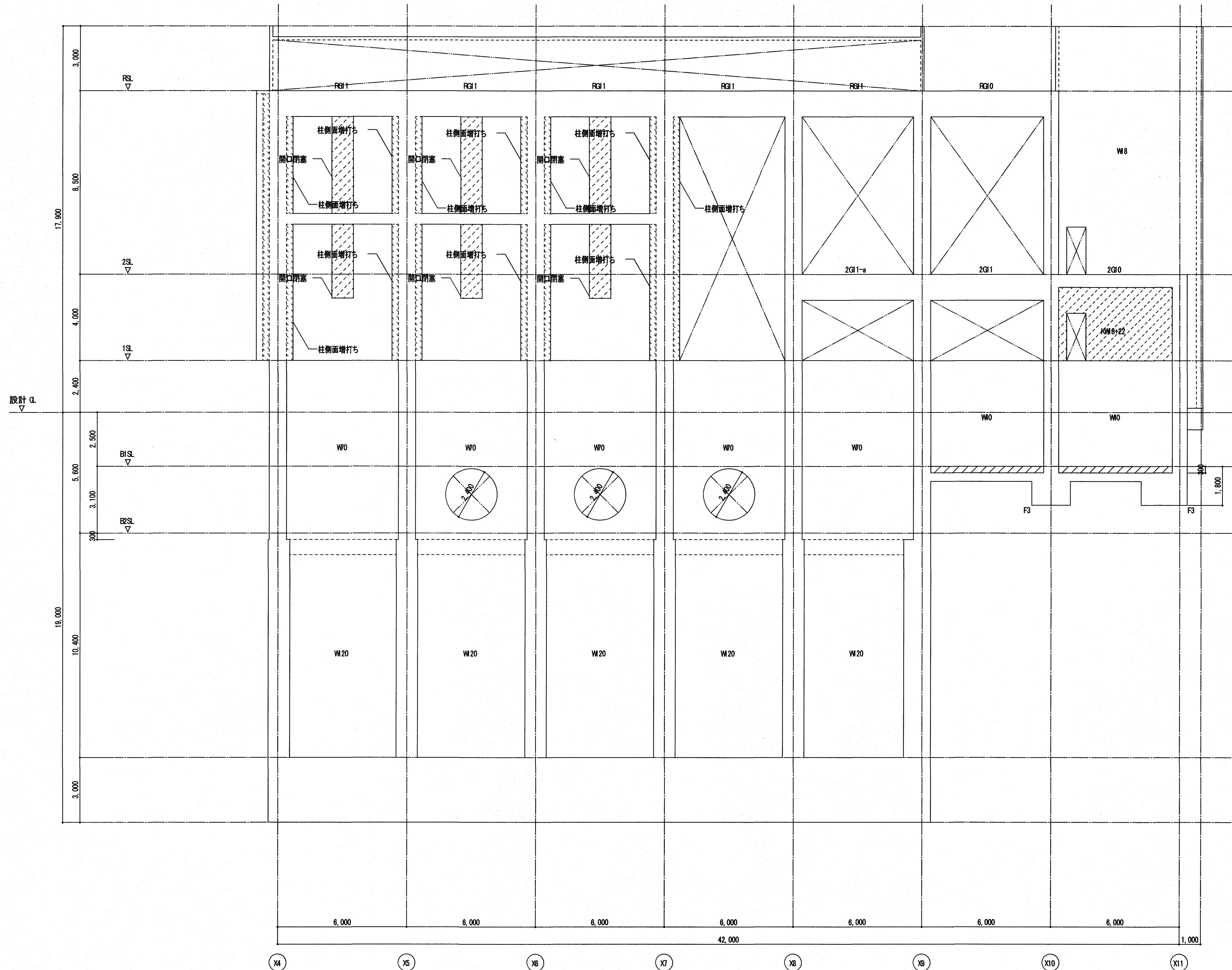
特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

Y1 通り 軸組図

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
図面名 軸組図 (1) (改修前)
縮尺 1 / 100

係	係長	課長補佐	課長	図面番号
				S-12
作図	年	月	日	



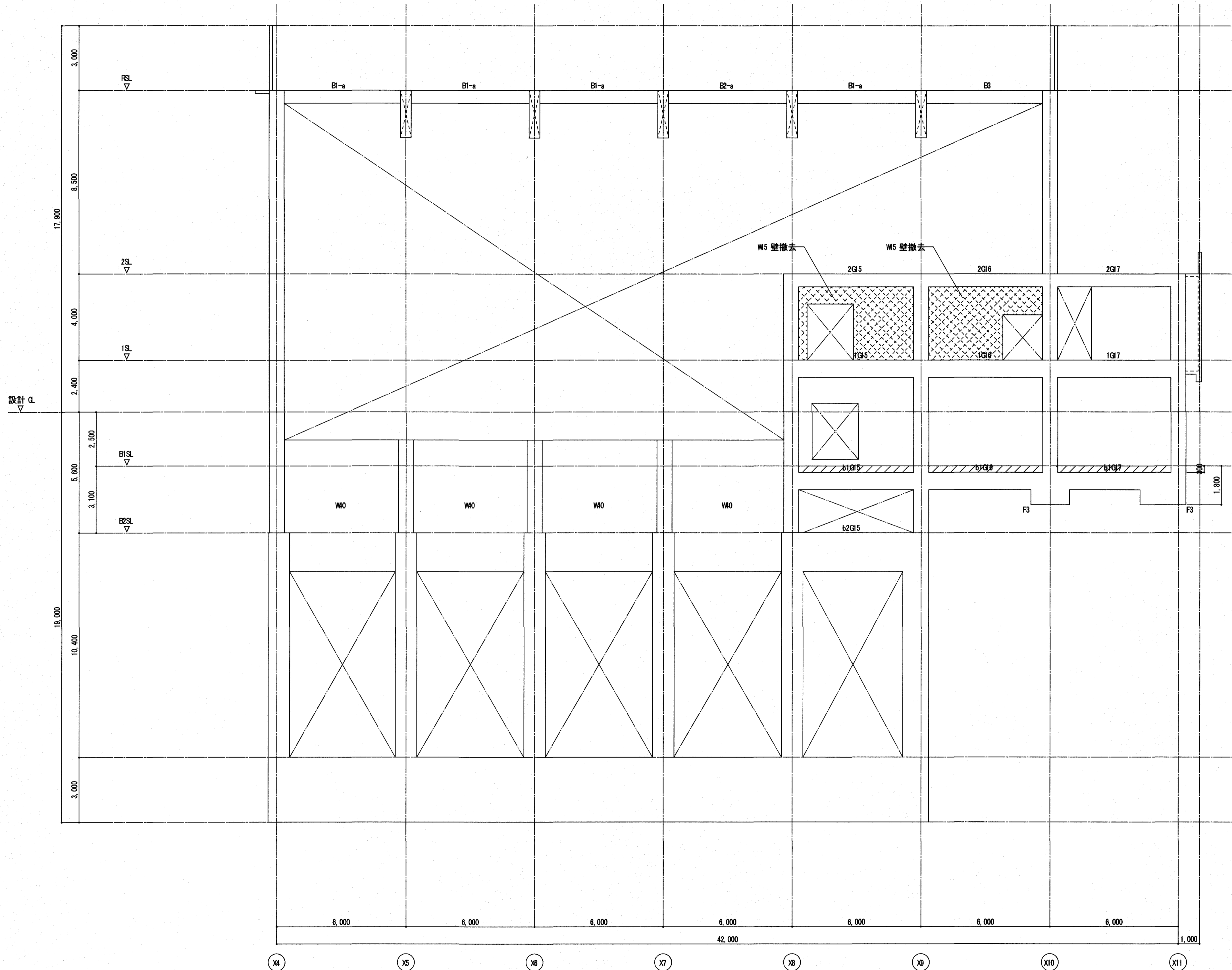
特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

Y1 通り 軸組図

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (特) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
図面名 軸組図 (1) (改修後)
縮尺 1 / 100

係	係長	課長補佐	課長	図面番号
国松	国松	国松	国松	S-13
作図	年	月	日	



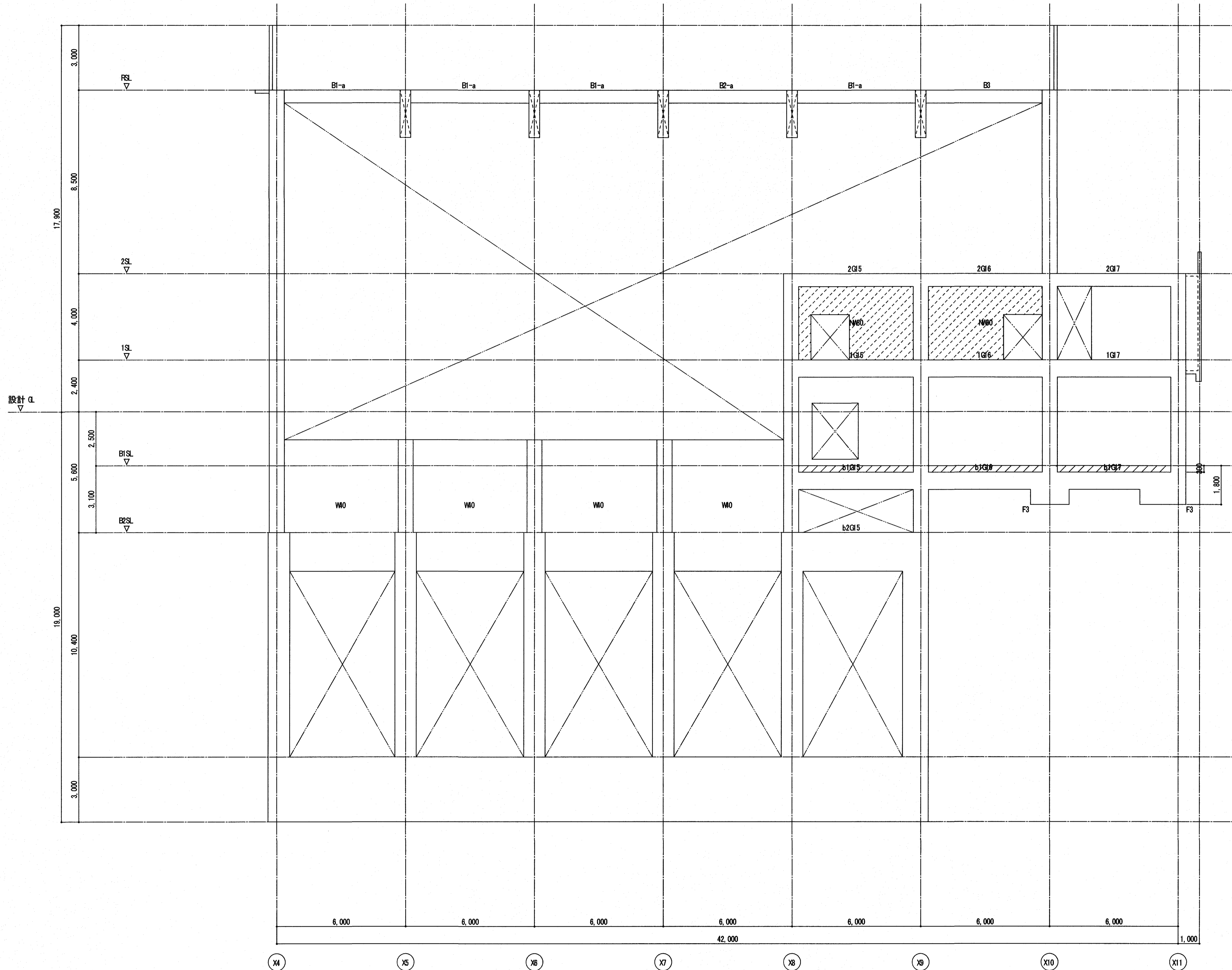
特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

Y3通り軸組図

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
 図面名 軸組図 (2) (改修前) 縮尺 1/100

係	係長	課長補佐	課長	図面番号
(印)	(印)	(印)	(印)	S-14
作図 年 月 日				



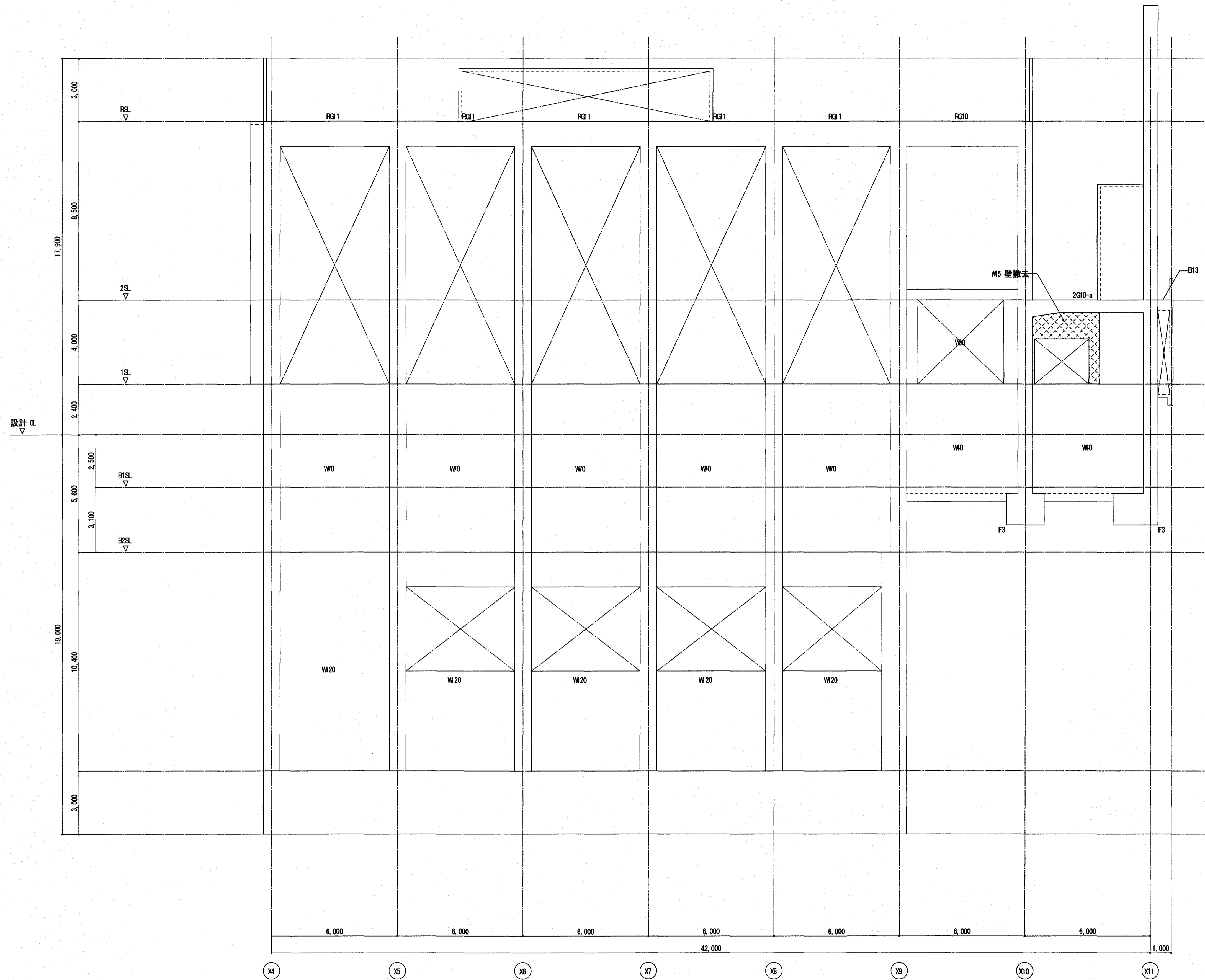
特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

Y3通り軸組図

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (予) 第10818号
 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
図面名 軸組図 (2) (改修後) **縮尺** 1 / 100

係	係長	課長補佐	課長	図面番号
				S-15
作 年 月 日				



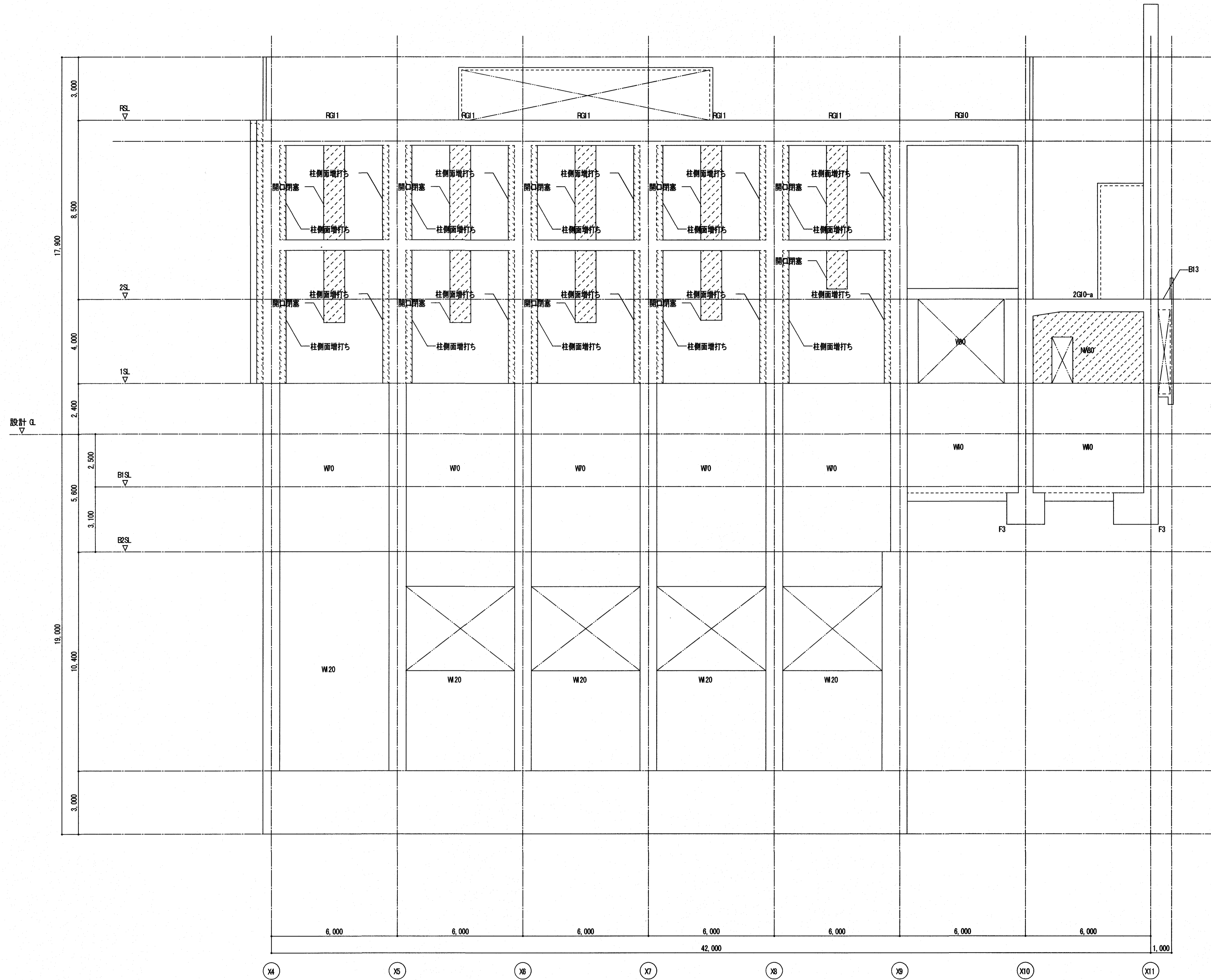
特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

Y5 通り 軸組図

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第29478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
 図面名 軸組図 (3) (改修前) 縮尺 1 / 100

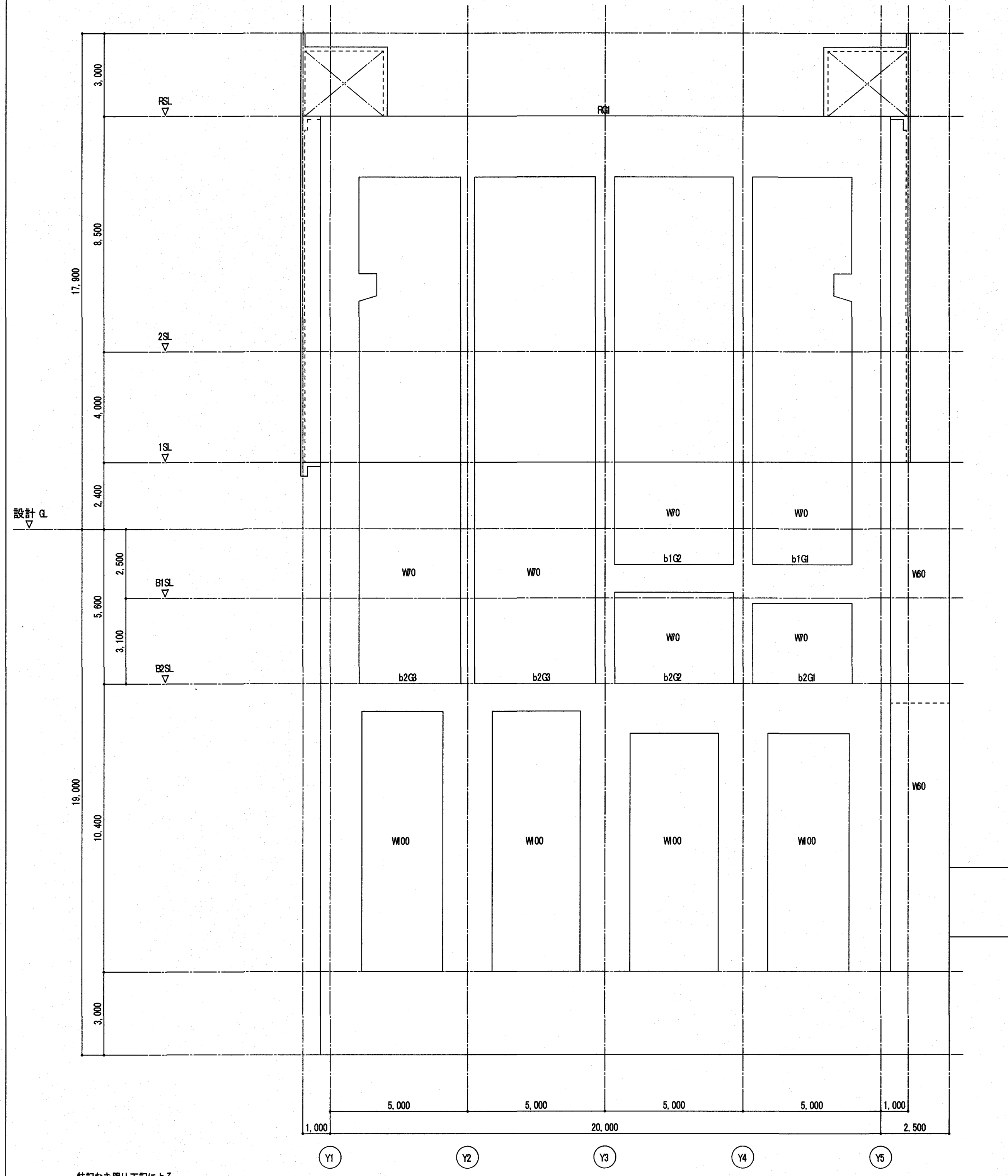
係	係長	課長補佐	課長	図面番号
				S-16
作図	年	月	日	



特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

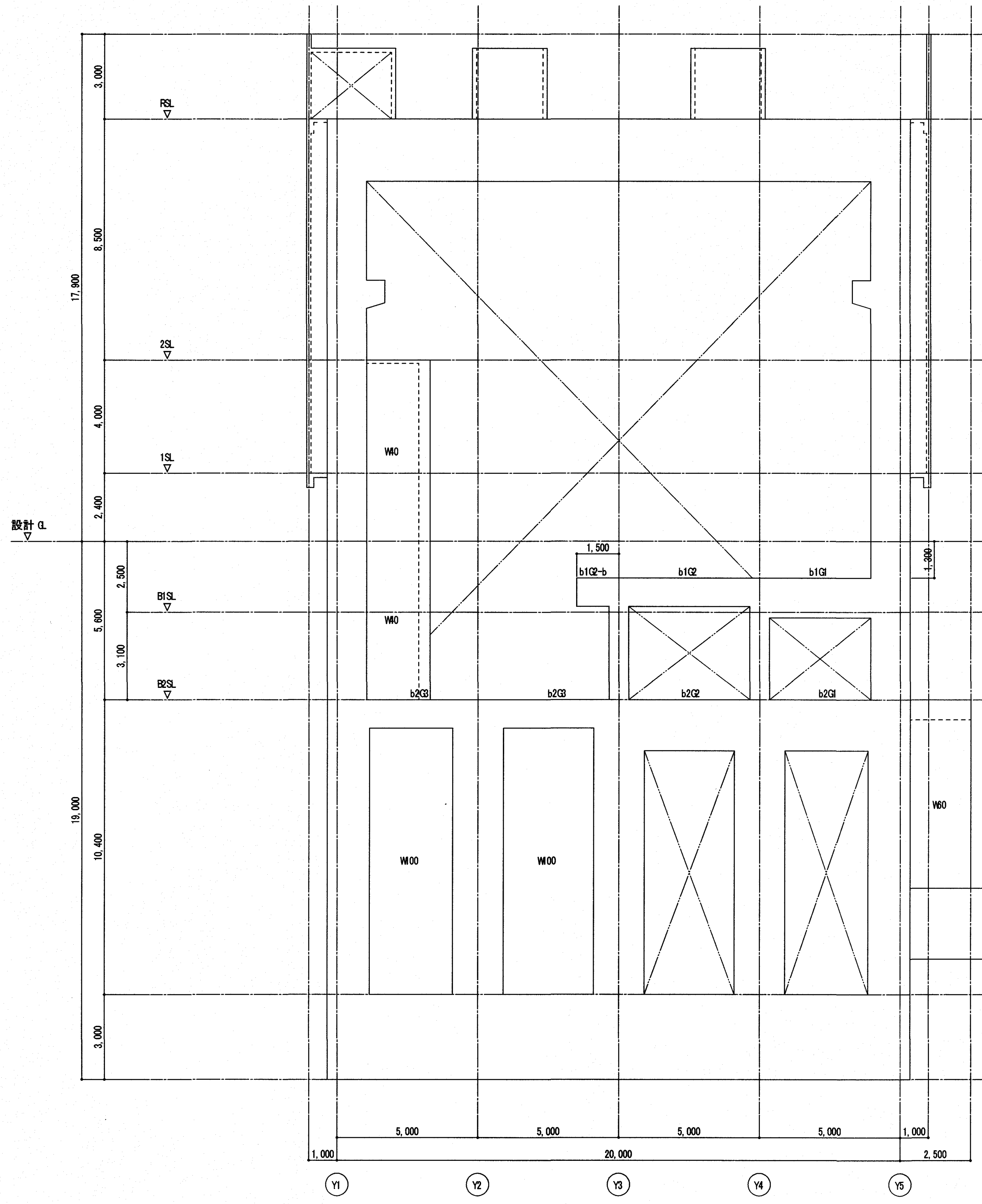
Y5通り軸組図

受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
	一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)					S-17
	管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	図面名 軸組図(3) (改修後) 縮尺 1/100	作図	年	月	日	



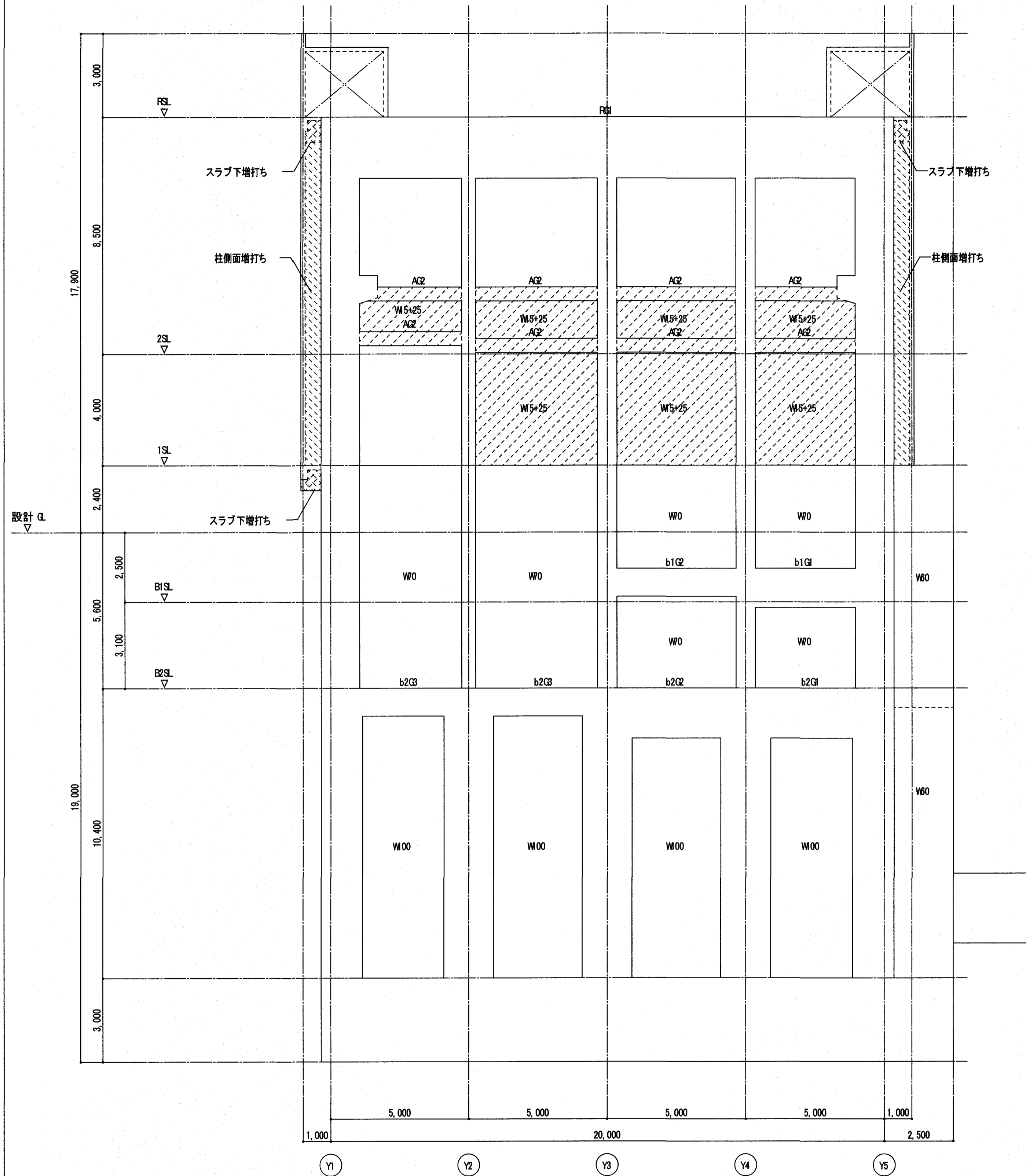
X4 通り 軸組図

特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

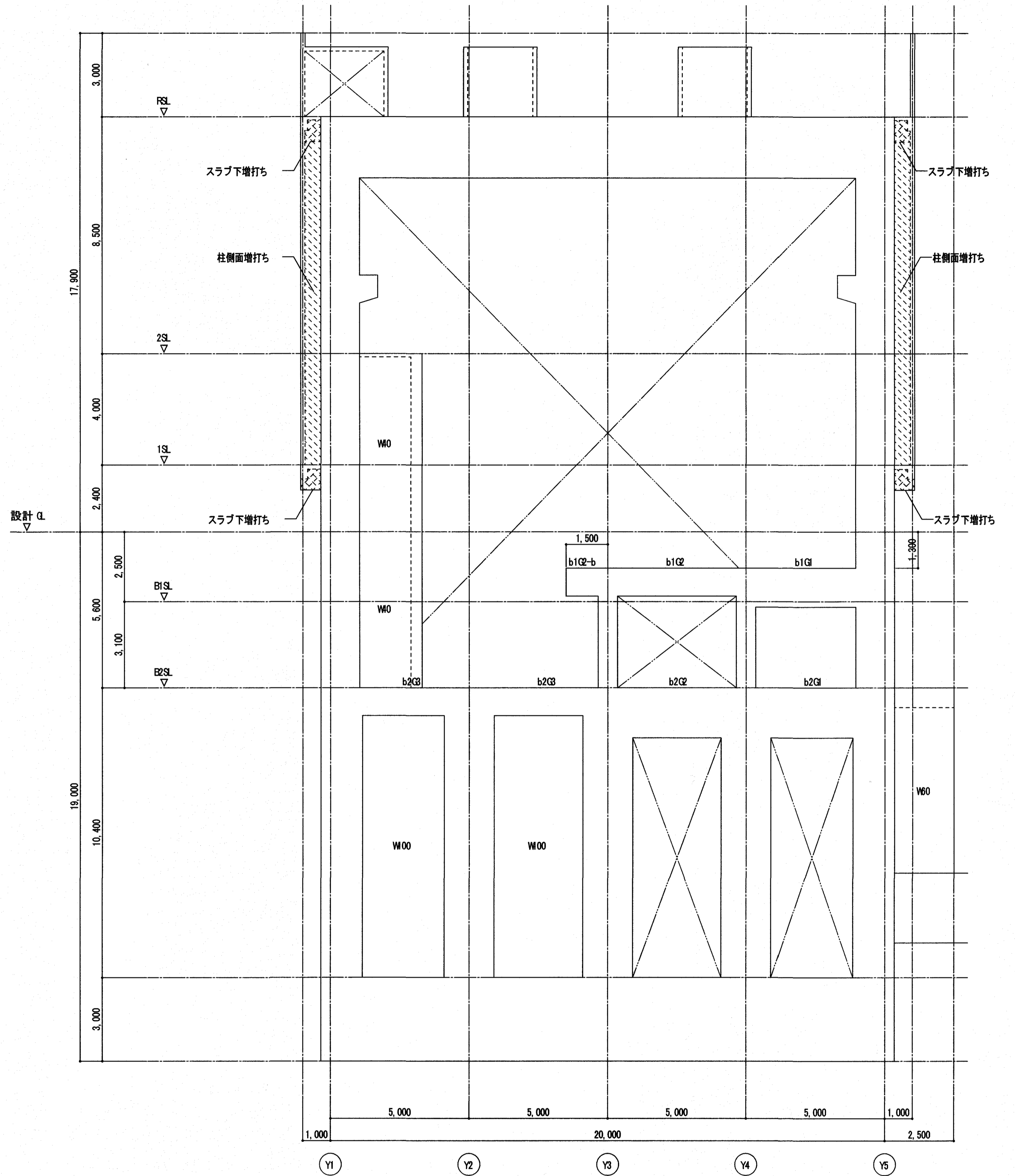


X5 通り 軸組図

受注者 株式会社日産技術コンサルタント 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)	係長 (印)	課長補佐 (印)	課長 (印)	図面番号 S-18
	図面名 軸組図(4) (改修前)	縮尺 1/100	作図	年	月



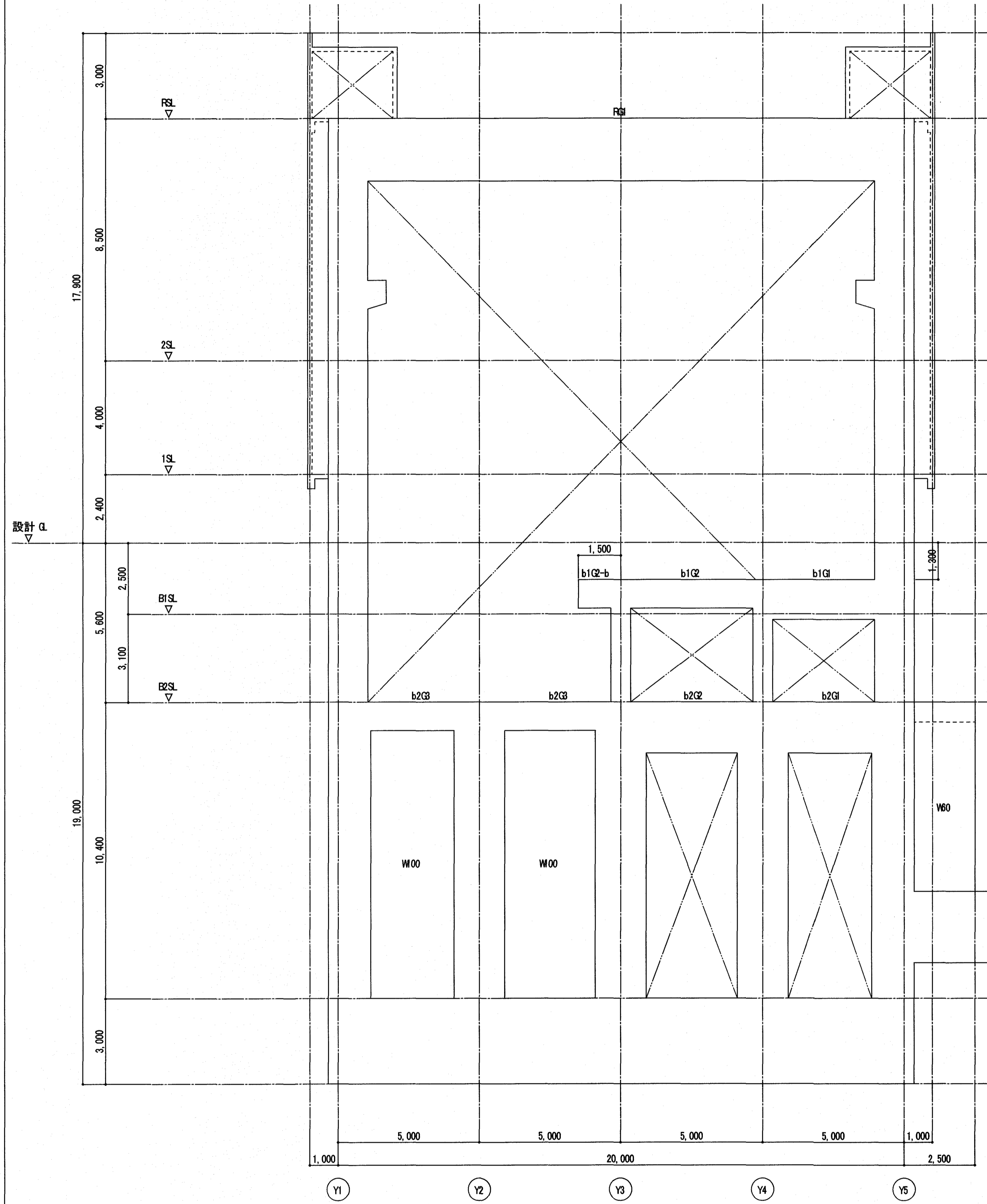
X4 通り 軸組図



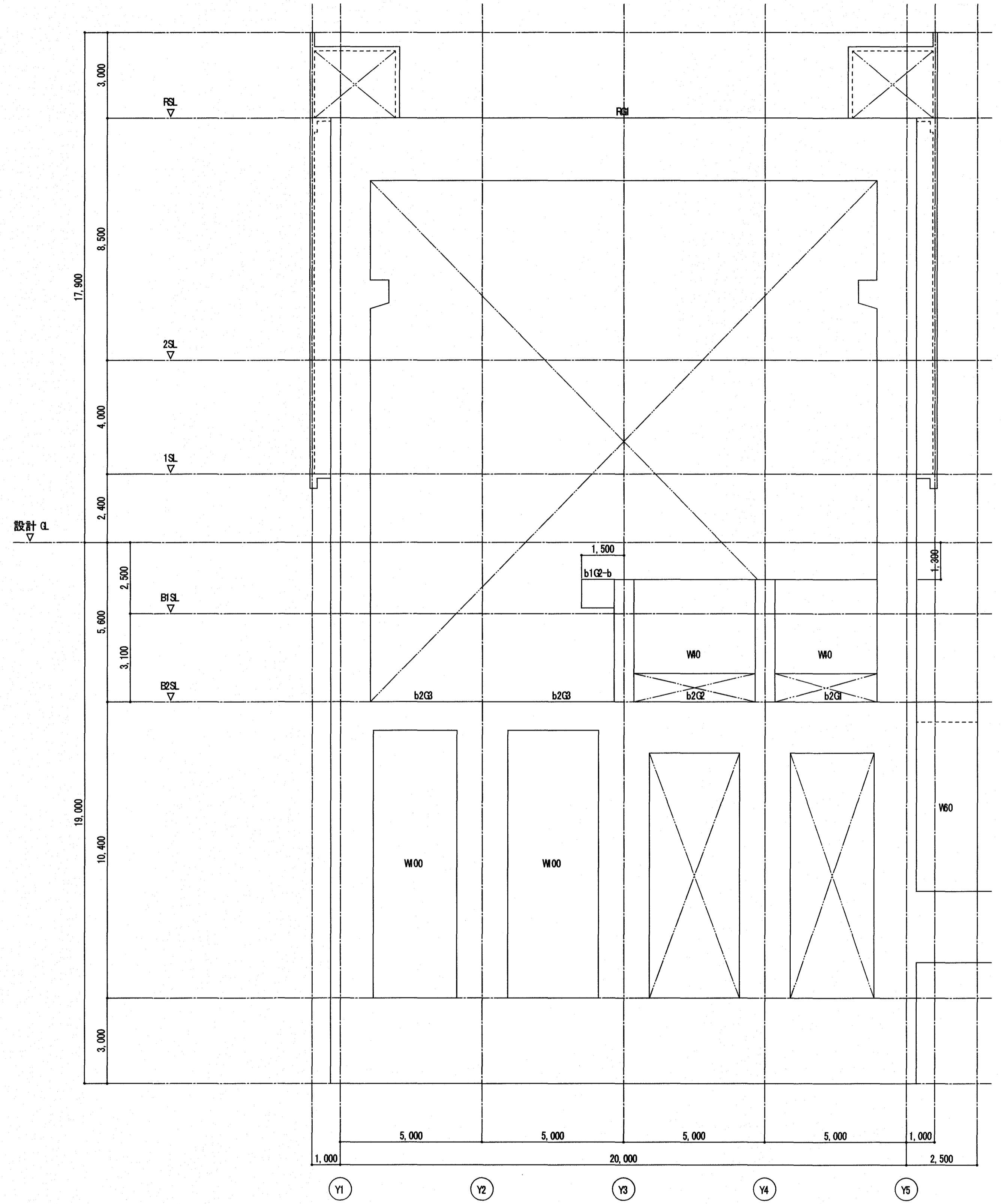
X5 通り 軸組図

特記なき限り下記による。
1. 壁は W5 とする。

受注者 株式会社日産技術コンサルタント 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)	係 係長 課長補佐 課長 図面番号	図面番号 S-19	
	図面名 軸組図(4) (改修後)	縮尺 1/100	作図 年 月 日	



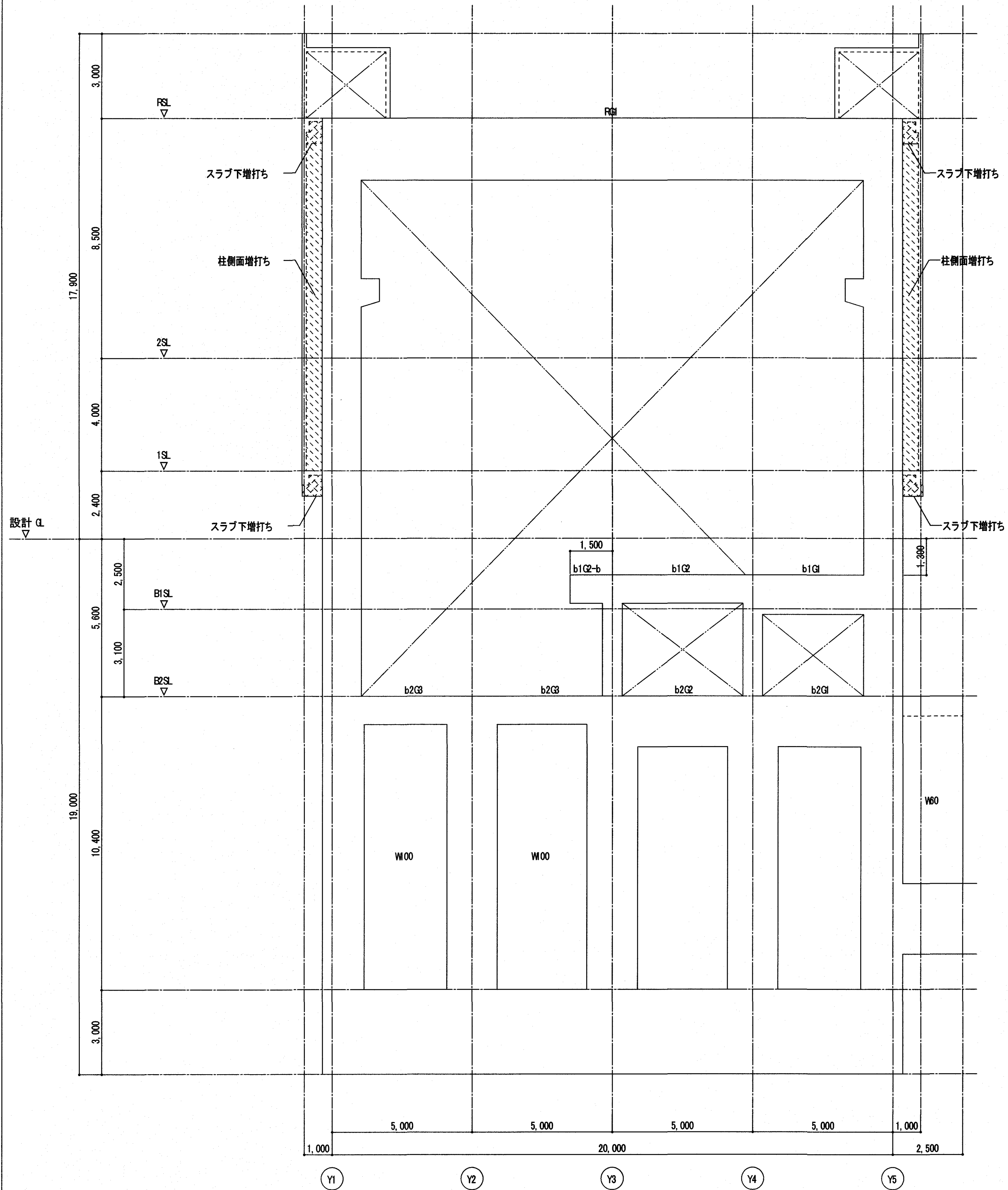
X6 通り 軸組図



X7 通り 軸組図

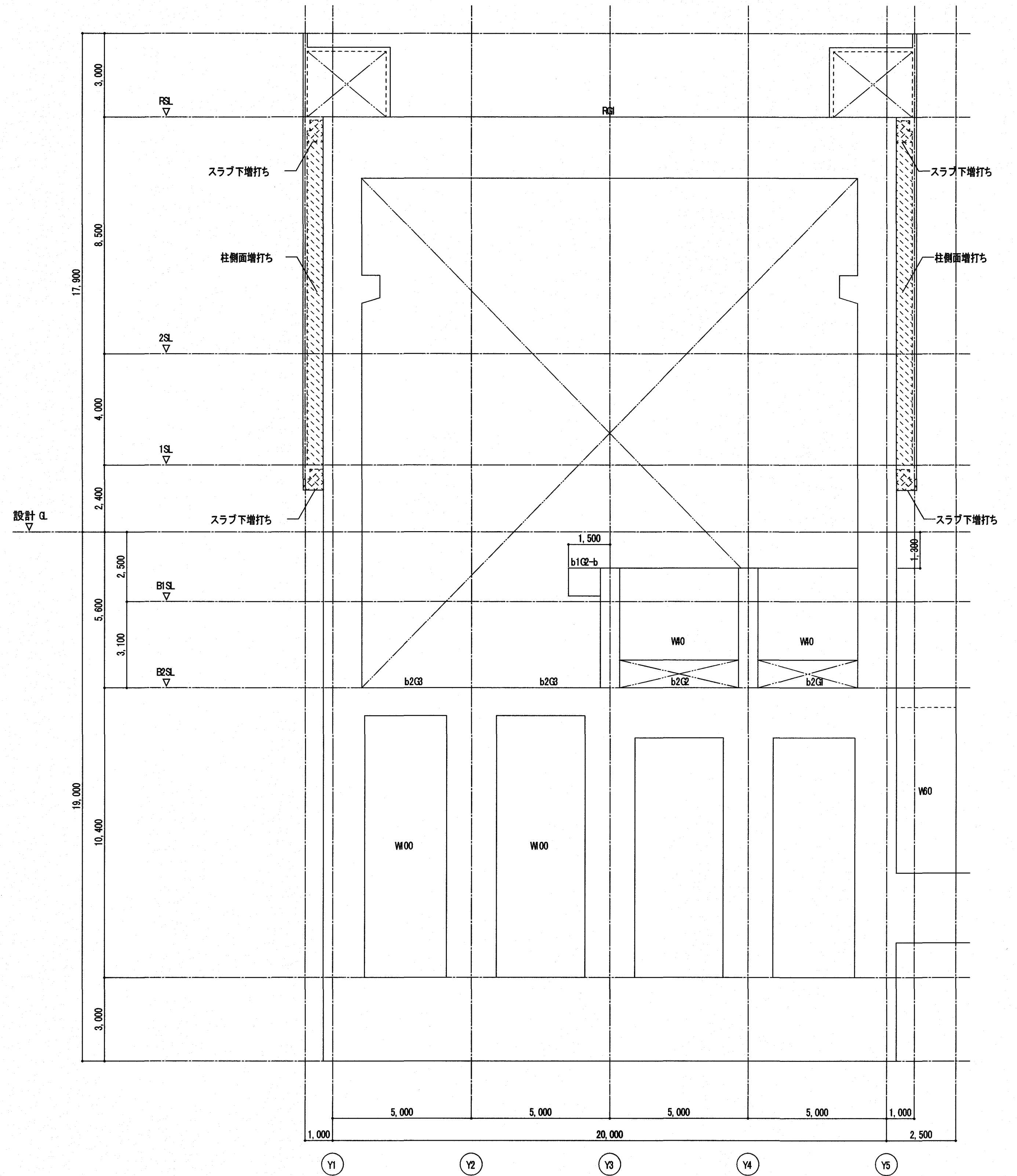
特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

受注者	株式会社日産技術コンサルタント 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)	係 	係長 	課長補佐 	課長 	図面番号 S-20	
	図面名 軸組図(5) (改修前)	縮尺 1/100	作図	年	月	日		



X6 通り 軸組図

特記なき限り下記による。
1. 壁は W5 とする。



X7 通り 軸組図

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名

潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)

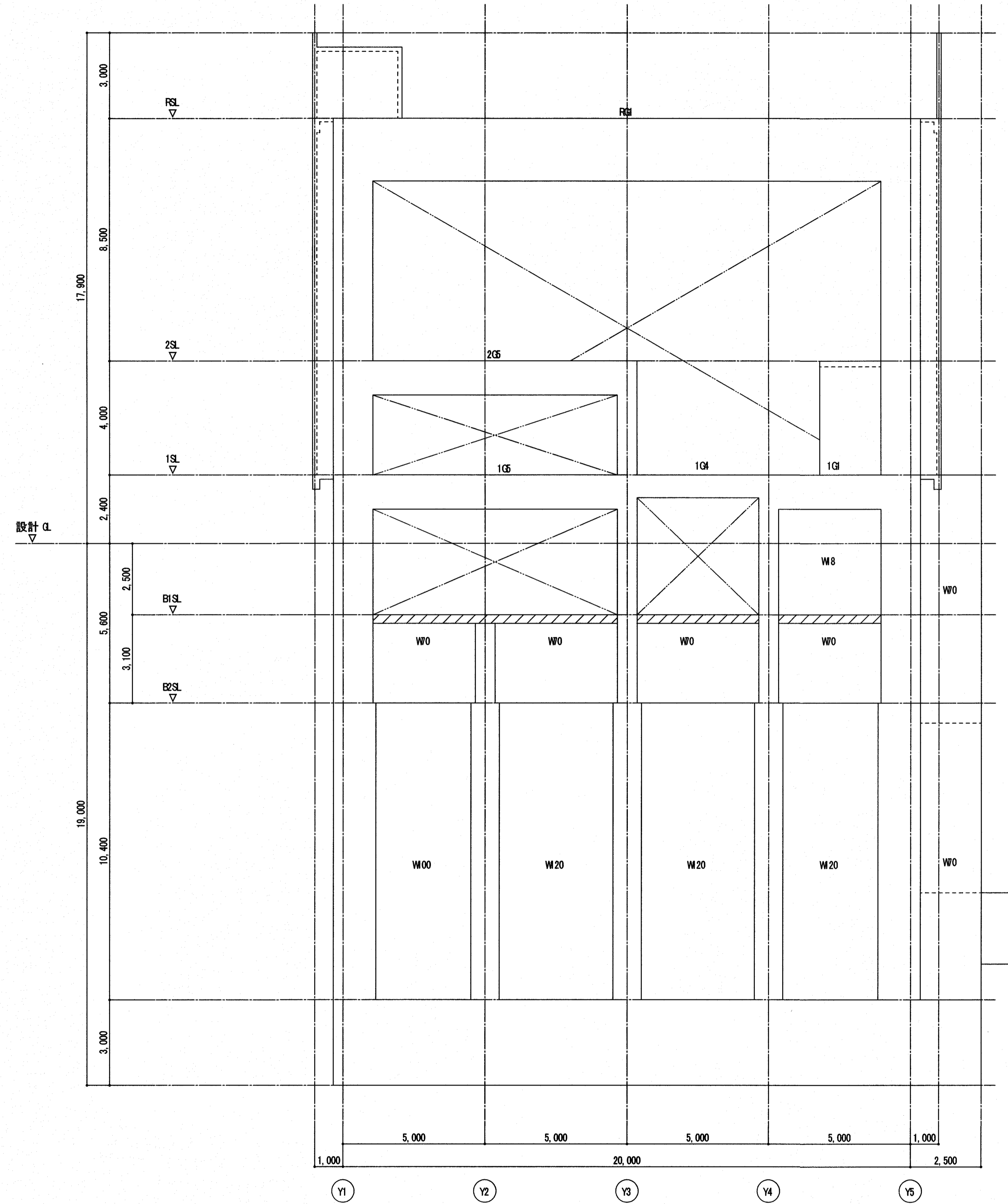
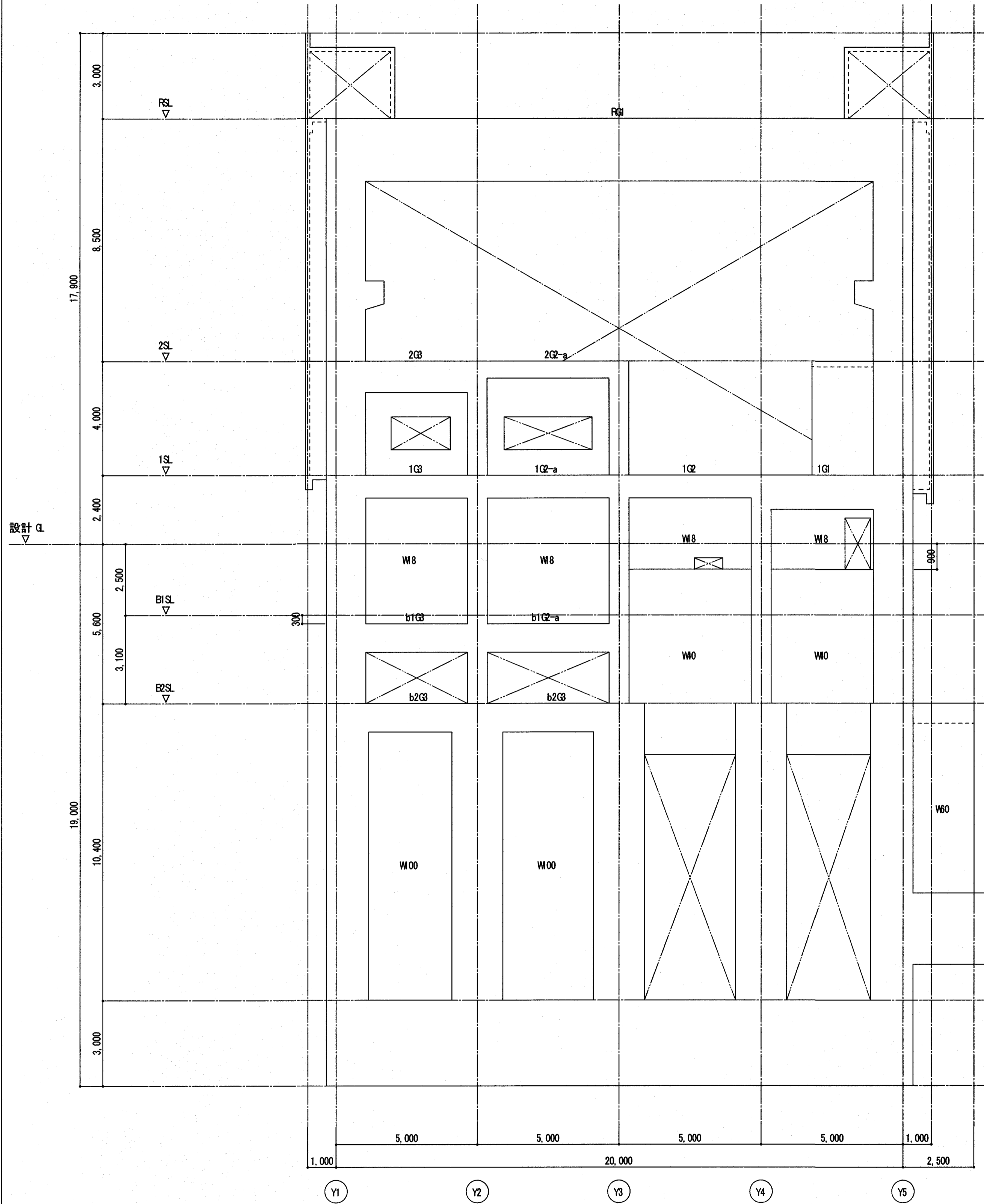
図面名 軸組図(5) (改修後)

縮尺 1/100

係 係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日

S-21



特記なき限り下記による。
1. 壁は W5 とする。

X8 通り 軸組図

X9 通り 軸組図

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

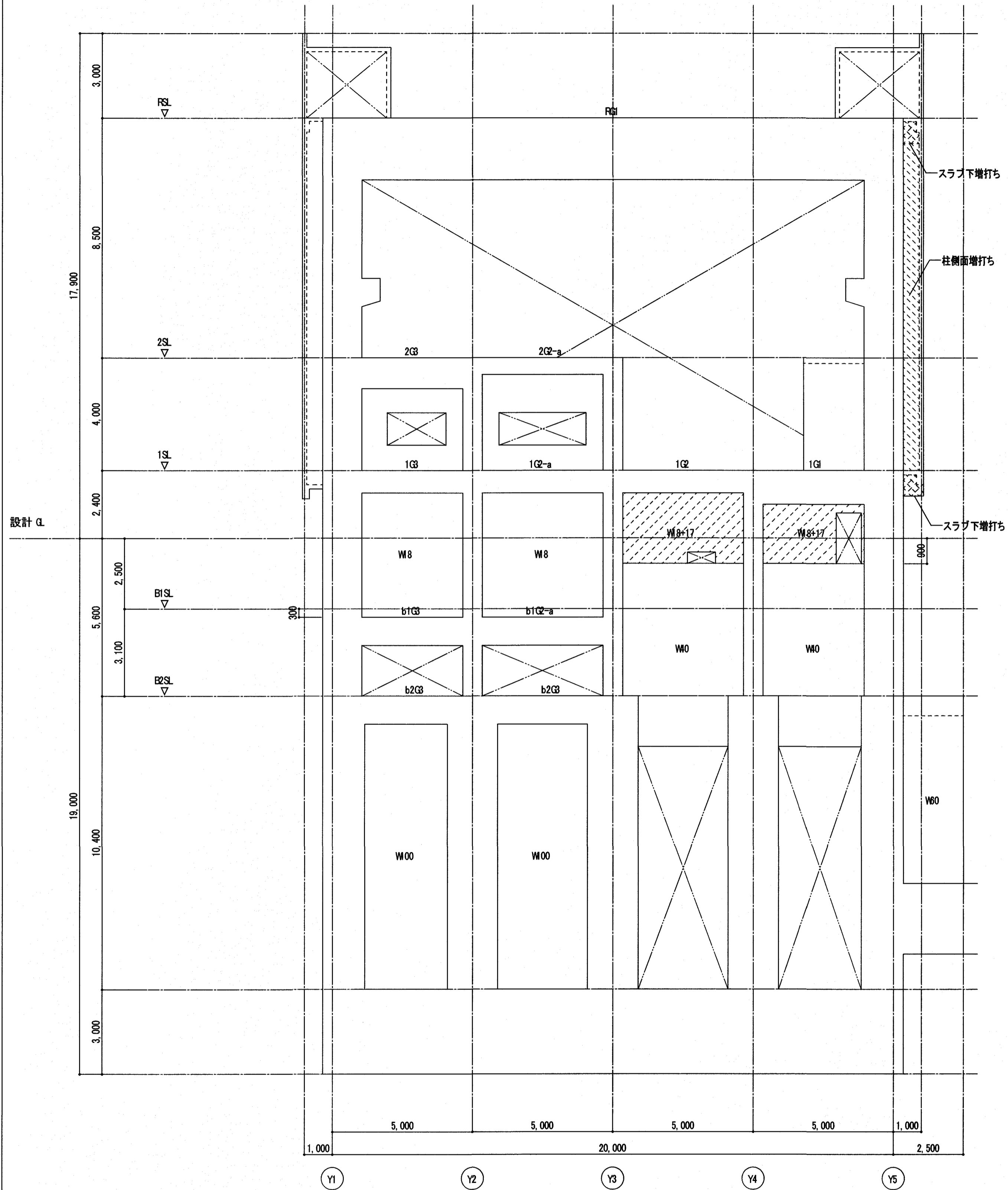
工事名

潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)

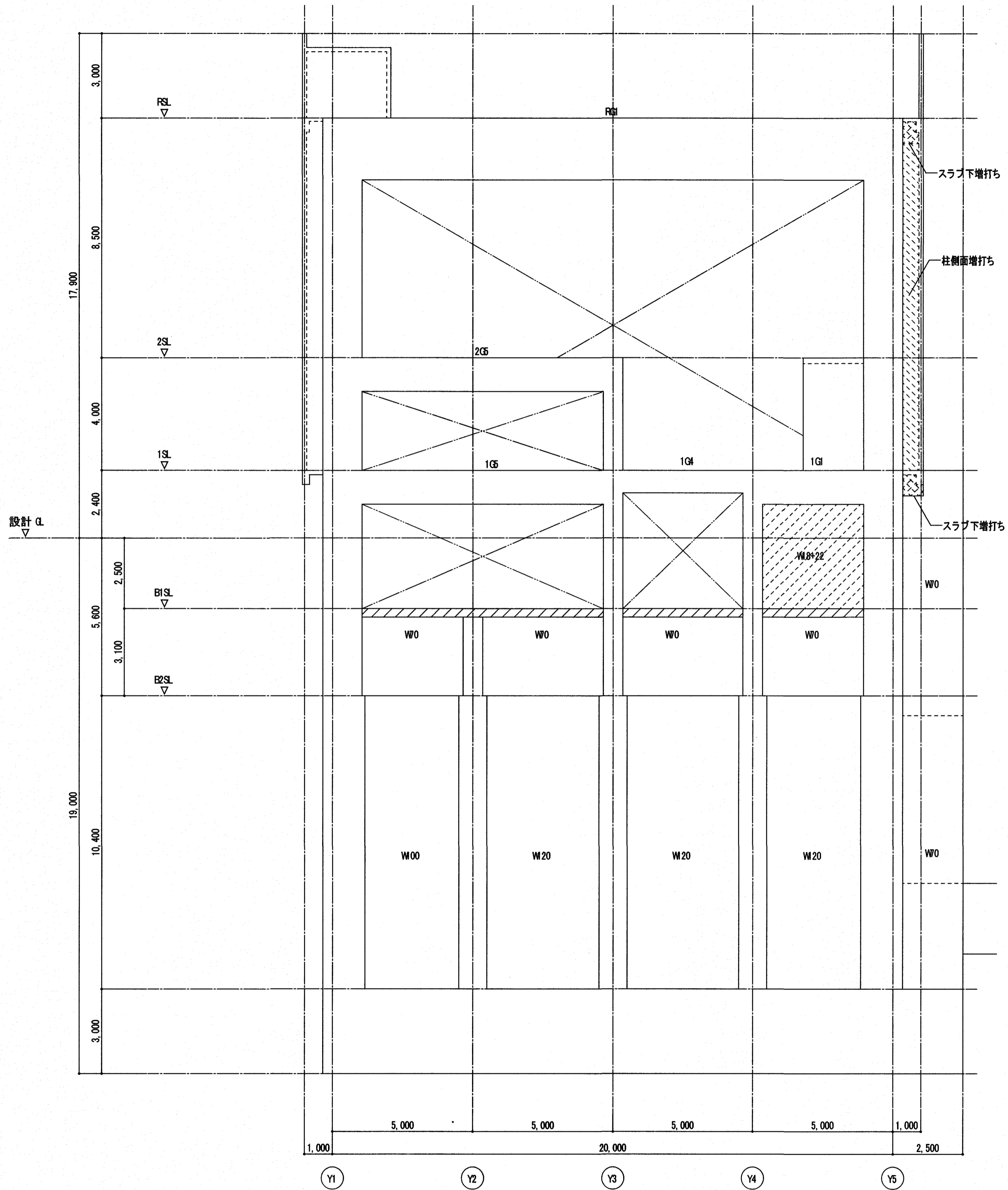
図面名 軸組図(6) (改修前)

縮尺 1/100

係	係長	課長補佐	課長	図面番号
				S-22
作図	年	月	日	



X8 通り 軸組図



X9 通り 軸組図

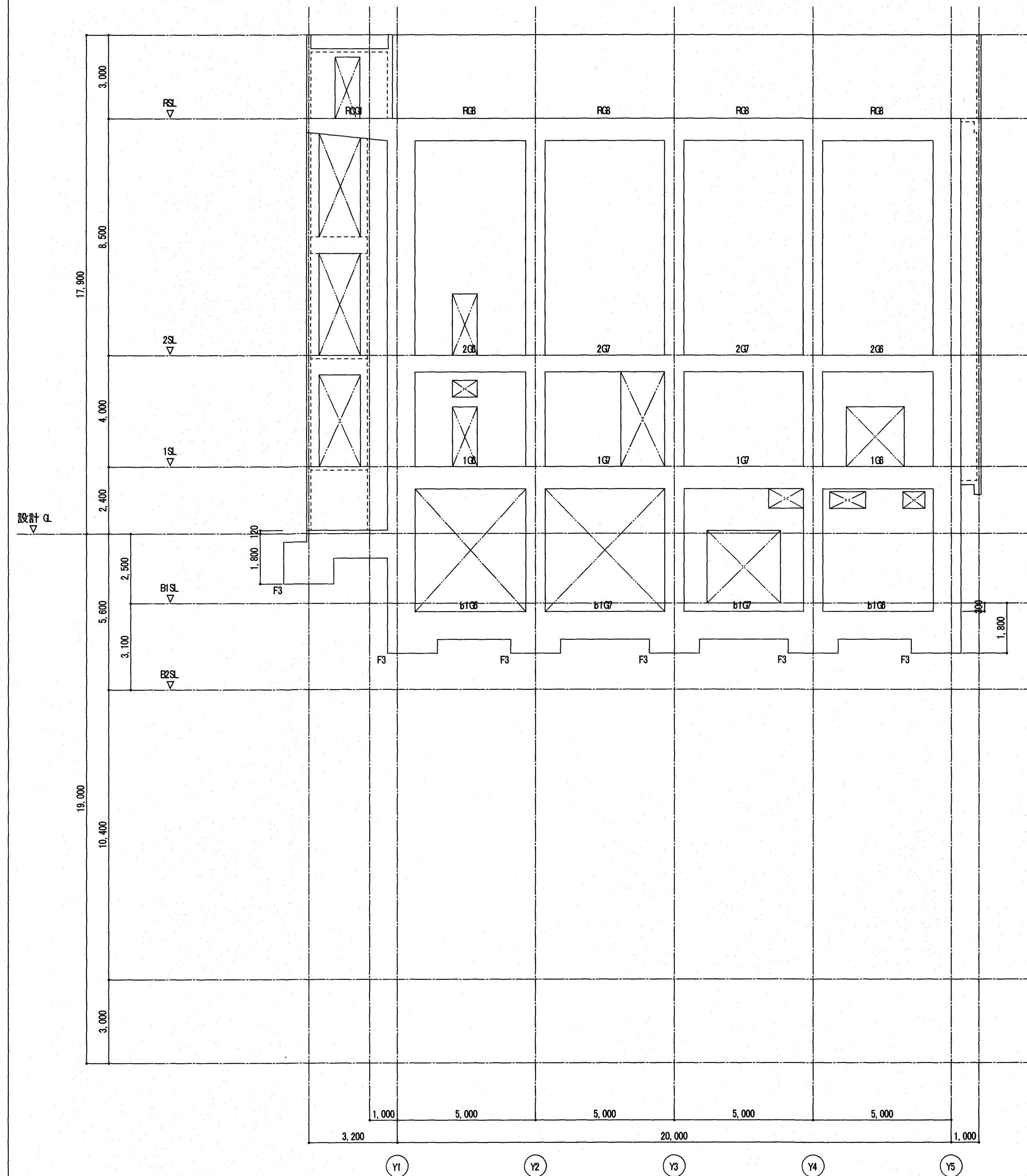
特記なき限り下記による。
1. 壁は W5 とする。

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
 図面名 軸組図 (6) (改修後) 縮尺 1/100

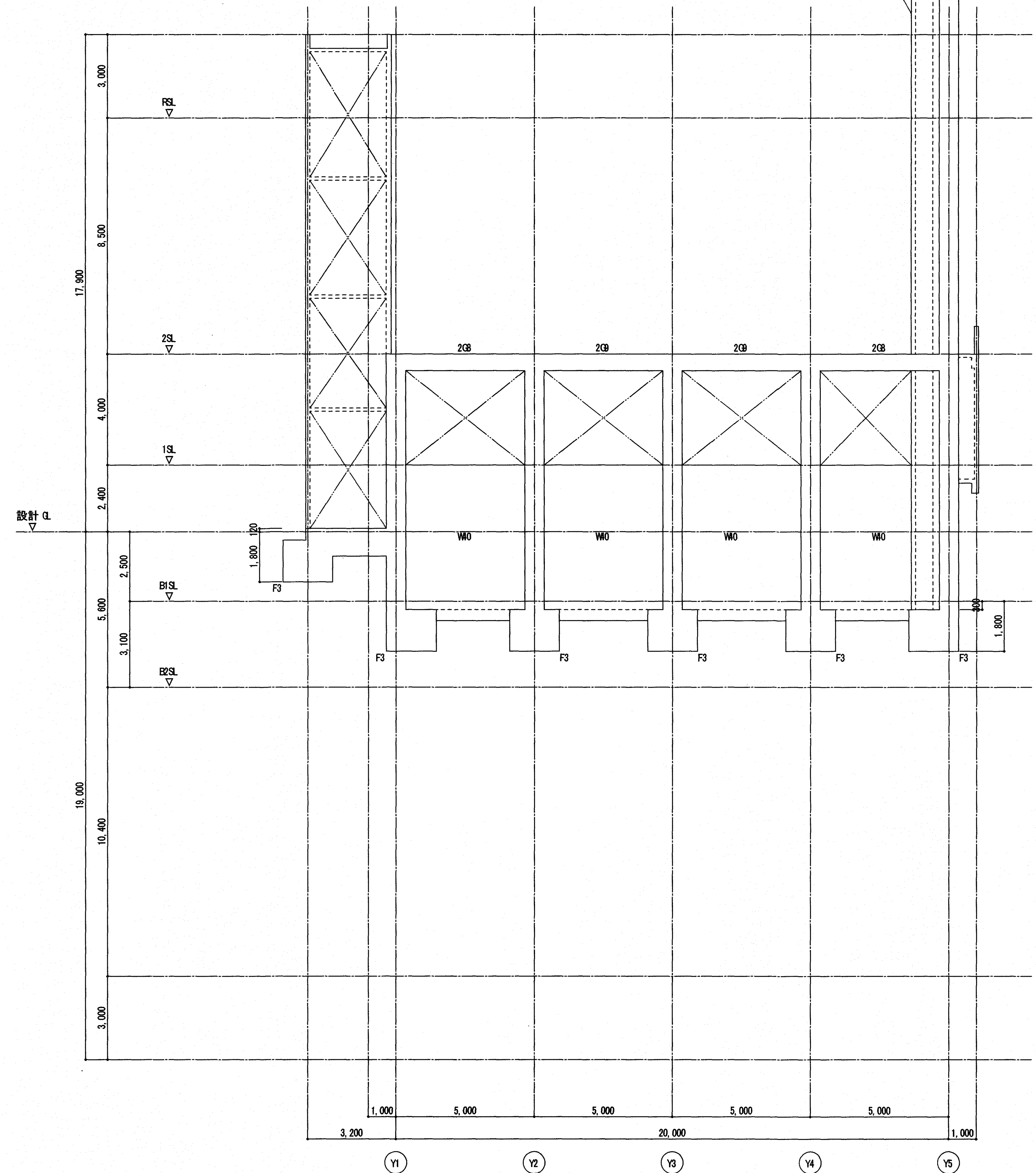
係	係長	課長補佐	課長	図面番号
				S-23
作図	年	月	日	

改修前



X10 通り軸組図

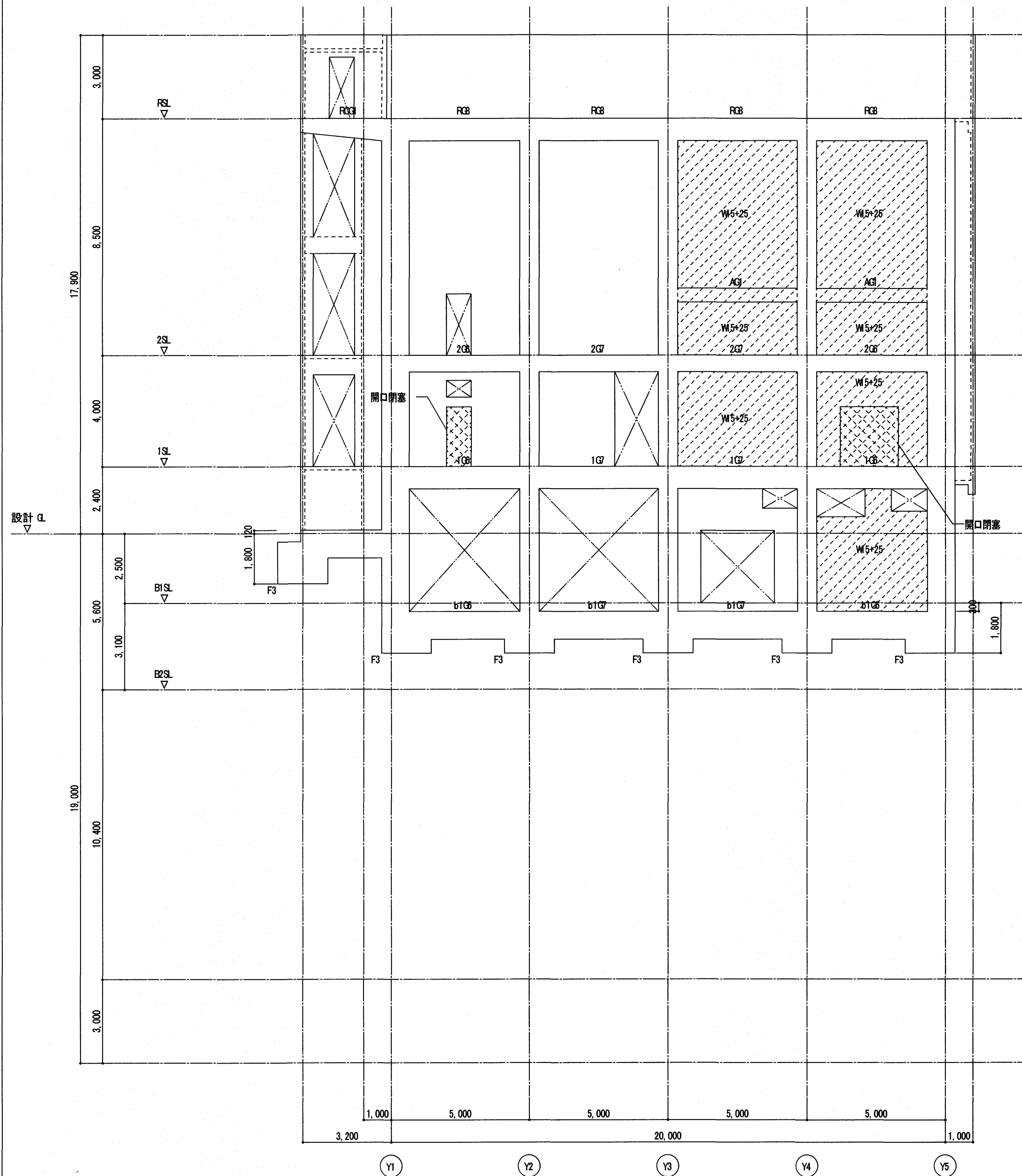
特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。



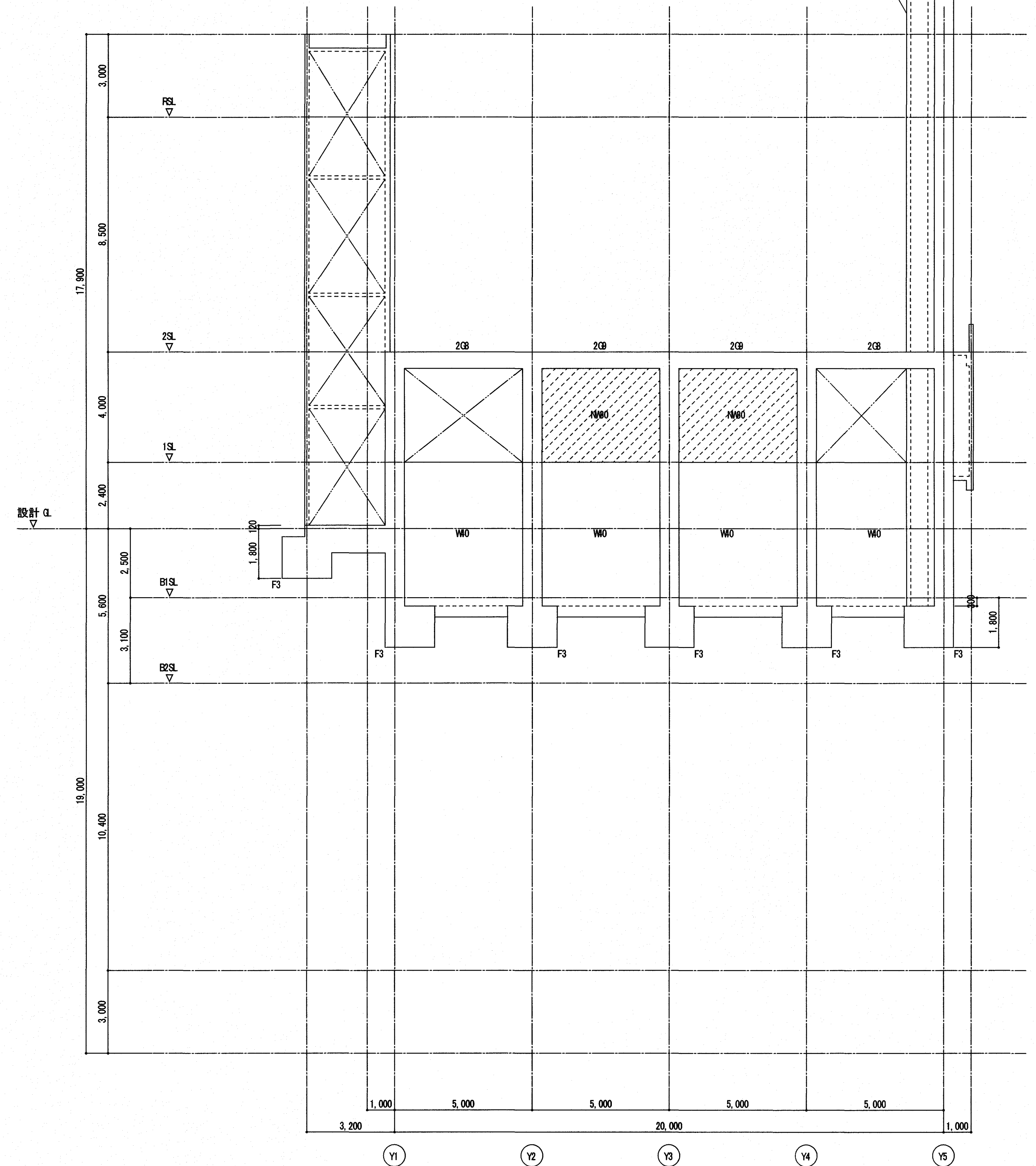
X11 通り軸組図

受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
	一級建築士事務所 大阪府知事登録(子) 第10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	図面名	軸組図(7)(改修前)	縮尺	1/100	作図	年	月

改修後



X10 通り軸組図



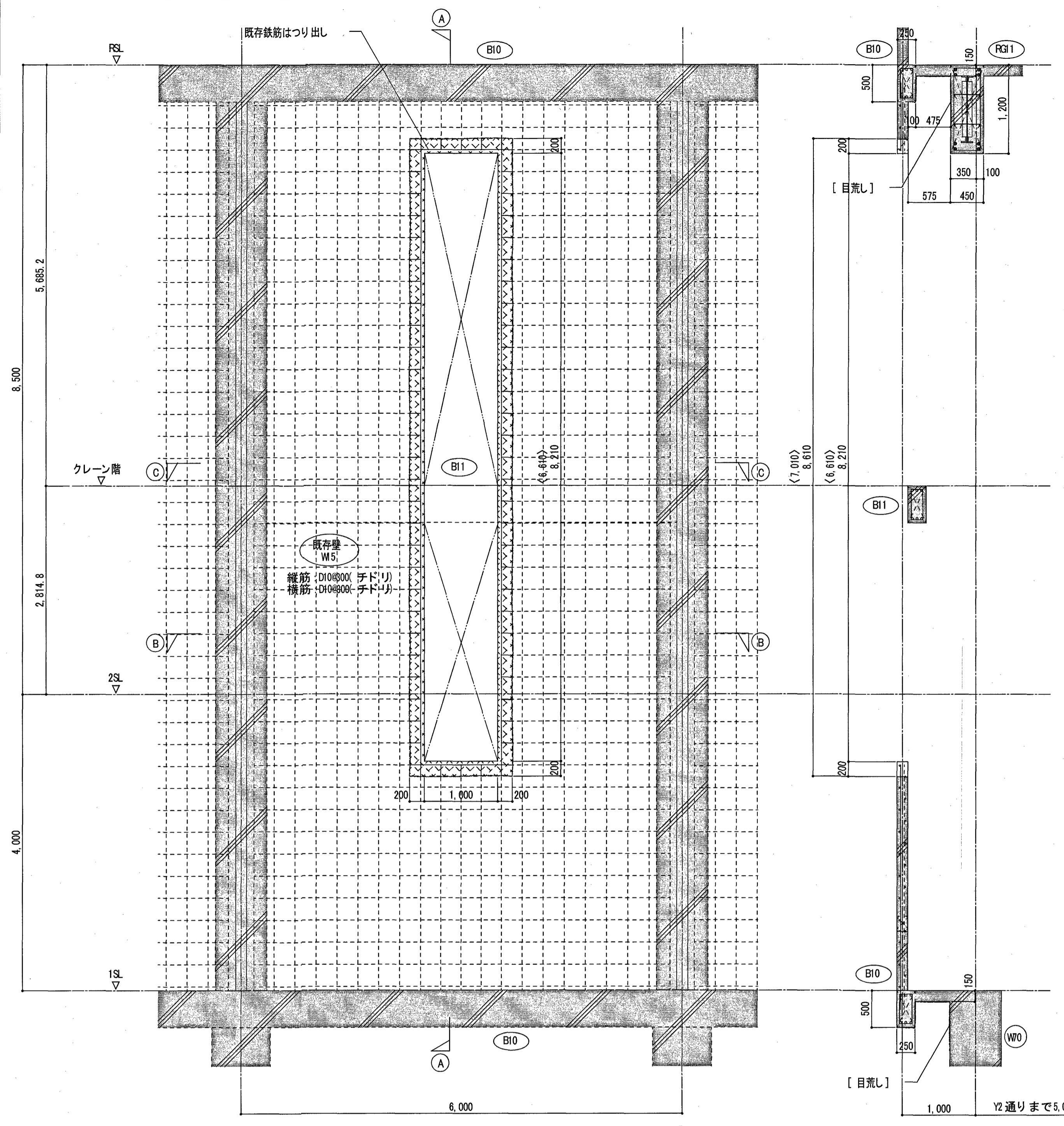
X11 通り軸組図

特記なき限り下記による。
1. 壁はW5とする。

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
 図面名 軸組図(7) (改修後) 縮尺 1/100

係	係長	課長補佐	課長	図面番号
				S-25
作図	年	月	日	



既存柱リスト

符号	E6
1階 (柱頭)	
Dx × Dy	800×1400
主筋	18-D32+8-D22
フープ	□-D13#100
主材	4L-150×150×6
ラチス材	2L-65×65×6
備考	
1階 (柱脚)	
	800×1400
	24-D32+8-D22
	□-D13#100
	4L-150×150×6
	2L-65×65×6

既存大梁リスト

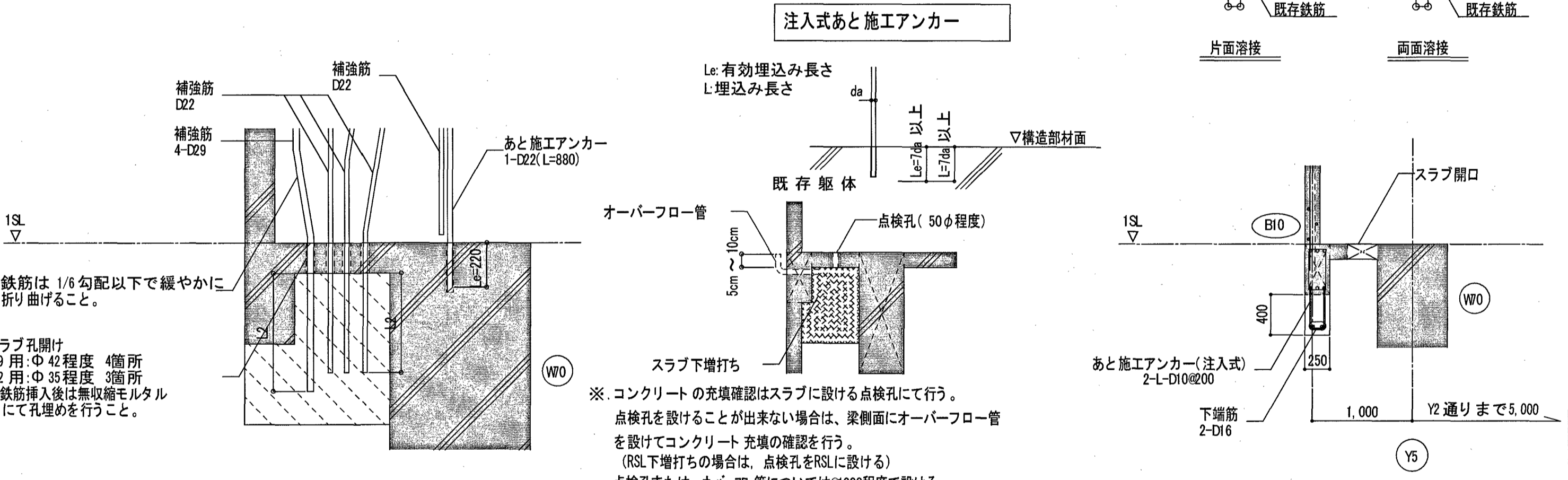
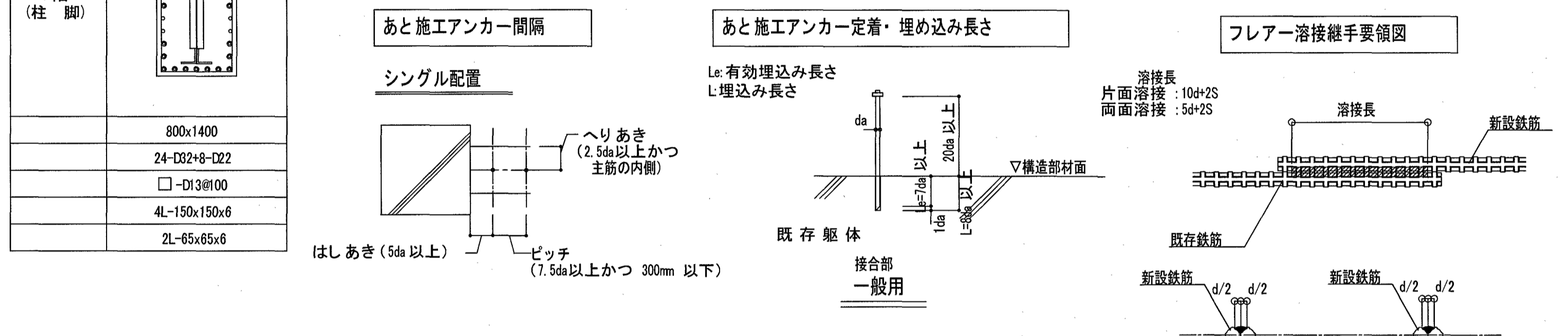
符号	FGI1	
位置	端部	中央
断面		
B × D	450×1200	
上端筋	4-D25	2-D25
下端筋	4-D25	2-D25
スタラップ	□-D13#200	
腹筋	4-D13	
主材	4L-75×75×9	
ラチス材	2L-65×65×6	
備考		

既存小梁リスト

符号	BI0		BI1	
	全断面	全断面	全断面	全断面
位置				
断面				
B × D	250×500	400×500	250×500	
上端筋	3-D19	3-D19	3-D19	
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	
スタラップ	□-D10#200	□-D10#200		
備考				

既存壁リスト

符号	WS5
位置	
断面	
縦筋	D10#800 チドリ
横筋	D10#800 チドリ
巾止め筋	
備考	



Y1通り-1000詳細図

※〈 〉内寸法はY5-Y8 通り間を示す。

A-A断面図

※〈 〉内はY5-Y8 通りの開口寸法を示す。

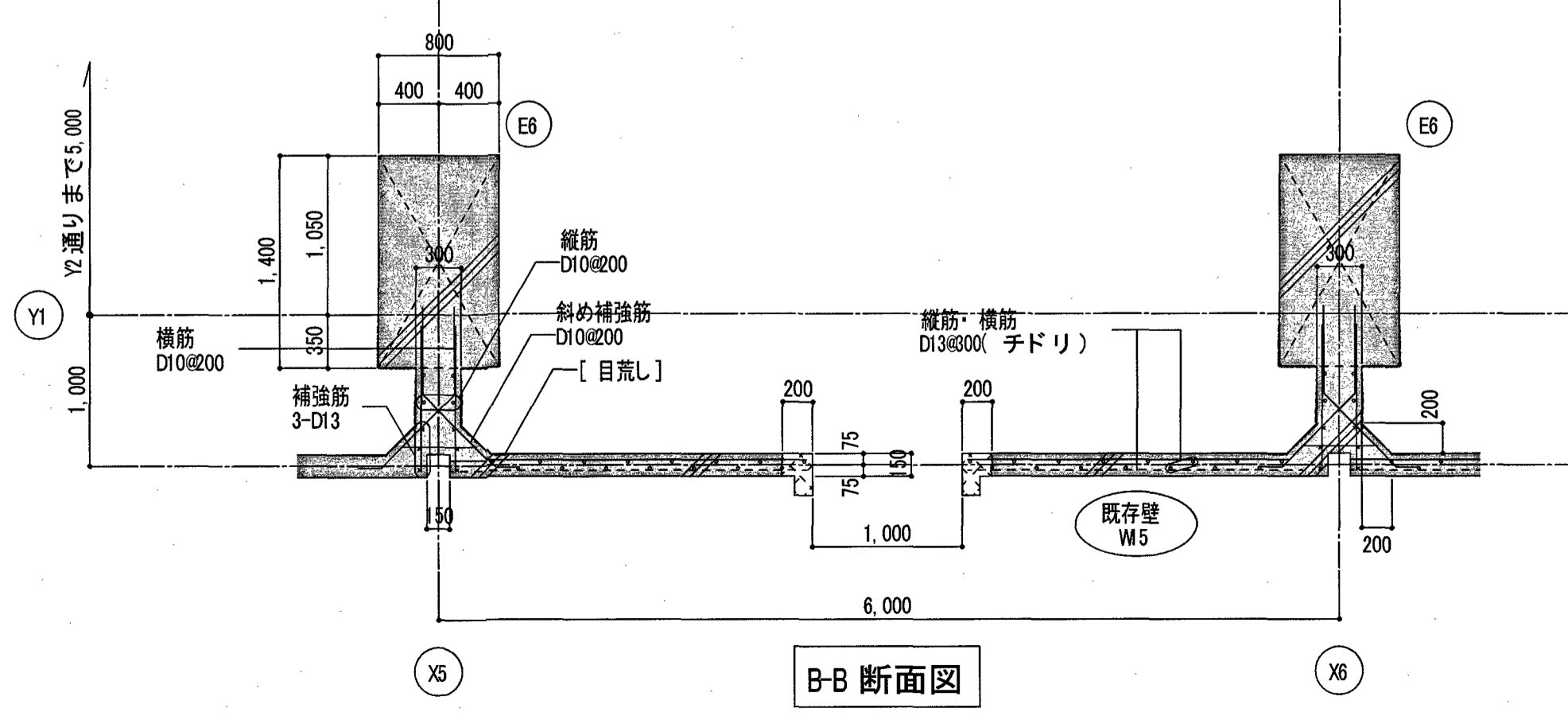
1階柱側面増打ち補強筋定着要領

※ コンクリートの充填確認はスラブに設ける点検孔にて行う。
点検孔を設けることが出来ない場合は、梁側面にオーバーフロー管を設けてコンクリート充填の確認を行う。
(RSL下増打の場合は、点検孔をRSLに設ける)
点検孔または、オーバーフロー管については#1000程度で設ける。
※ コンクリート打設は、梁側面又はスラブにコア抜きをして打設する

1SL・RSL下増打ちコンクリート打設について

1階Y5通り X4-5間スラブ下増打ち補強

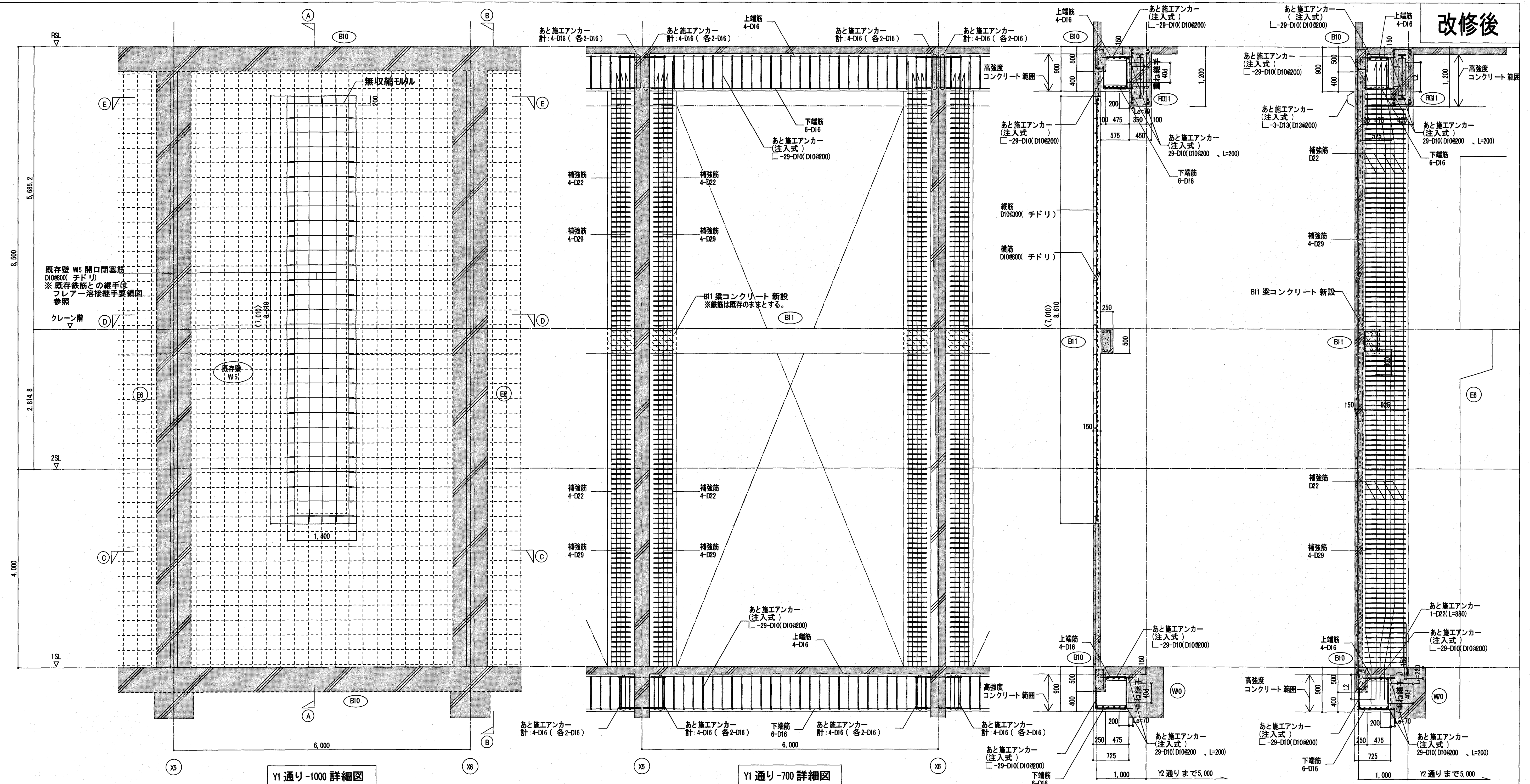
- 注記 特記なき限り下記による
1. コンクリート強度 Fc24N/mm² スラブ18cmとする。
 - 1SL・RSLスラブ下増打ち部については、高強度コンクリート強度 Fc39N/mm² スラップフロー60cmとする
 2. 使用鉄筋は、6Φ: S235、D16以下: S2295、D19以上: S2345
 3. は既存躯体を示す。
 4. は撤去範囲を示す。
 5. [] 内は、改修内容を示す。
 6. ▽ はカッター入れを示す。
 7. 鉄筋の定着 L2または、L2hについては鉄筋コンクリート 構造配筋標準図参照。
 8. あと施工アンカーは接着剤とし、接着剤の品質は有機系とする。
 9. 特記なきあと施工アンカーは回転・打撃式とする。(※施工が困難な箇所等、一部注入式あと施工アンカーを使用)
 10. あと施工アンカーは、ナット付きとする。
 11. あと施工アンカーの打設部位については、既存躯体の鉄筋位置を調査する事。
 12. 補強部材と既存コンクリート躯体との接合面については 既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート又はモルタル打設前に充分水湿しを行うこと。
 13. 「開口閉塞」「柱側面増打ち」「スラブ下増打ち」補強について、 Y1通りのX4-Y5 通り間・X6-Y7 通り間および、Y5通りのX4-Y8 通り間についても本詳細図(改修前・改修後)と同要領とする。 Y1通りのX4-Y5 通り間・Y5通りのX4-Y8 通りの「柱側面増打ち」補強及びルーフトレンド部分の詳細については、補強詳細図(3)に依う。
 14. Y1通りのX4-Y5 通りのX4-Y8 通りの「柱側面増打ち」補強及びルーフトレンド部分の詳細については、補強詳細図(3)に依う。



B-B断面図

C-C断面図

改修後



Y1 通り-1000 詳細図

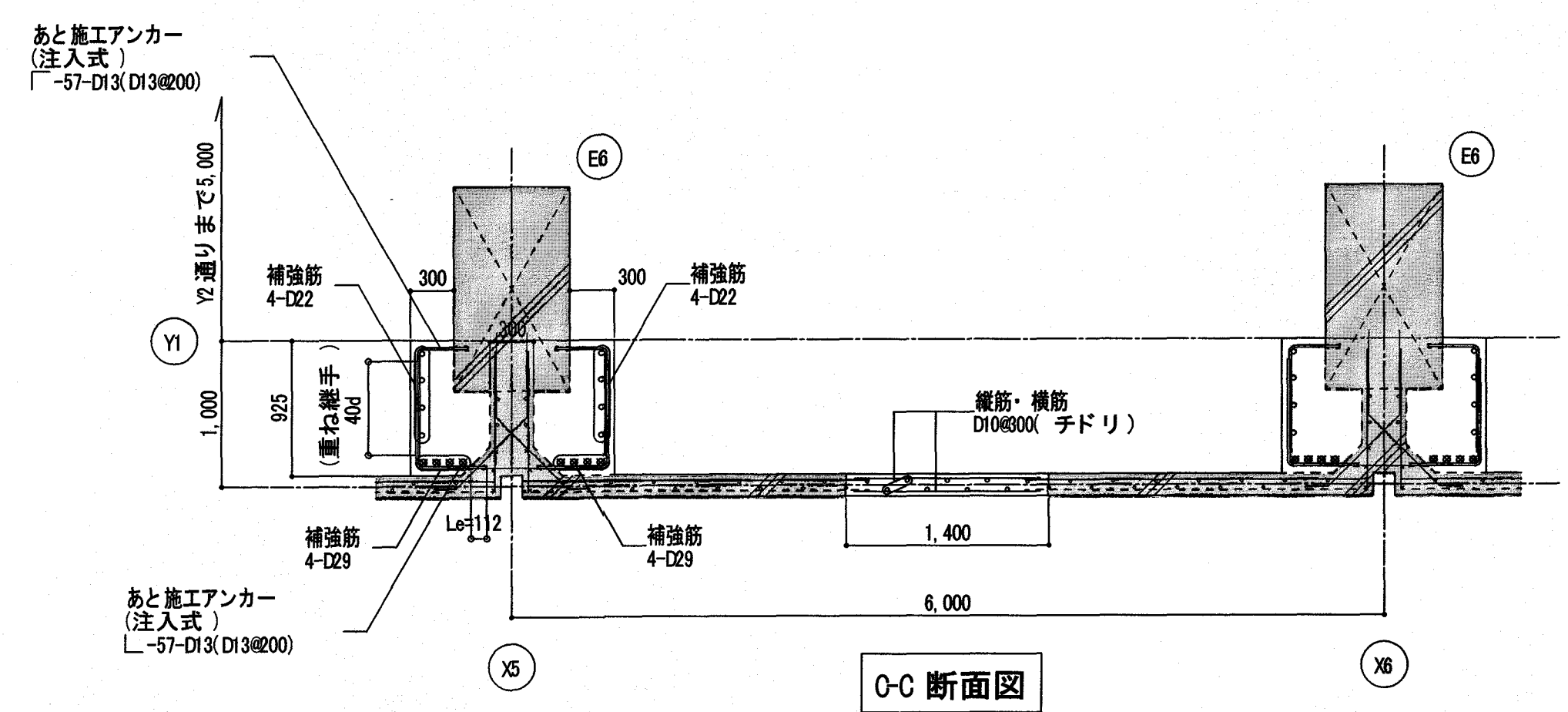
Y1 通り-700 詳細図

A-A 断面図 Y1

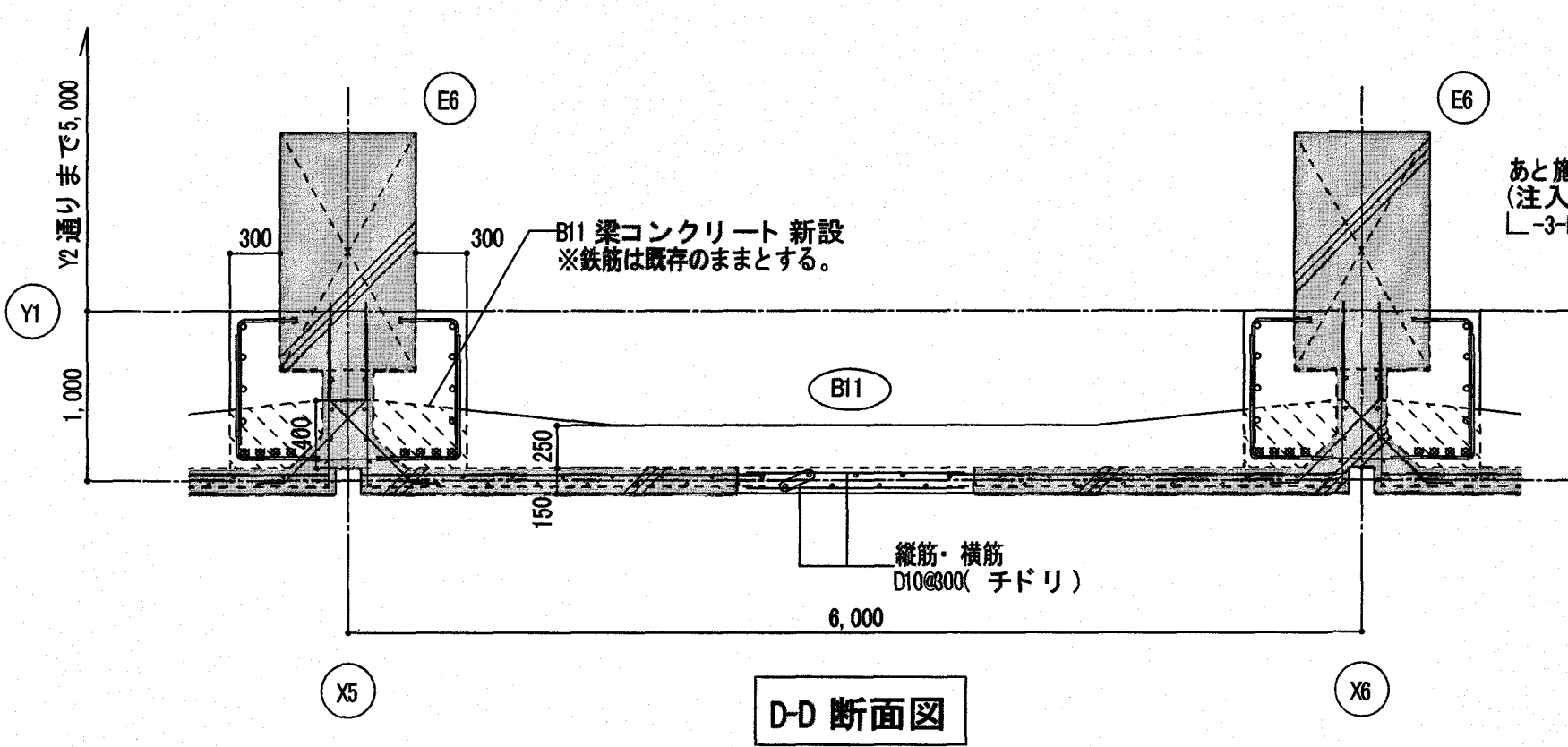
B-B 断面図 Y1

※() 内寸法はY5/Y8-Y9 通り間を示す。

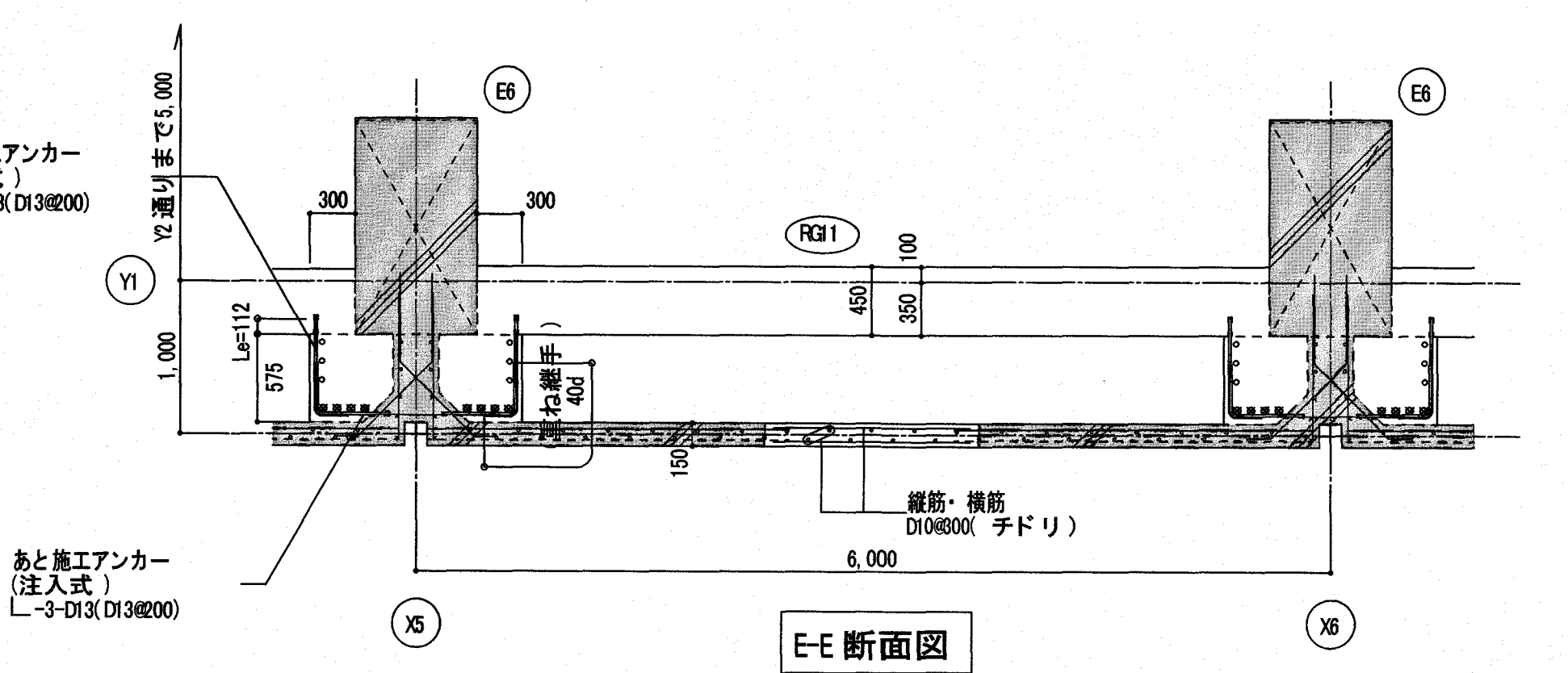
※() 内寸法はY5/Y8-Y9 通り間を示す。



C-C 断面図



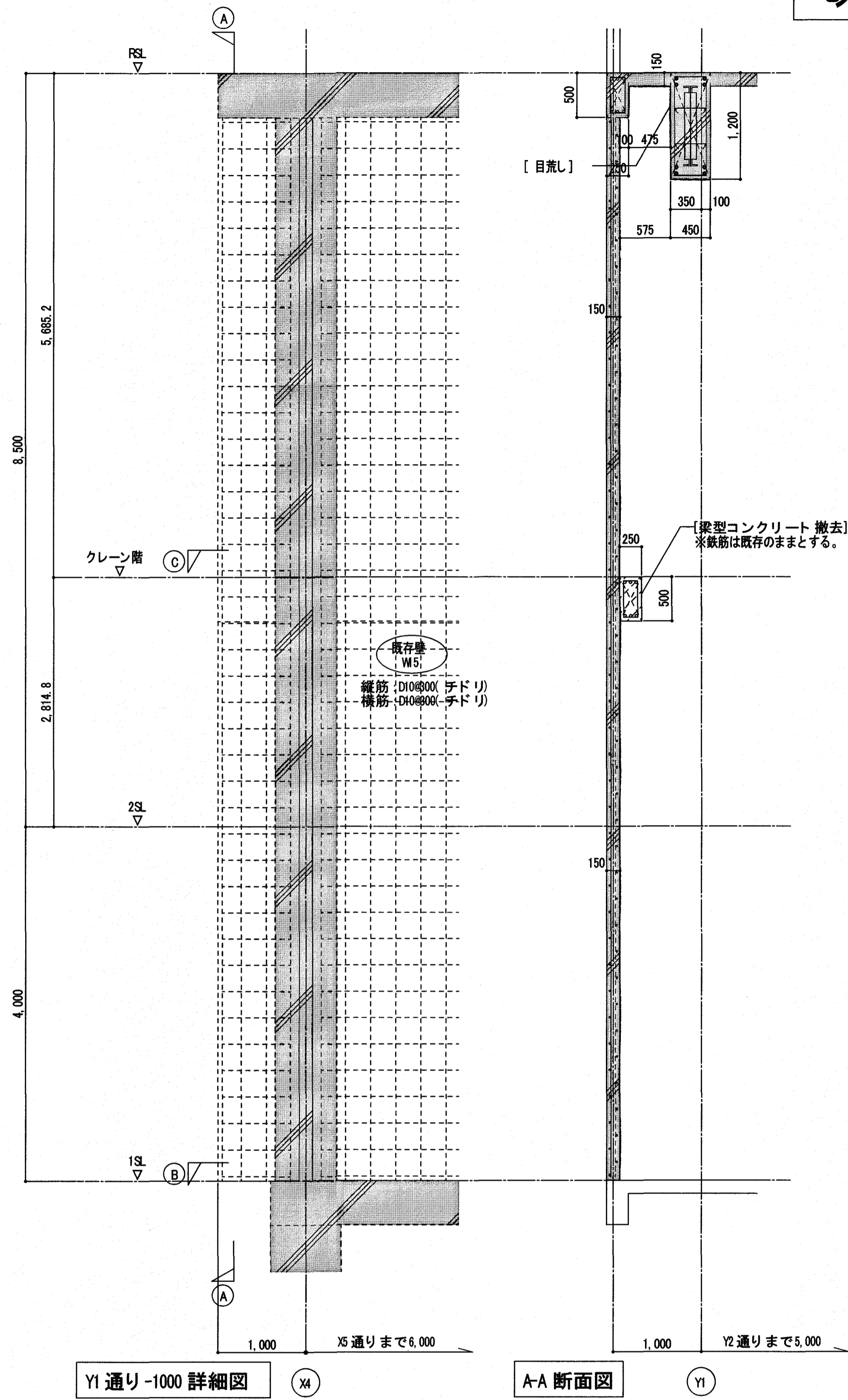
D-D 断面図



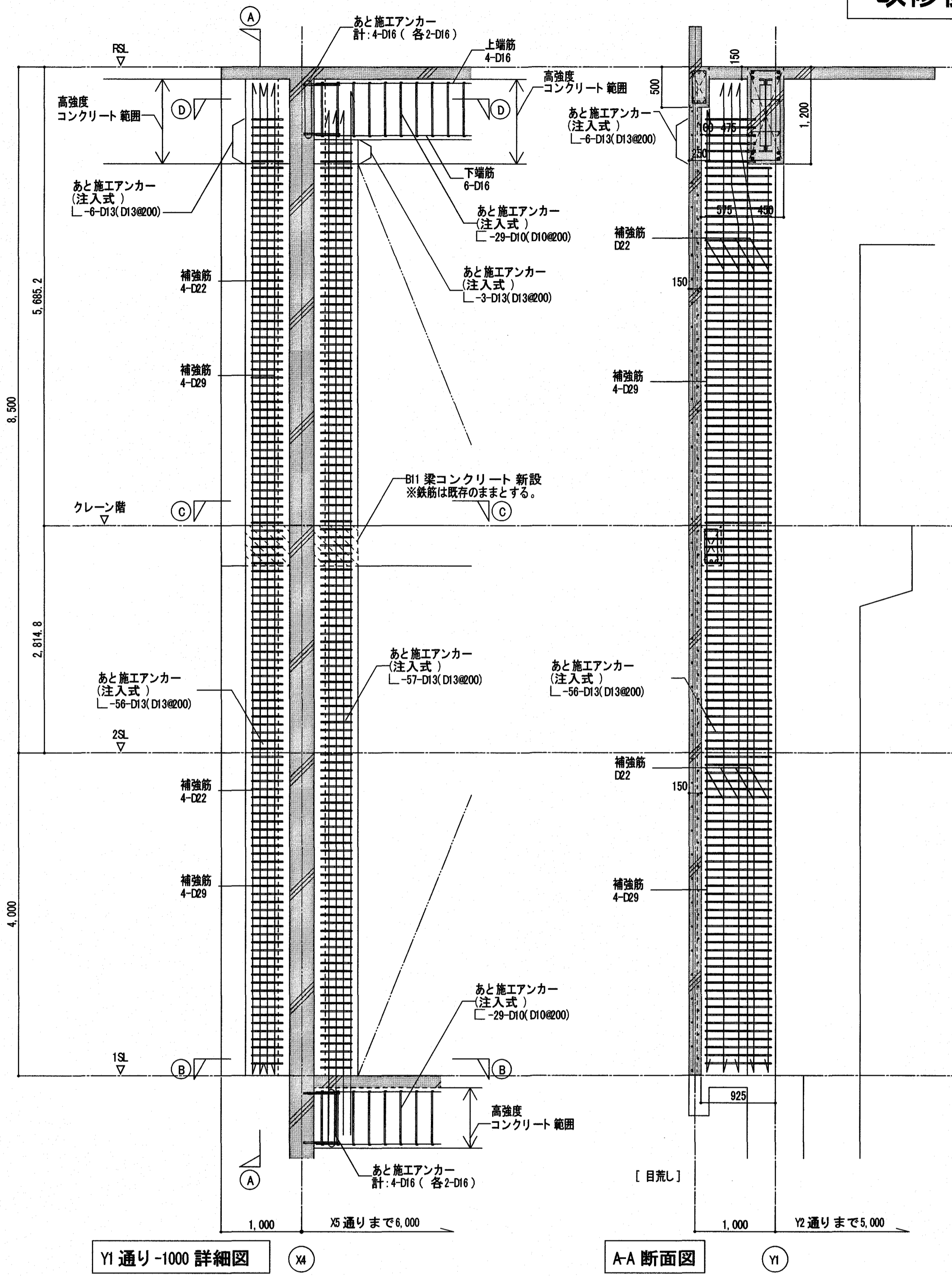
E-E 断面図

受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)	係	保長	課長補佐	課長	図面番号
	一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	図面名 補強詳細図(2)	縮尺 1/40	作図	年	月	日	S-27

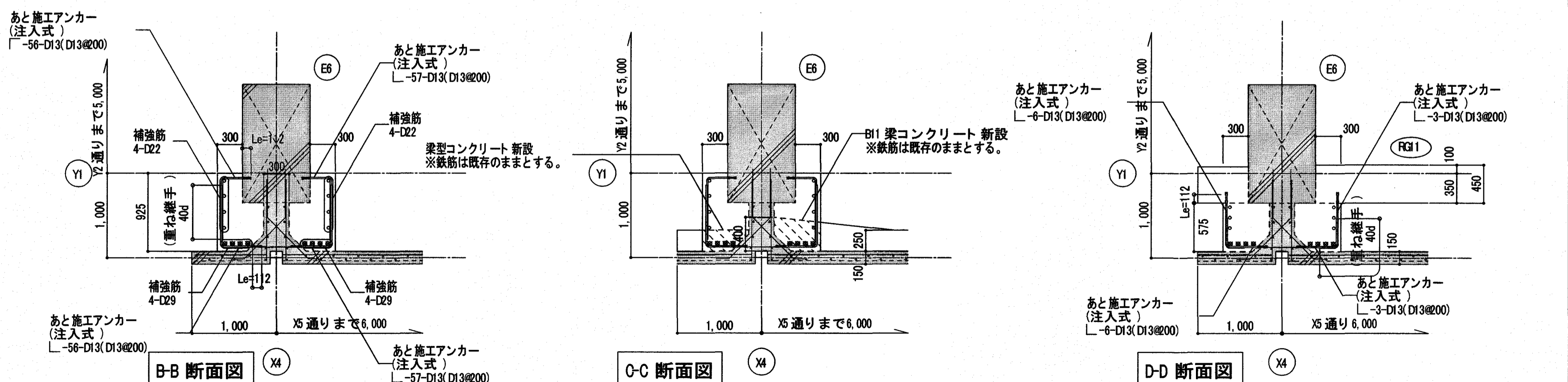
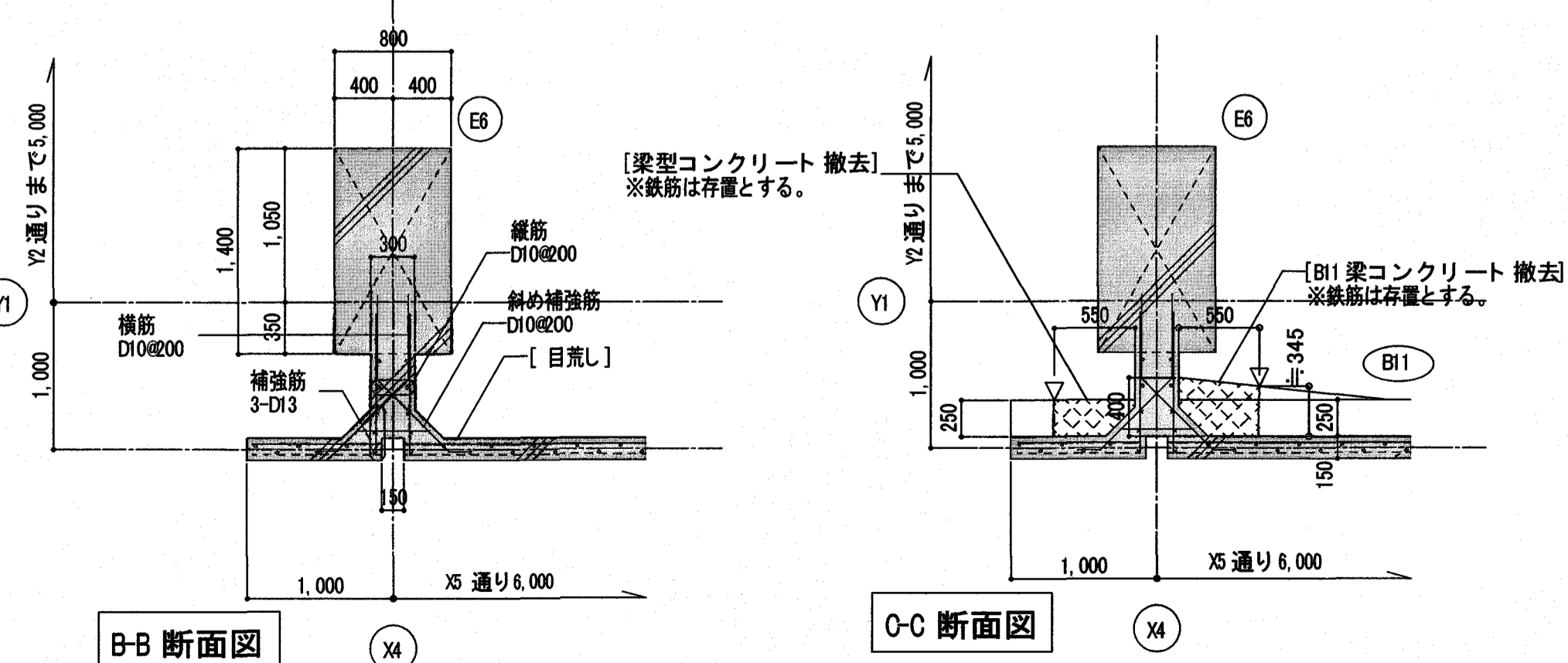
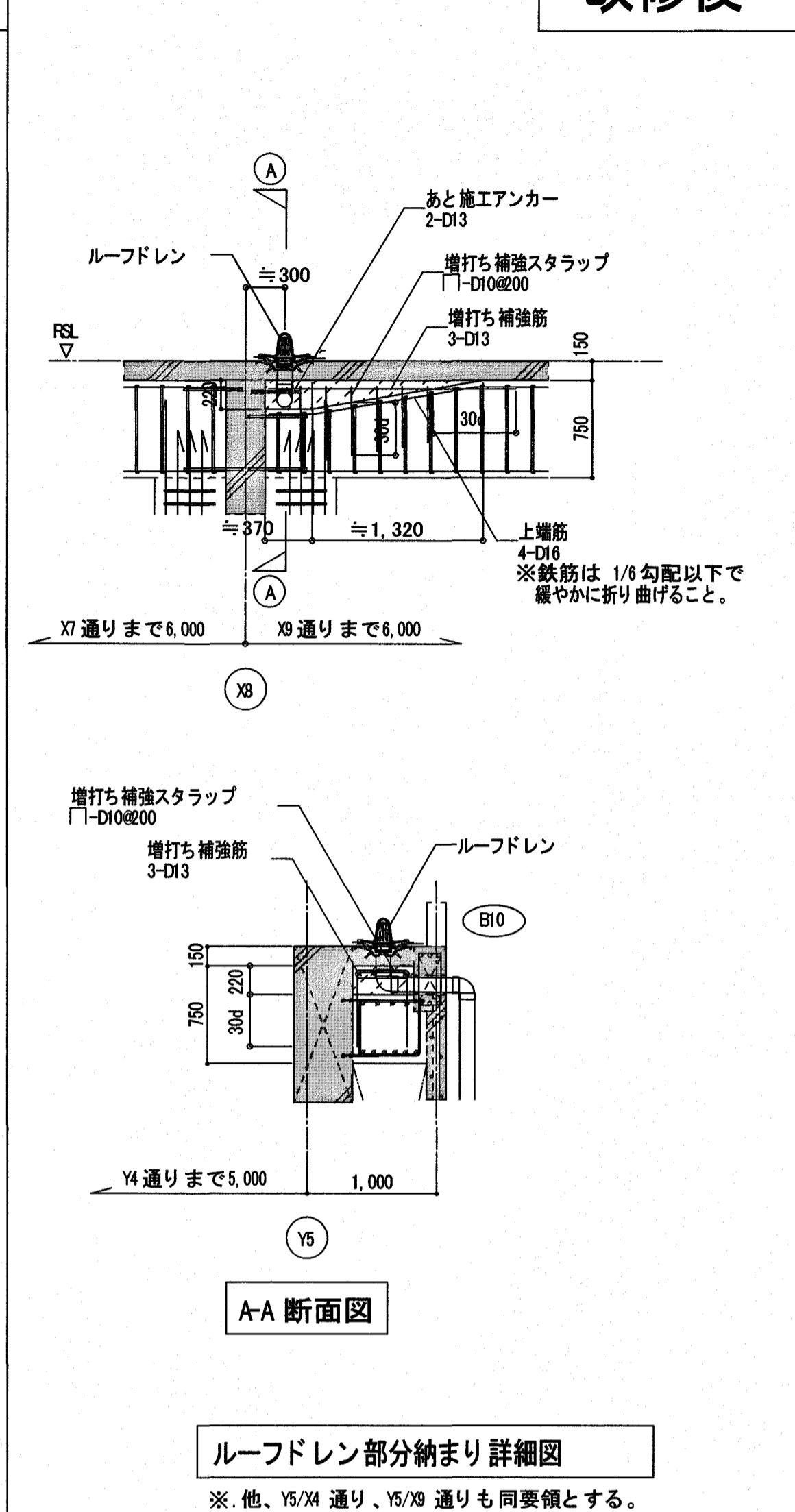
改修前



改修後



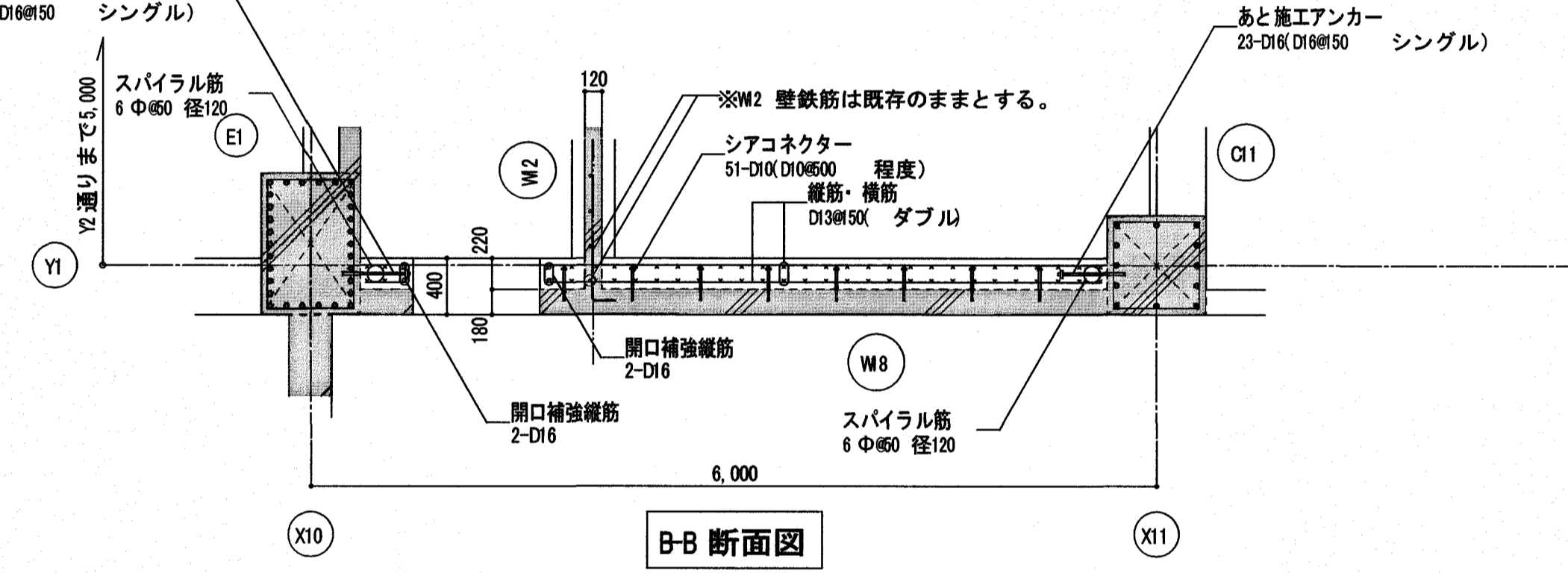
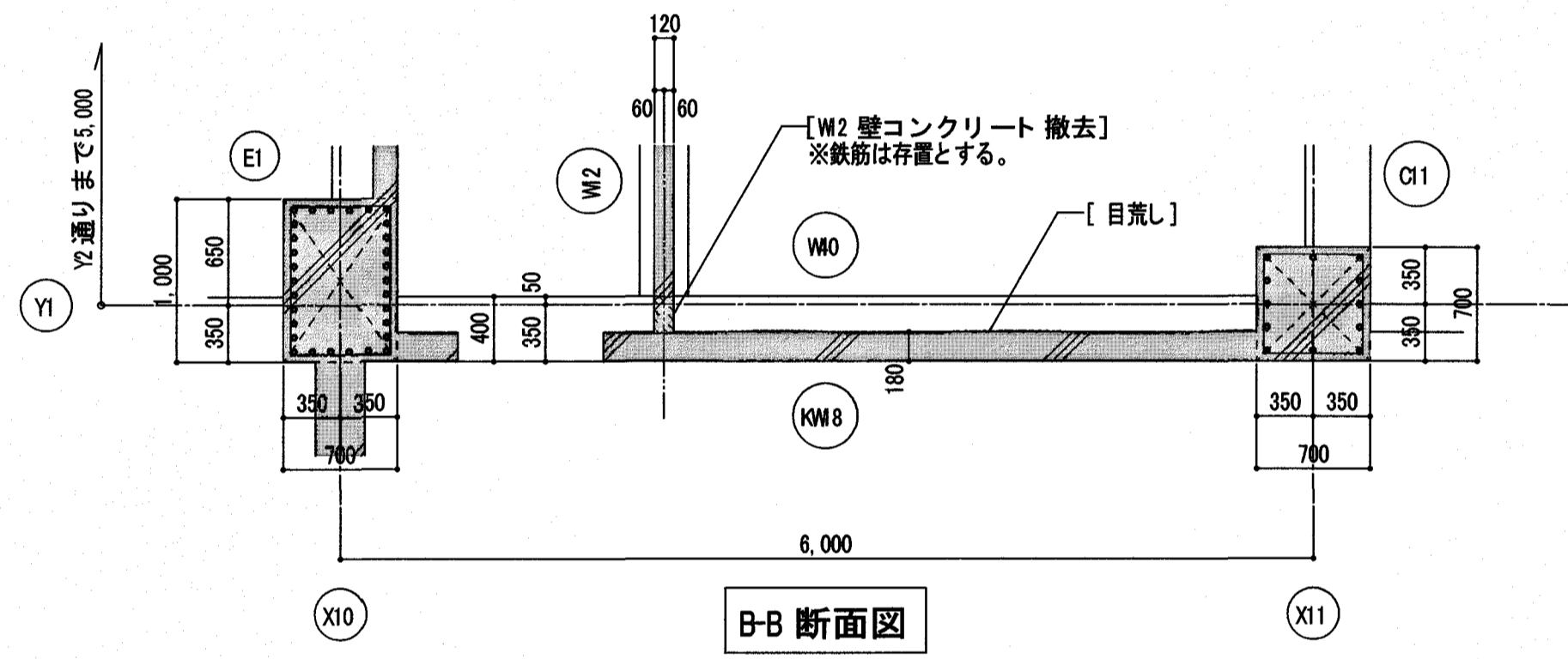
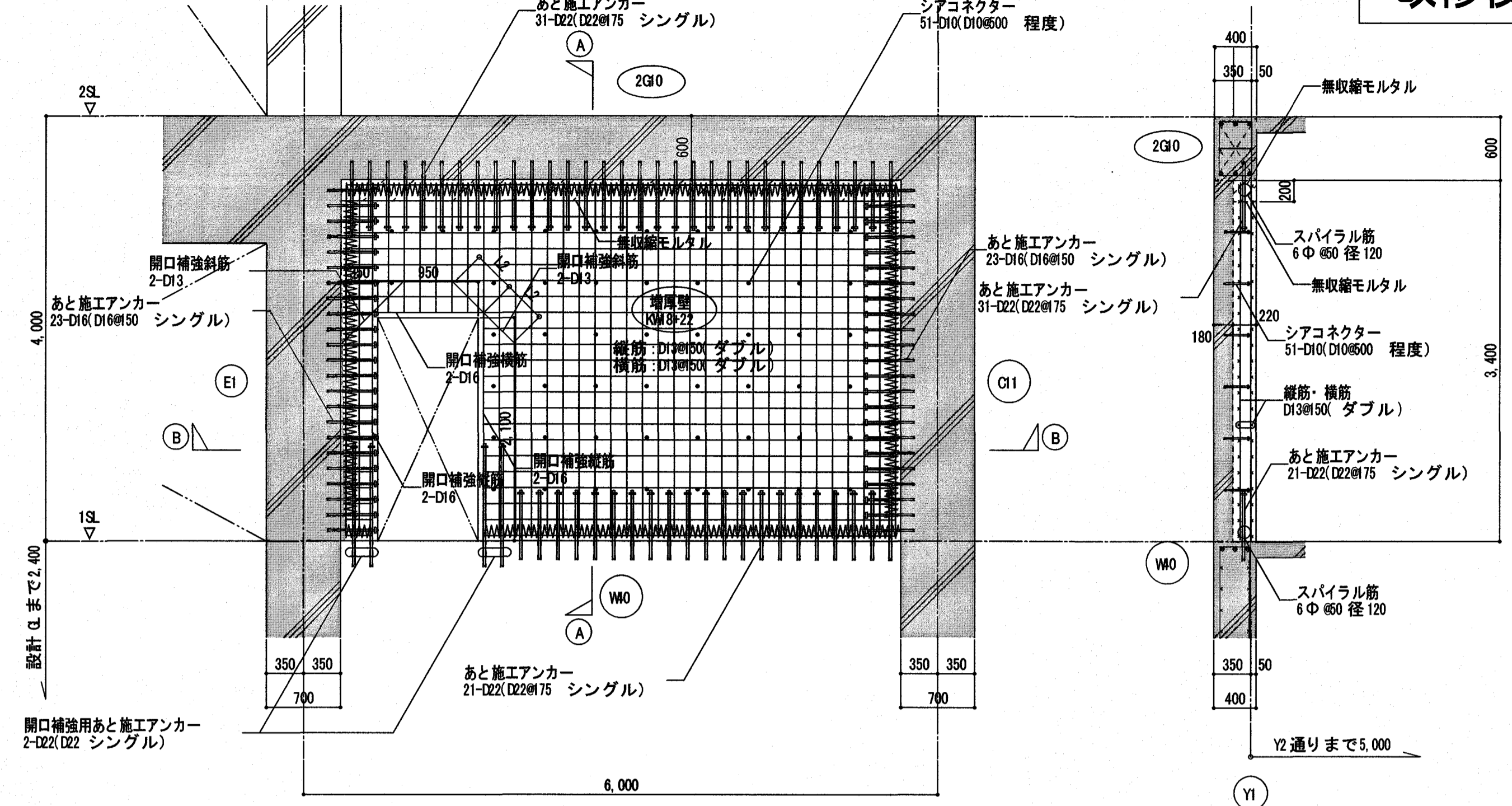
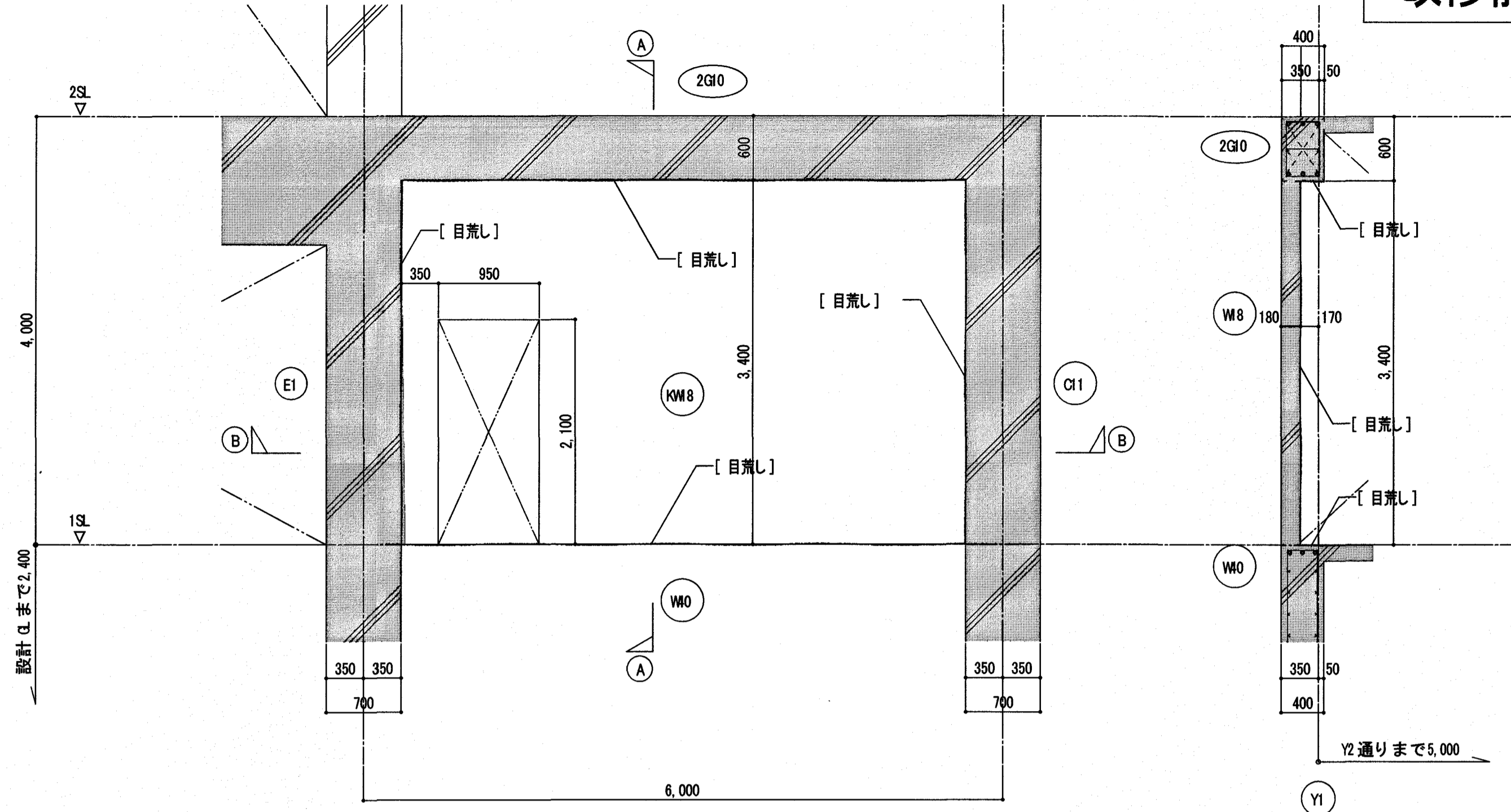
改修後



受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
	一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)	図面名 補強詳細図(3)	縮尺 1/40	作図	年	月	日

改修前

改修後



既存柱リスト

符号	E1	CI1
1階		
Dx × Dy	700×1000	700×700
主筋	32-D25	12-D25
フープ	□-D13@100	□-D13@100
備考		

既存大梁リスト

符号	GI0	
	端部	中央
2階		
B × D	400×600	
上端筋	6-D25	3-D25
下端筋	3-D25	3-D25
スタラップ	□-D13@200	
腹筋	2-D13	
備考		

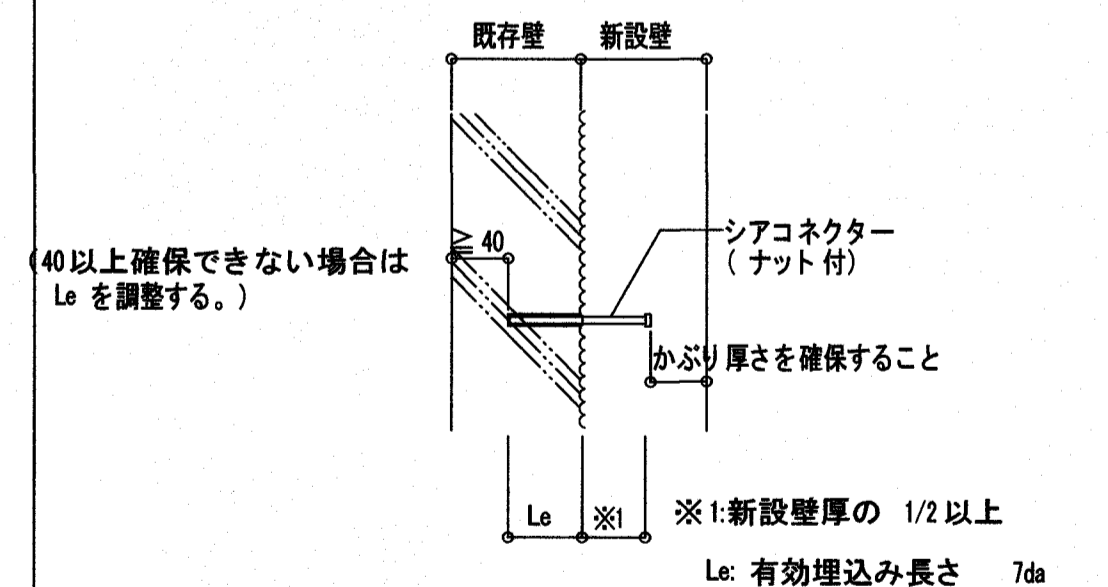
既存壁リスト

符号	W2, KW8, W0		
	全断面	全断面	全断面
断面			
縦筋	D10@250 (シングル)	D10@200 (ダブル)	D13@200 (ダブル)
横筋	D10@250 (シングル)	D10@200 (ダブル)	D13@200 (ダブル)
巾止め筋	-	-	-
備考			

注記

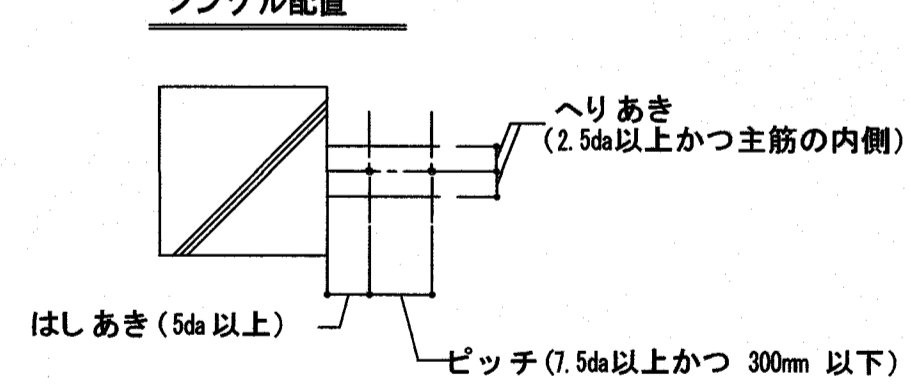
1. コンクリート強度 $F_c=24N/mm^2$ スラブ18cmとする。
2. 使用鉄筋は、6Φ: S235、D16以下: S295、D19以上: S345とする。
3. は既存躯体を示す。
4. [] 内は、改修内容を示す。
5. あと施工アンカーは、ナット付きとする。
6. あと施工アンカーは接着系とし、接着剤の品質は有機系とする。
7. あと施工アンカーの打設部位については、既存躯体の鉄筋位置を調査する事。
8. 補強部材と既存コンクリート躯体との接触面については、既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート又はモルタル打設前に充分水濡しを行うこと。

シアコネクター施工要領図

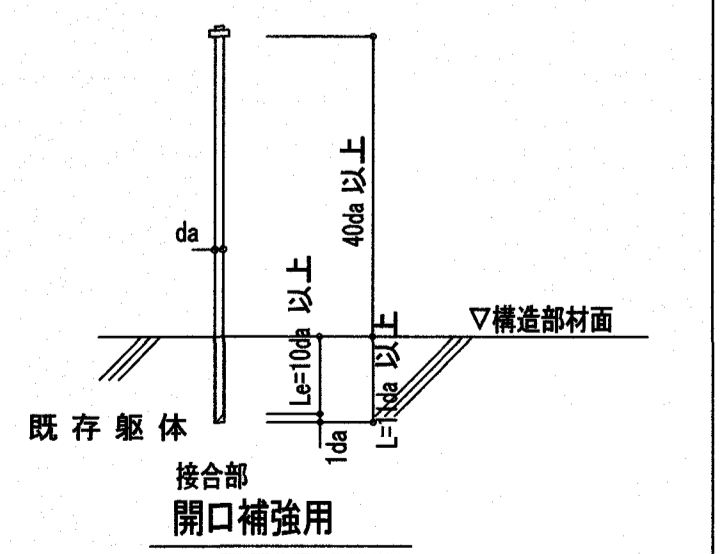
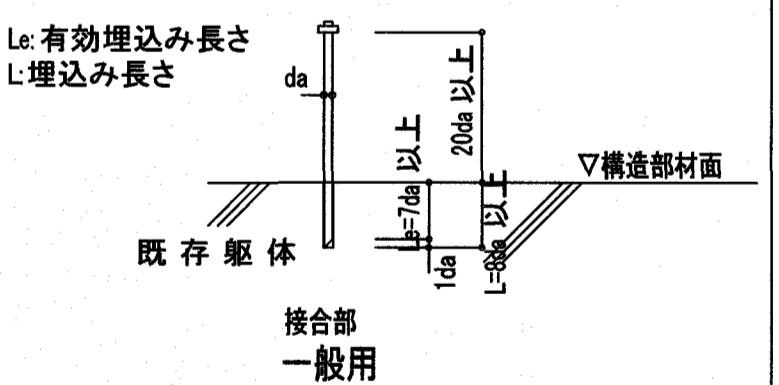


シアコネクターは接着系アンカーとし、D10@500 タテヨコ以内とする。

あと施工アンカー間隔



あと施工アンカー定着・埋め込み長さ



受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名

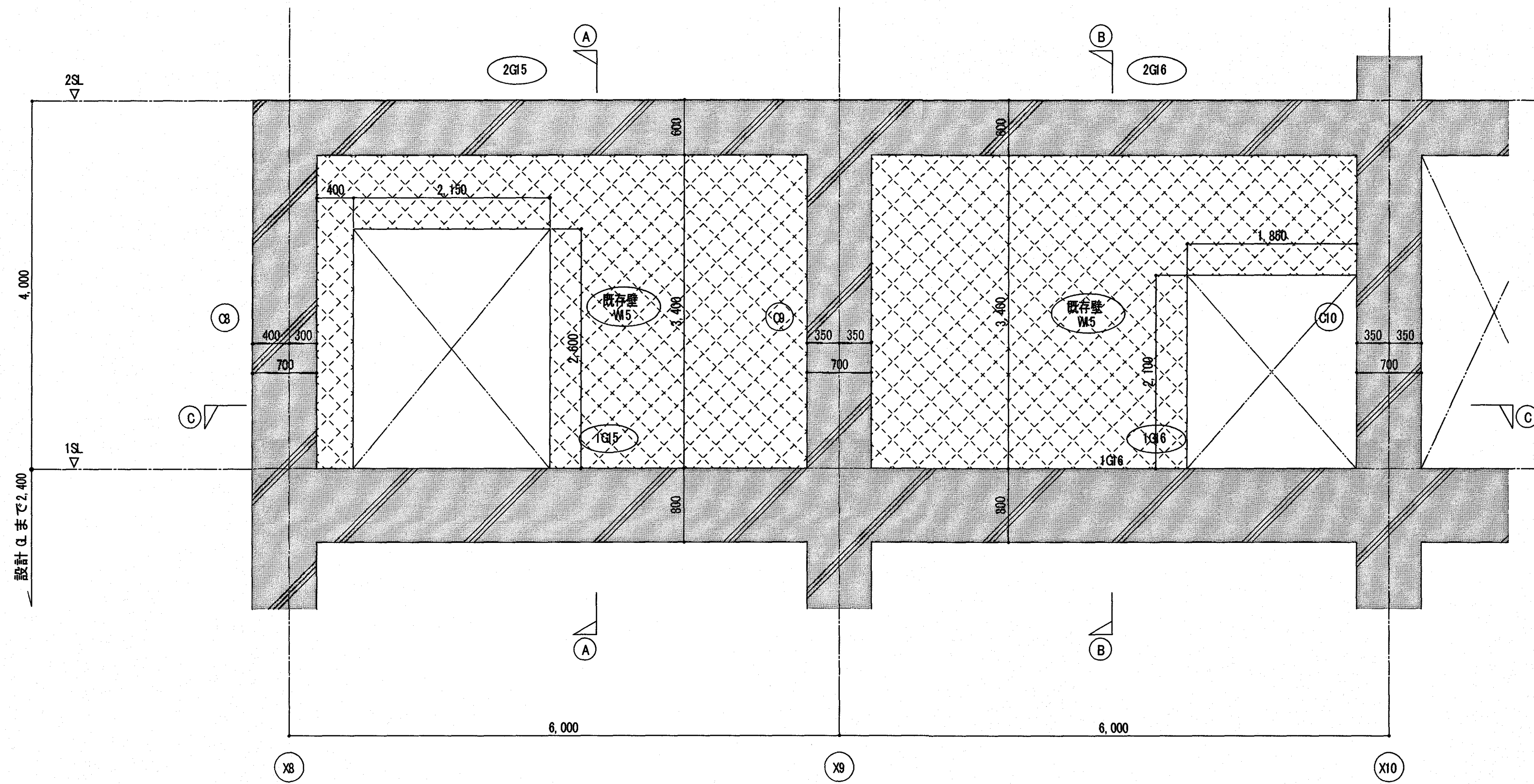
潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)

図面名 補強詳細図 (4)

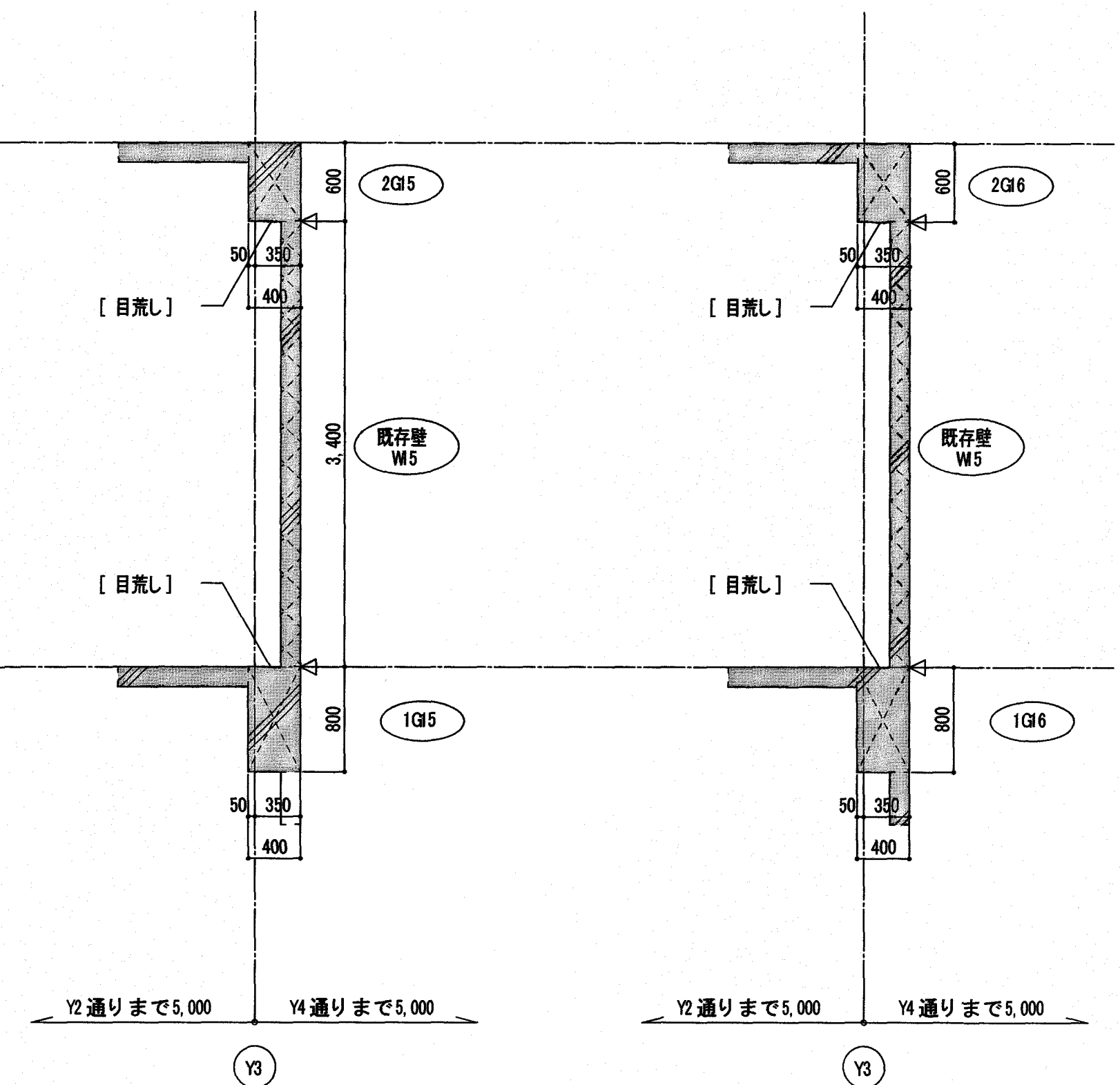
縮尺 1/40

係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日 S-29

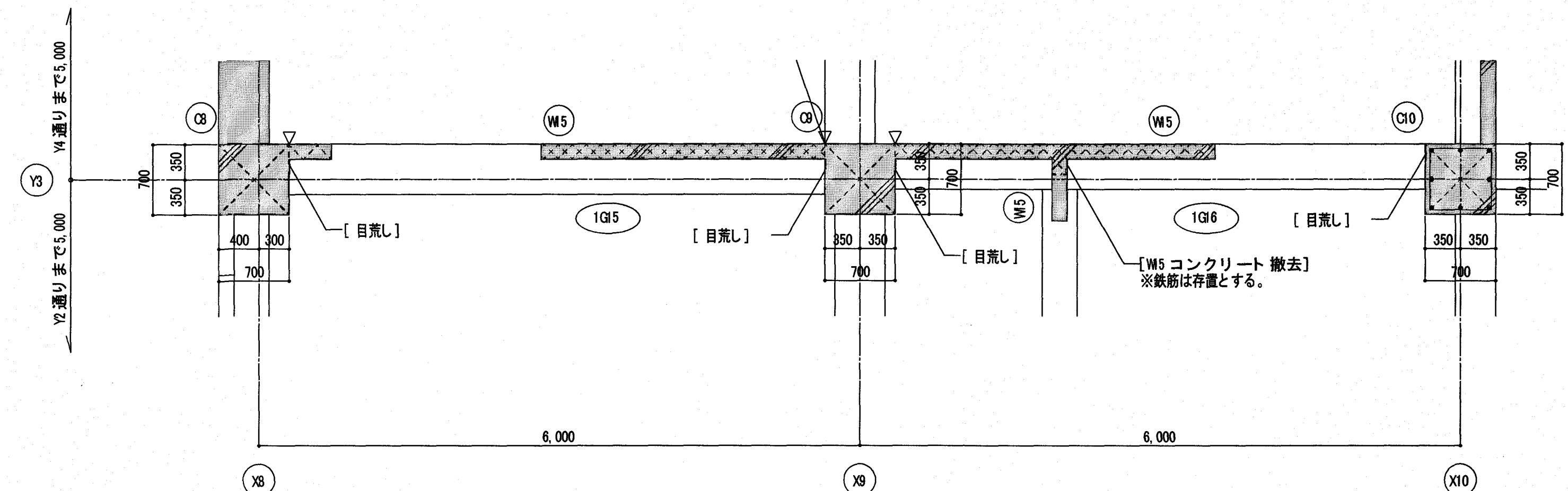


Y3通り詳細図



A-A断面図

B-B断面図



C-C断面図

既存柱リスト

符号	1C3	1C9	1C10
1階			
Dx × Dy	700×700	700×700	700×700
主筋	12-D25	18-D25	8-D25
フープ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
備考			

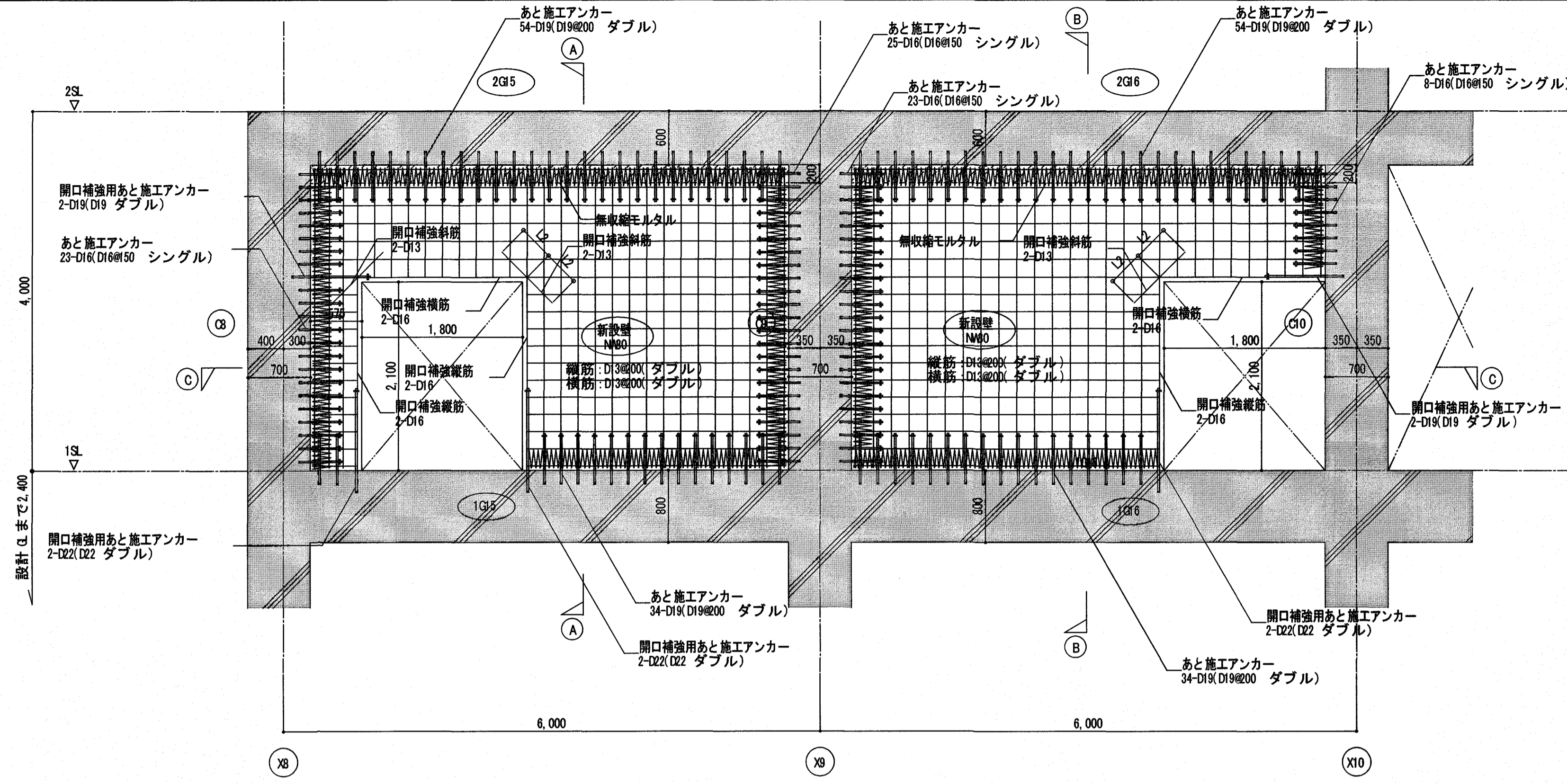
既存壁リスト

符号	W5
位置	全断面
断面	
縦筋	D10@300 チドリ
横筋	D10@300 チドリ
巾止め筋	-
備考	

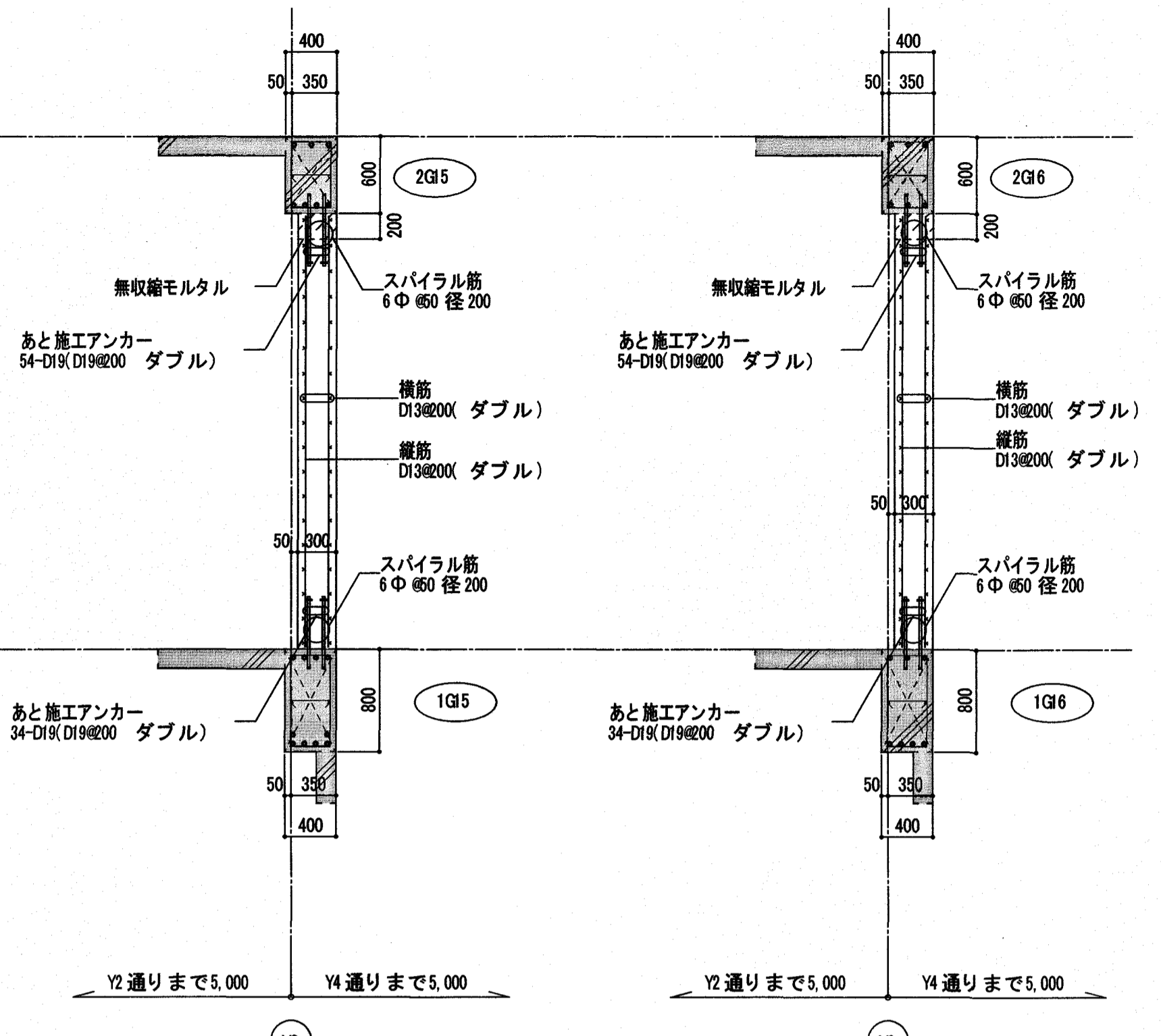
既存大梁リスト

符号	G5			G6		
	X8通り端	中央	X9通り端	X9通り端	中央	X10通り端
2階						
B × D	400×800			400×800		
上端筋	6-D25	3-D25	6-D25	6-D25	3-D25	6-D25
下端筋	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
スタラップ	□-D10@150			□-D13@200		
腹筋	2-D10			2-D13		
備考						
1階						
B × D	400×800			400×800		
上端筋	8-D25	4-D25	6-D25	5-D25	3-D25	6-D25
下端筋	5-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25
スタラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		
腹筋	2-D13			2-D13		
備考						

- 注記 特記なき限り下記による
- は既存躯体を示す。
 - は撤去範囲を示す。
 - [] 内は、改修内容を示す。
 - ▽ はカッター入れを示す。
 - 補強部材と既存コンクリート躯体との接合面については既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート又はモルタル打設前に充分水湿しを行うこと。

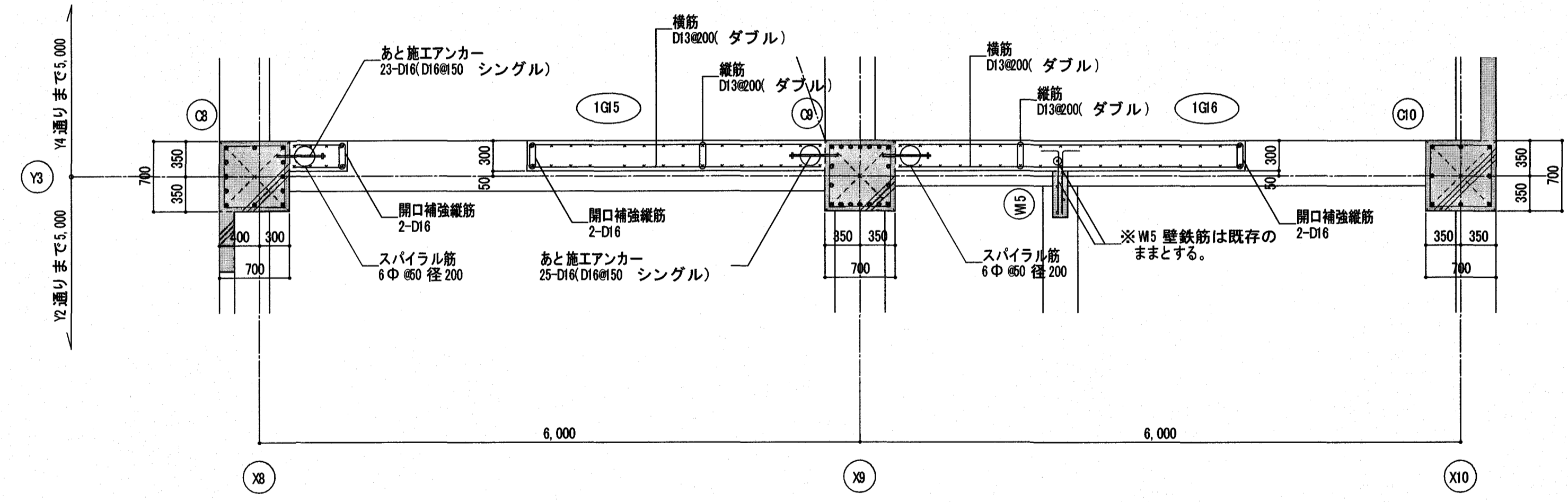


Y3通り詳細図



A-A 断面図

B-B 断面図

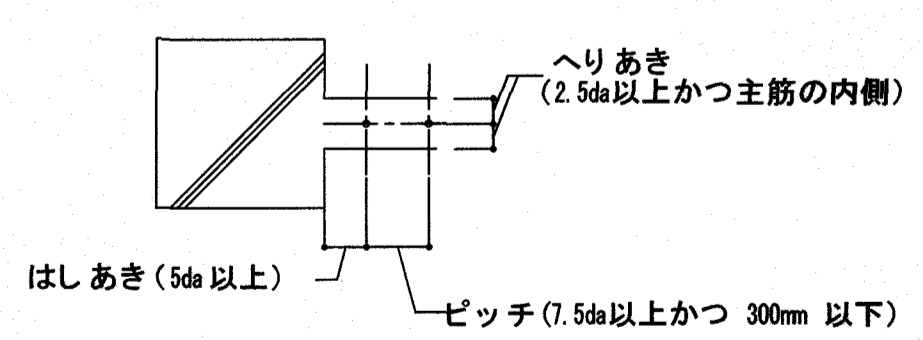


C-C 断面図

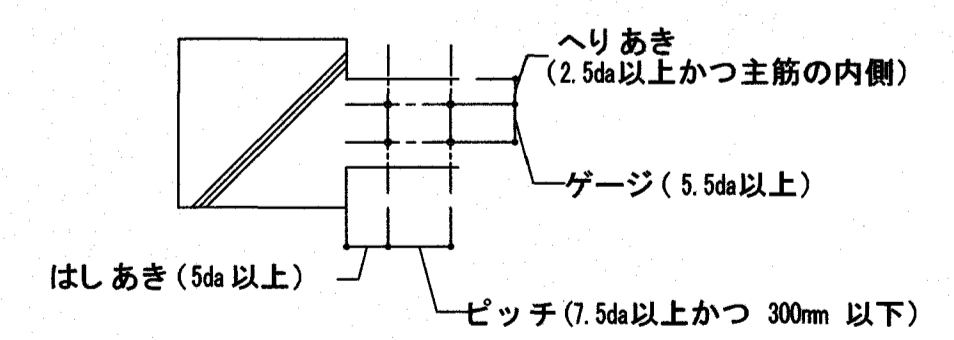
- 注記 特記なき限り下記による
1. コンクリート 強度 $F_c 24N/mm^2$ スランプ 18cm とする。
 2. 使用鉄筋は、6φ: S235、D16以下: S295、D19以上: S345 とする。
 3. は既存躯体を示す。
 4. あと施工アンカーは、ナット付きとする。
 5. あと施工アンカーは接着系とし、接着剤の品質は有機系とする。
 6. あと施工アンカーの打設部位については、既存躯体の鉄筋位置を調査する事。
 7. 補強部材と既存コンクリート躯体との接触面については、既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート又はモルタル打設前に充分水湿しを行うこと。

あと施工アンカー間隔

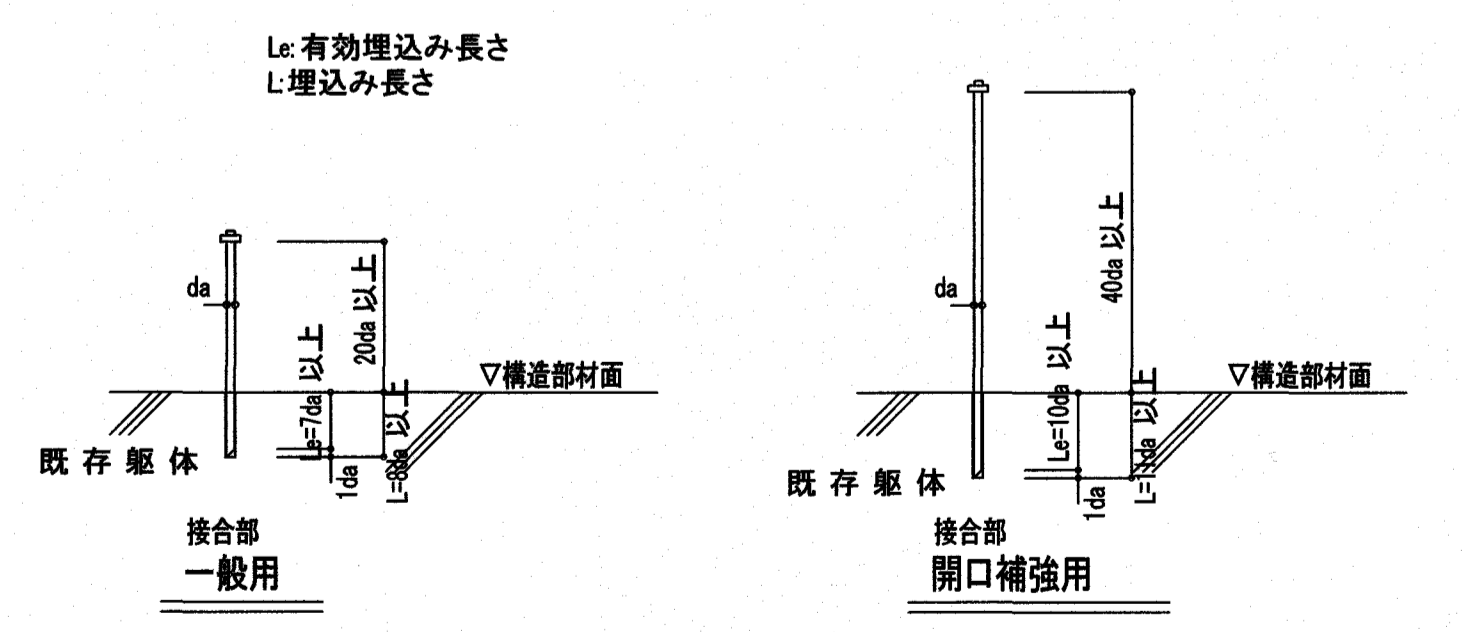
シングル配置



ダブル配置



あと施工アンカー定着・埋め込み長さ



受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
	一級建築士事務所 大阪府知事登録 (予) 第10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)					S-31
	図面名 補強詳細図 (6) 縮尺 1 / 40	作図	年	月	日		